

第44回県政世論調査結果報告書

令和3年7月実施

岐阜県

目 次

I	調査概要.....	1
1. 1	調査の目的.....	1
1. 2	調査の経緯.....	1
1. 3	調査項目.....	1
1. 4	調査の設計.....	1
1. 5	回収結果.....	1
1. 6	標本誤差.....	2
1. 7	報告書の見方.....	2
1. 8	対象者の属性.....	3
II	調査結果.....	8
2. 1	暮らしについて.....	8
問1	くらしの前年比較.....	8
問1-2	くらしが苦しくなったと感じる理由.....	13
問2	くらしの満足度.....	19
問3	生活面での不安.....	24
問4	今後のくらしの中で重視していきたいこと.....	33
問5	生活に必要な情報の入手媒体.....	42
問6	現在住んでいる地域は住みやすいか.....	49
問6-2	住んでいる地域が住みやすいと感じる点.....	53
問6-3	住んでいる地域が住みにくいと感じる点.....	60
問7	今後も岐阜県に住み続けたいか.....	67
2. 2	県の実政全般について.....	71
問8	施策や事業についての情報の入手方法.....	71
問9	県事業への関心の有無.....	78
問9-2	県事業に関心がない理由.....	83
問10	県の実政でよくやっていると思う分野、 努力が足りないと思う分野.....	87
問11	重点的に進めるべきだと思う分野.....	101

I 調査概要

1. 1 調査の目的

県下全域の県民意識の把握とともに、県行政に対する県民の関心、満足度等を調査し、県政推進の基礎資料とする。

1. 2 調査の経緯

昭和42年から実施、今回44回目

※昭和42年～昭和61年：毎年実施 昭和63年～平成18年：隔年実施 平成20年～：毎年実施

1. 3 調査項目

- (1) 暮らしについて
- (2) 県の取組み全般について

1. 4 調査の設計

- (1) 調査地域 岐阜県全域
- (2) 調査対象 県内に居住する満18歳以上の男女個人
- (3) 標本数 3,000人
- (4) 抽出方法 層化二段無作為抽出法
- (5) 調査方法 郵送法・オンライン調査法の併用
- (6) 調査時期 令和3年7月5日～7月26日
- (7) 調査実施機関 株式会社アイランド・ブレイン

1. 5 回収結果

	調査時期	標本数 (A)	回収数 (B)	有効回答数 (C)	回収率 (B/A)	有効回答率 (C/A)	有効回答数の うちオンライン 回答数・割合
第44回 (令和3年度)	令和3年 7月	3,000	1,553	1,553	51.8%	51.8%	383 24.7%
第43回 (令和2年度)	令和2年 7月	3,000	1,569	1,566	52.3%	52.2%	—
第42回 (令和元年度)	令和元年 8月	3,000	1,492	1,488	49.7%	49.6%	—

1. 6 標本誤差

調査結果には統計上多少の誤差が生じることがあるため、調査結果をみる場合、一定の幅を持たせてみる必要がある。その幅を標本誤差といい、以下の式で表される。

$$\text{標本誤差} = \pm 1.96 \sqrt{\frac{P(100-P)}{n}} \quad (\text{ただし、} P : \text{回答比率} \quad n : \text{回答者数})$$

すなわち、標本誤差の幅は①回答者数 (n) 及び②回答比率 (P) によって異なる。上式を用いた各回答者数、回答比率における標本誤差を以下の表に示す。

		P (回答比率 %)									
		5 又 は 95	10 又 は 90	15 又 は 85	20 又 は 80	25 又 は 75	30 又 は 70	35 又 は 65	40 又 は 60	45 又 は 55	50
n (回答者数 人)											
総数	1,553	1.1	1.5	1.8	2.0	2.2	2.3	2.4	2.4	2.5	2.5

(注) 1. 層化を行った場合、誤差は上表より若干増減することもある。

2. この表の見方は以下のとおりである。

「ある設問の回答者数が 1,553 人であり、その設問中の選択肢の回答比率が 50%であった場合、その回答比率の誤差の範囲は最高でも±2.5%である。」

1. 7 報告書の見方

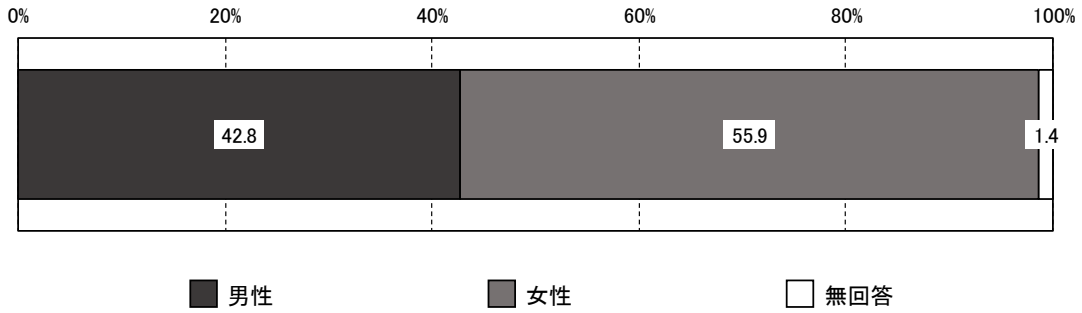
- (1) 比率は全てパーセントで表し、小数点第 2 位を四捨五入して算出した。そのため、パーセントの合計が 100.0%にならない場合がある。
- (2) 基数となるべき実数は「n」(件数)として掲載した。したがって比率は、n を 100%として算出している。
- (3) 複数回答が可能な設問では総回答数を「N」として掲載した。その場合、その項目を選んだ人が、回答者全体のうち何%を占めるのかという見方をする。したがって、各項目の比率の合計は、通常 100%を超える。
- (4) 本報告書中の表、グラフ及び本文で使われている選択肢の表現は、本来の意味を損なわない程度に省略している場合がある。
- (5) クロス集計において、年代別の 18~19 歳の属性はサンプル数が少なく、分析に堪えないことからグラフへの表示及び分析を行っていない。

1. 8 対象者の属性

F-1 性別

図 F-1 性別

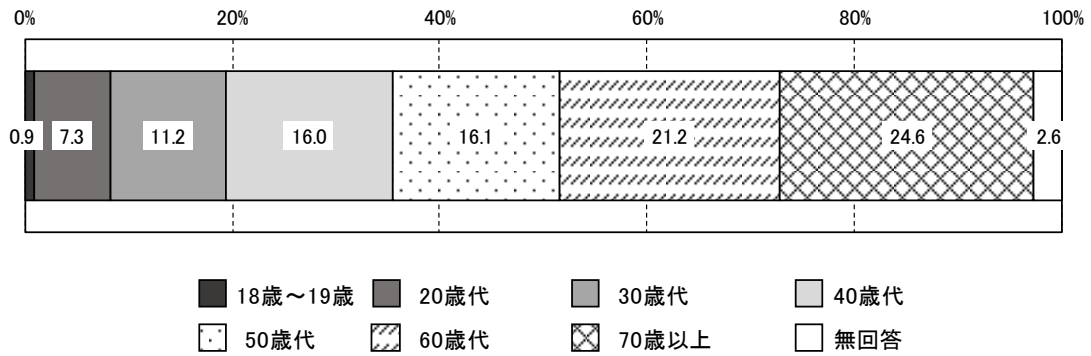
回答者数 (n = 1,553)



F-2 年代

図 F-2 年代

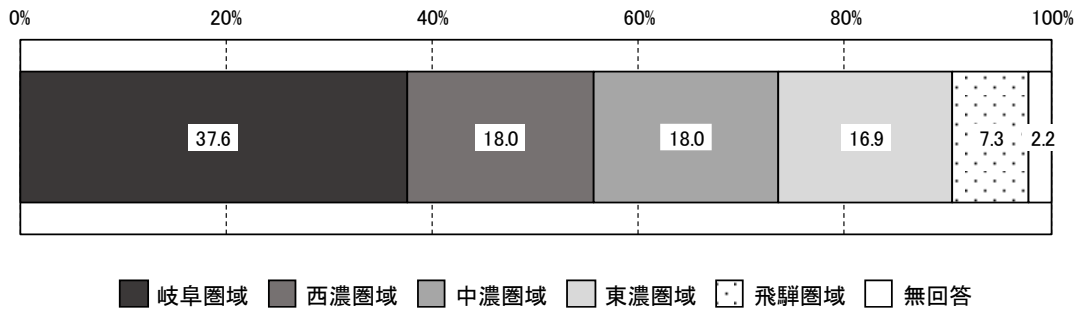
回答者数 (n = 1,553)



F-3 居住圏域（5分類）

図 F-3 居住圏域（5分類）

回答者数 (n = 1,553)

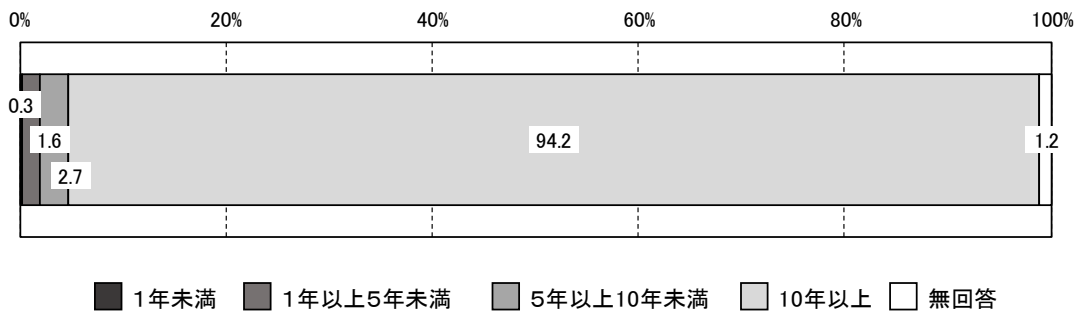


岐阜圏域（岐阜市・羽島市・各務原市・山県市・瑞穂市・本巣市・岐南町・笠松町・北方町）
西濃圏域（大垣市・海津市・養老町・垂井町・関ヶ原町・神戸町・輪之内町・安八町・揖斐川町・大野町・池田町）
中濃圏域（関市・美濃市・美濃加茂市・可児市・郡上市・坂祝町・富加町・川辺町・七宗町・八百津町・白川町・東白川村・御嵩町）
東濃圏域（多治見市・中津川市・瑞浪市・恵那市・土岐市）
飛騨圏域（高山市・飛騨市・下呂市・白川村）

F-4 居住年数

図 F-4 居住年数

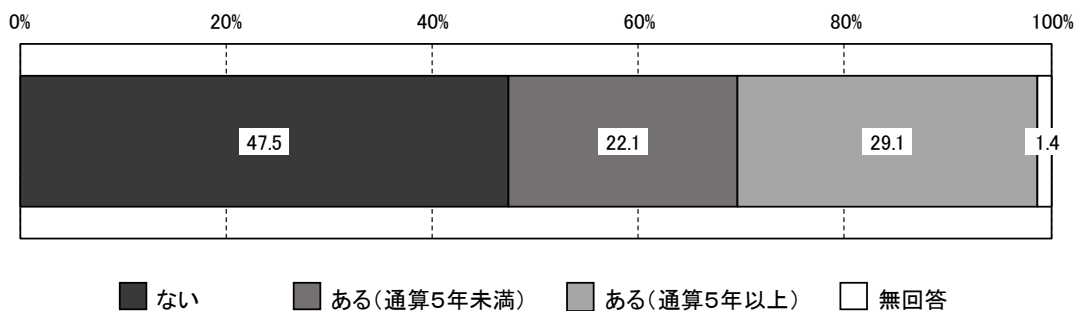
回答者数 (n = 1,553)



F-5 県外居住経験の有無

図 F-5 県外居住経験の有無

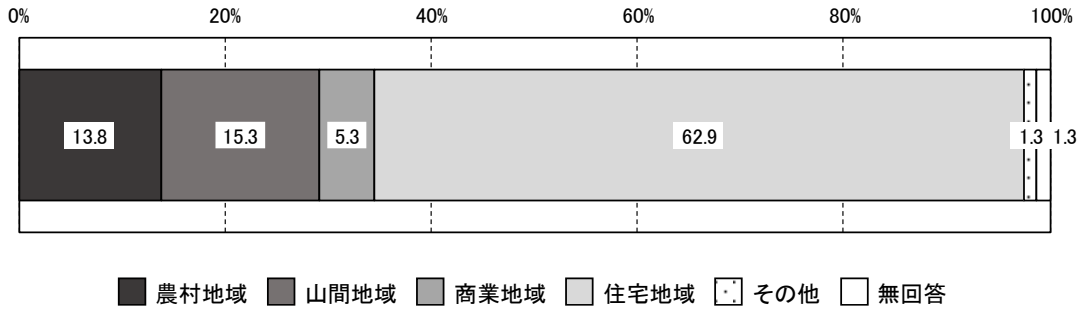
回答者数 (n = 1,553)



F-6 居住地周囲の環境

図 F-6 居住地周囲の環境

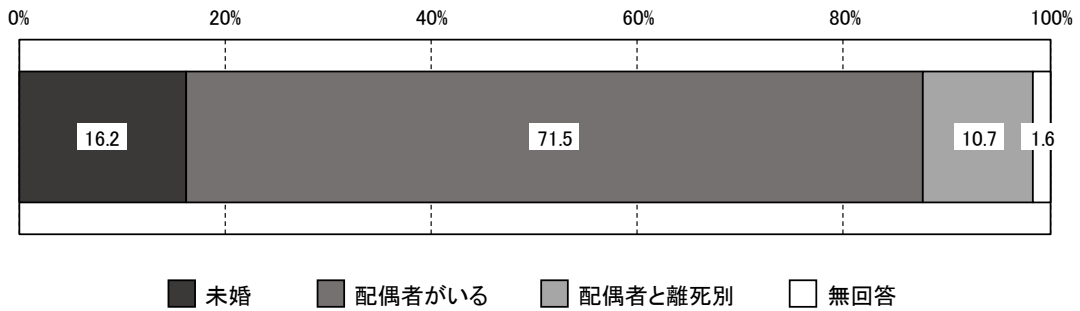
回答者数 (n = 1,553)



F-7 配偶者の有無

図 F-7 配偶者の有無

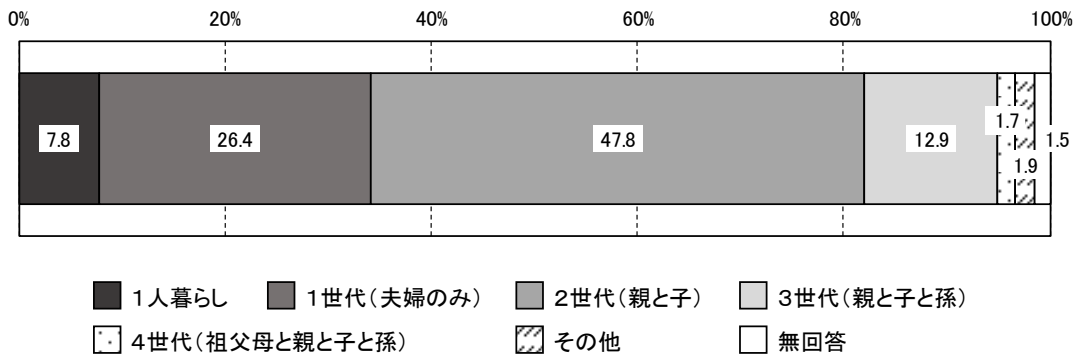
回答者数 (n = 1,553)



F-8 家族形態

図 F-8 家族形態

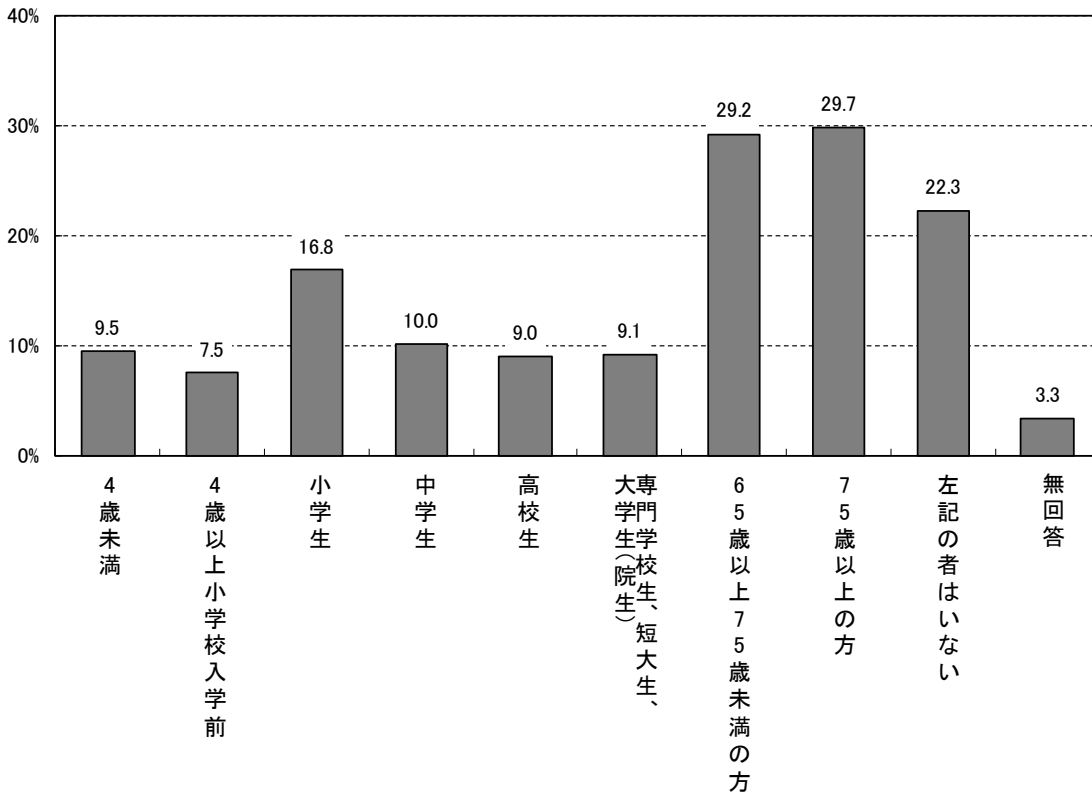
回答者数 (n = 1,553)



F-9 家族構成

図 F-9 家族構成

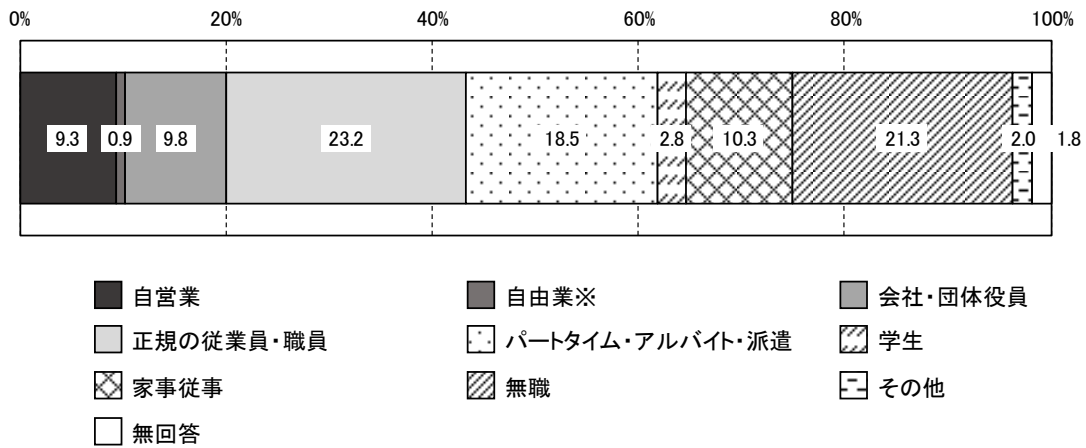
回答者数 (n = 1,553)
 総回答数 (N = 2,276)



F-10 職業

図 F-10 職業

回答者数 (n = 1,553)

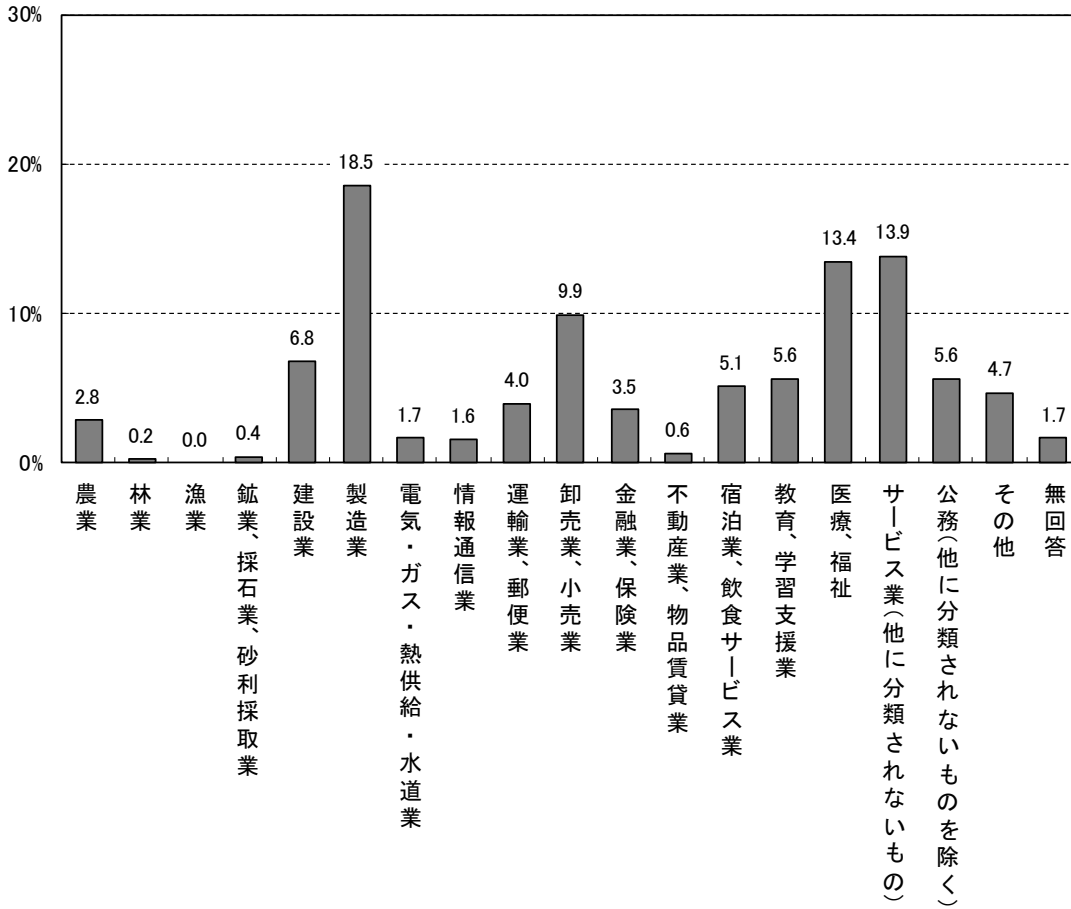


※ 自由業：一定の雇用関係によらず、勤務時間その他の制約を受けない職業で、作家、弁護士、医師、会計士、税理士、芸術家など

F-11 業種

図 F-11 業種

回答者数 (n = 960)※

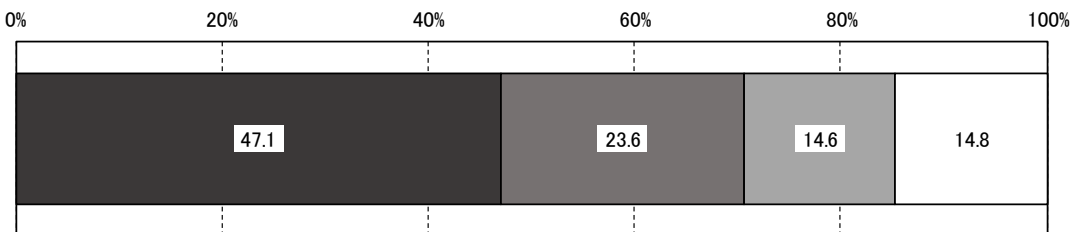


※ 「F-10 職業」で、自営業、自由業、会社・団体役員、正規の従業員・職員、パートタイム・アルバイト・派遣と答えた方のみ

F-12 通勤、通学先

図 F-12 通勤、通学先

回答者数 (n = 1,003)※



■ 居住している市町村 ■ 県内の他の市町村 ■ 県外の市町村 □ 無回答

※ 「F-10 職業」で、自営業、自由業、会社・団体役員、正規の従業員・職員、パートタイム・アルバイト・派遣、学生と答えた方のみ

Ⅱ 調査結果

2. 1 暮らしについて

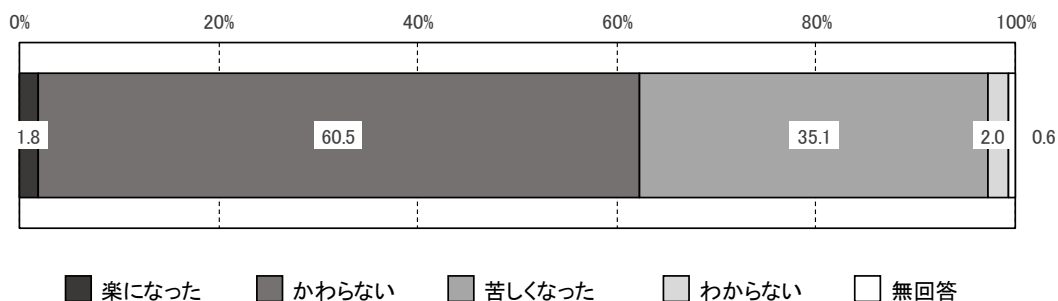
問1 暮らしの前年比較

問1 あなたやあなたの家庭の暮らし向き（家計など）は、去年の今頃と比べてどうですか。
（1つだけ）

全体（図 1-1）で見ると、「かわらない」が 60.5%と最も高く、次いで「苦しくなった」（35.1%）、「わからない」（2.0%）、「楽になった」（1.8%）の順となっている。

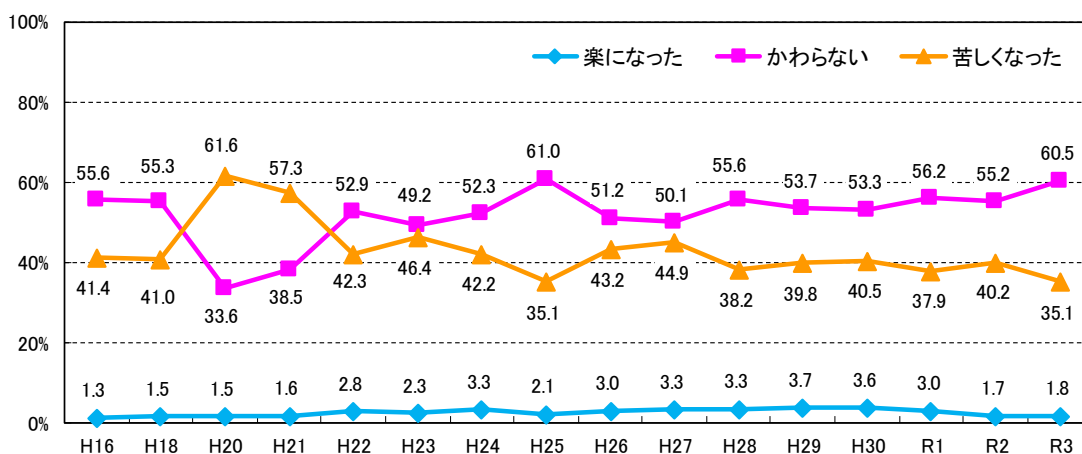
図 1-1 暮らしの前年比較

回答者数 (n = 1,553)



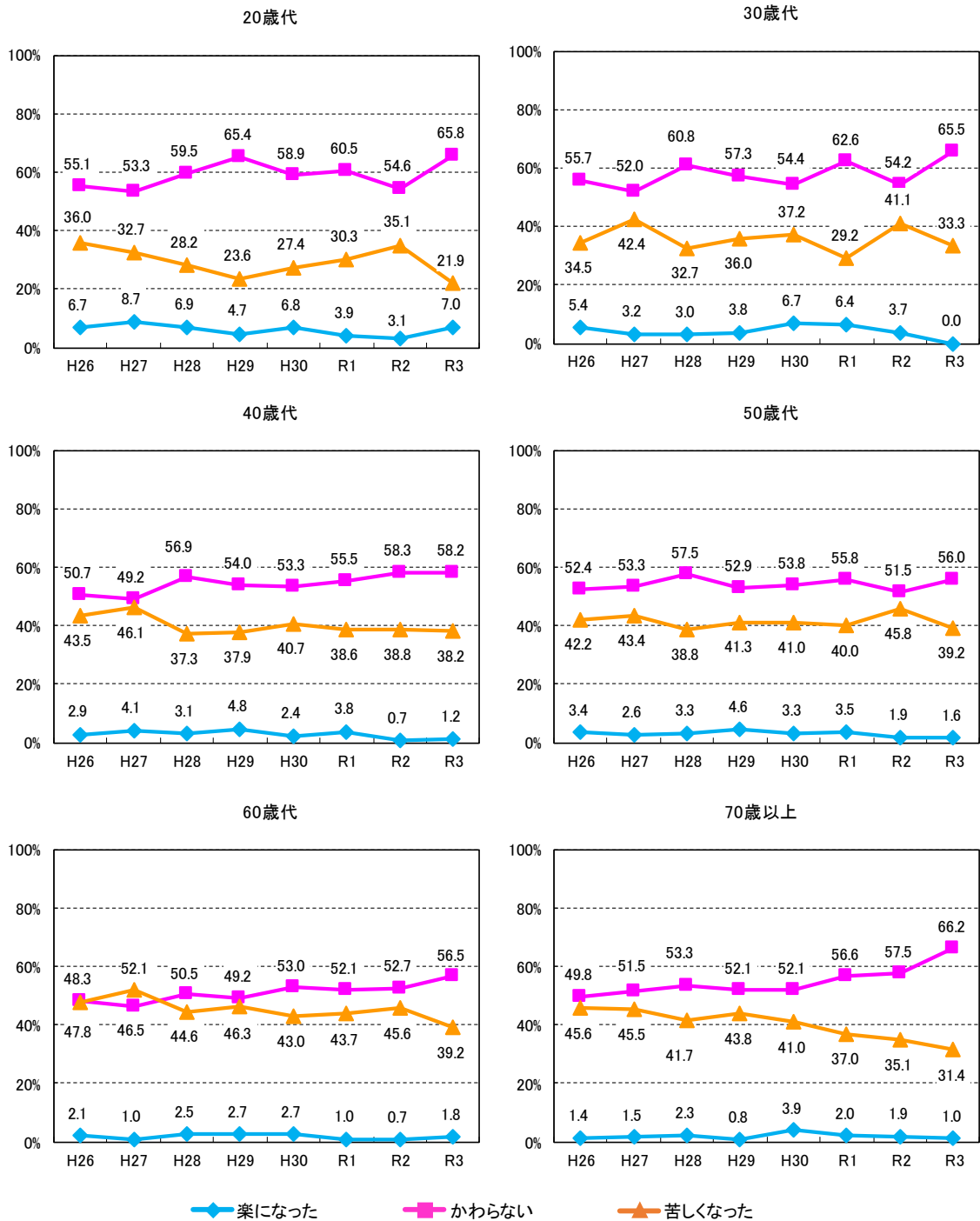
経年変化（図 1-2）で見ると、平成 22 年からは一貫して「かわらない」が最も高くなっている。令和 3 年は、令和 2 年より「楽になった」が 0.1 ポイント高くなっており、「苦しくなった」が 5.1 ポイント低くなっている。

図 1-2 【経年変化】暮らしの前年比較



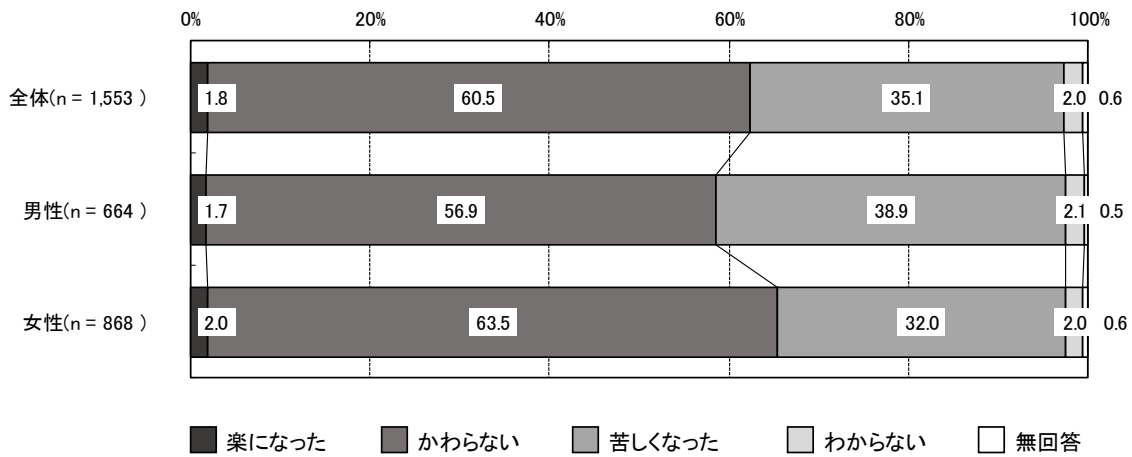
年代別の経年変化（図 1-3）で見ると、令和 3 年では令和 2 年に比べ、いずれの年代においても「苦しくなった」が減少しており、そのうち 20 歳代が 13.2 ポイントと最も減少幅が大きい。一方、「楽になった」は、20 歳代、40 歳代、60 歳代において増加している。

図 1-3 【経年変化(年代別)】 暮らしの前年比較



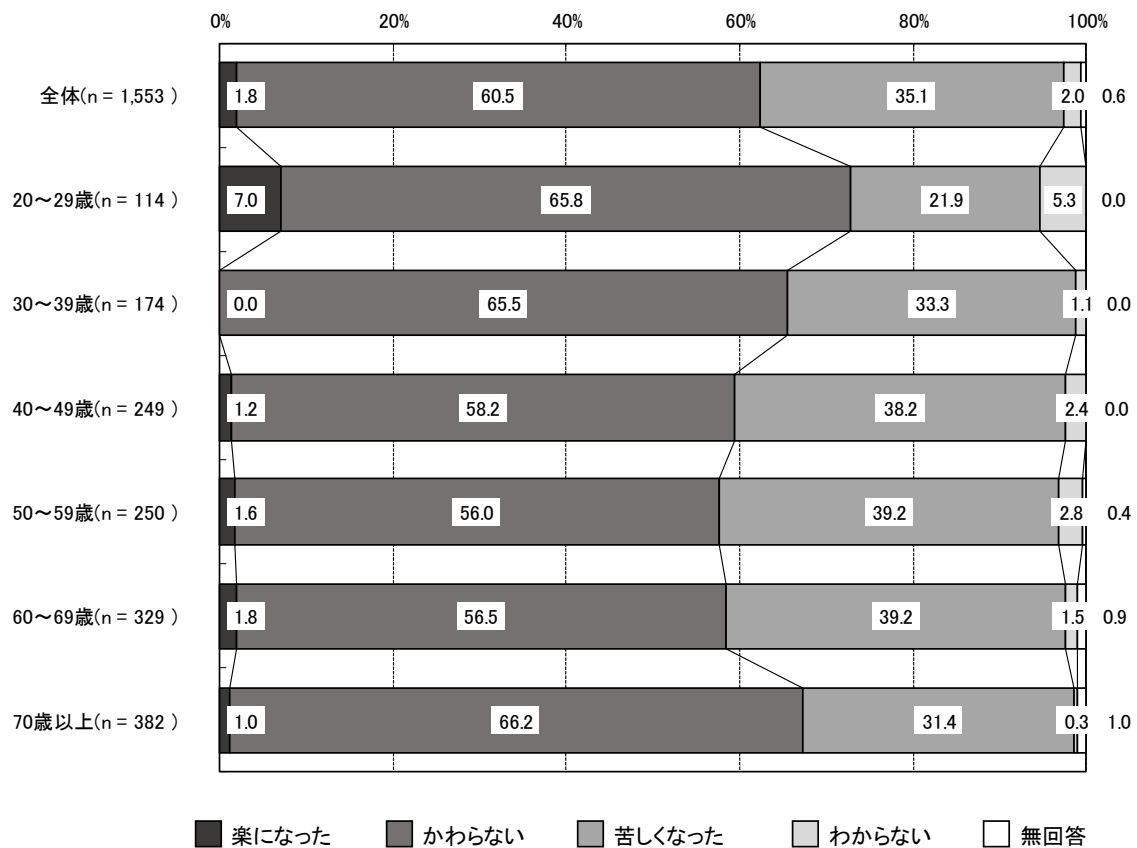
性別（図 1-4）で見ると、男女ともに「かわらない」が最も高く、男性が 56.9%、女性が 63.5%となっており、女性が男性より 6.6 ポイント高くなっている。

図 1-4 【性別】くらしの前年比較



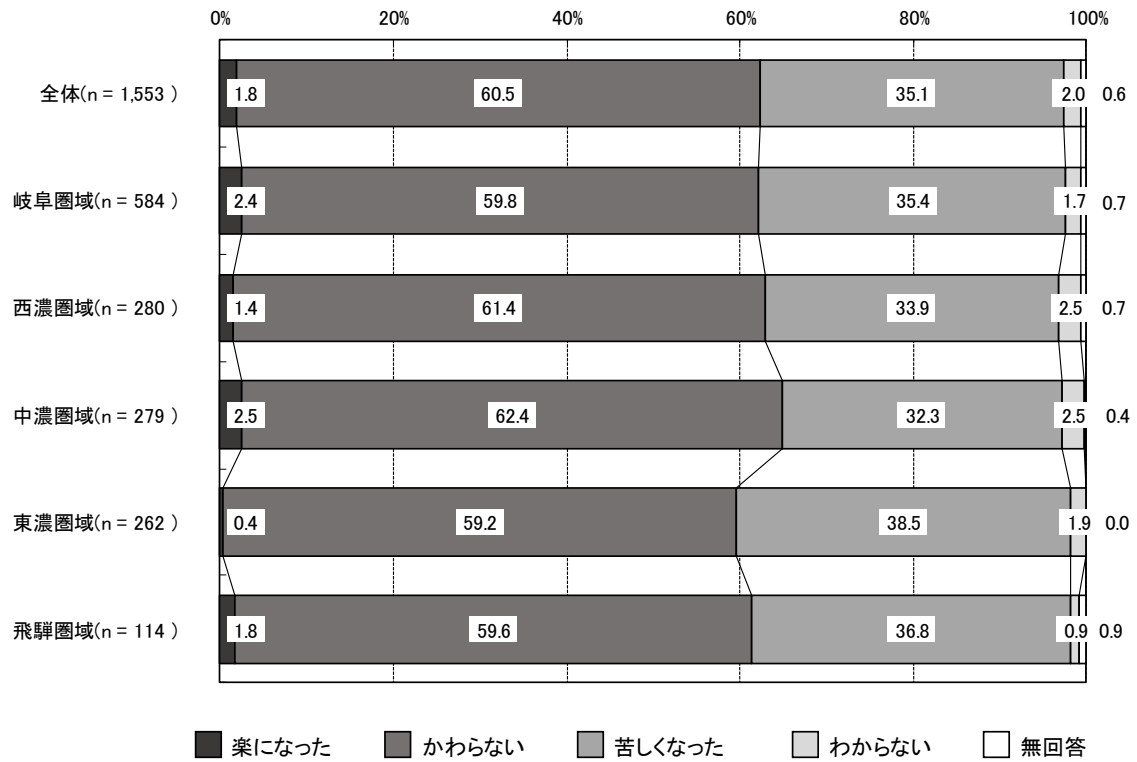
年代別（図 1-5）で見ると、いずれの年代においても「かわらない」が最も高く、そのうち 70 歳以上が 66.2%と最も高くなっている。

図 1-5 【年代別】くらしの前年比較



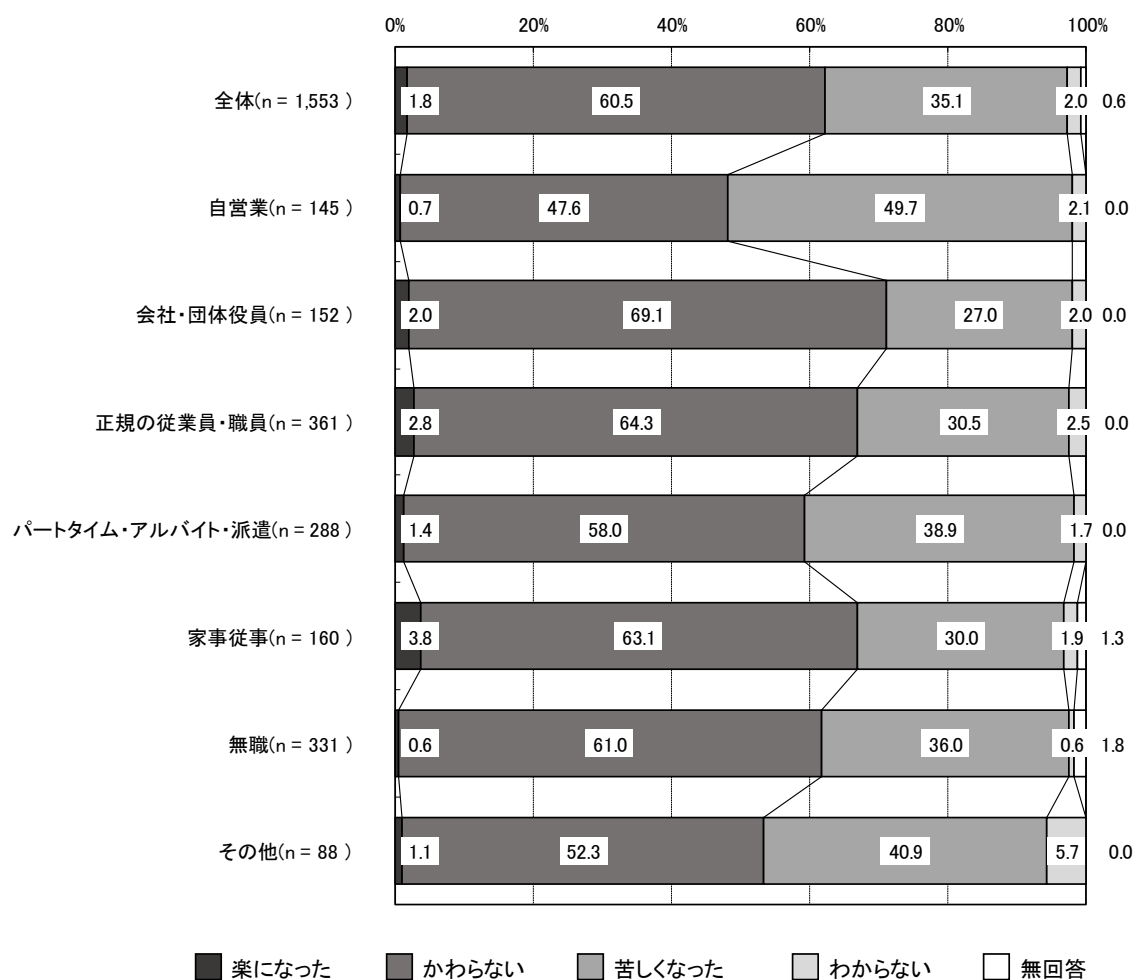
居住圏域別（図 1-6）でみると、いずれの圏域においても「かわらない」が最も高く、そのうち中濃圏域が 62.4%と最も高くなっている。「苦しくなった」は、東濃圏域が 38.5%と最も高くなっている。

図 1-6 【居住圏域別】 暮らしの前年比較



職業別（図 1-7）で見ると、自営業を除くいずれの職業においても「かわらない」が最も高く、自営業では「苦しくなった」が最も高くなっている。

図 1-7 【職業別】 暮らしの前年比較



※ その他には、自由業、学生を含む。

問1-2 暮らしが苦しくなったと感じる理由

問1-2 「苦しくなった」と答えた方にお尋ねします。

あなたが、暮らしが苦しくなったと感じるのは、どのような理由からですか。

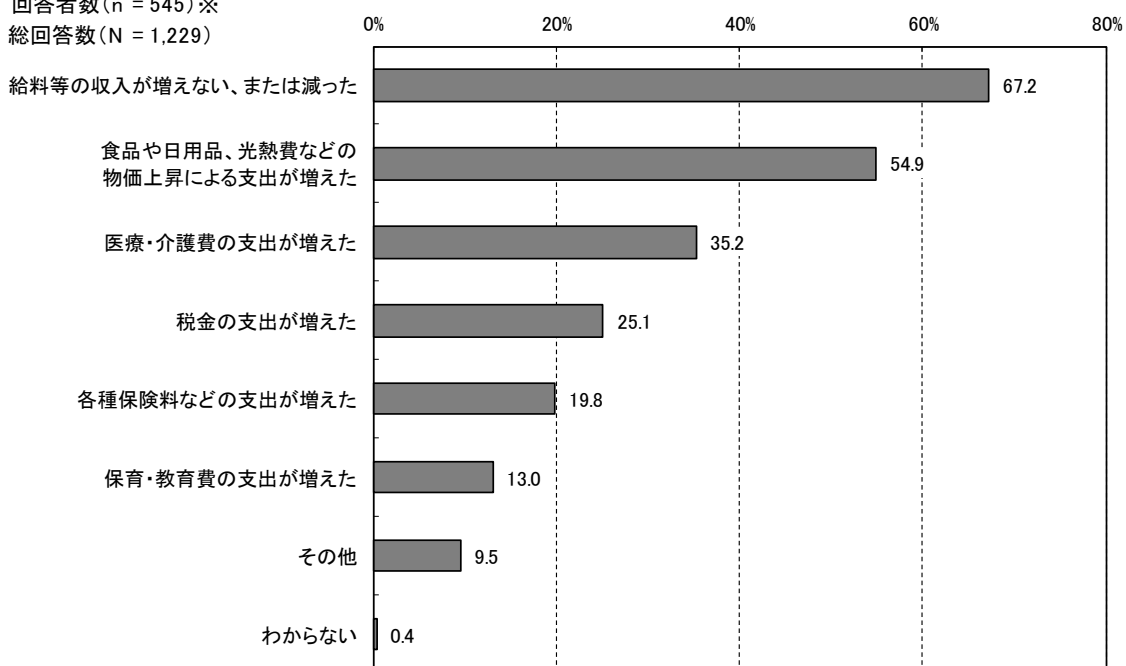
(3つまで)

全体(図1-2-1)で見ると、「給料等の収入が増えない、または減った」が67.2%と最も高く、次いで「食品や日用品、光熱費などの物価上昇による支出が増えた」(54.9%)、「医療・介護費の支出が増えた」(35.2%)の順となっている。

図1-2-1 暮らしが苦しくなったと感じる理由

回答者数(n = 545)※

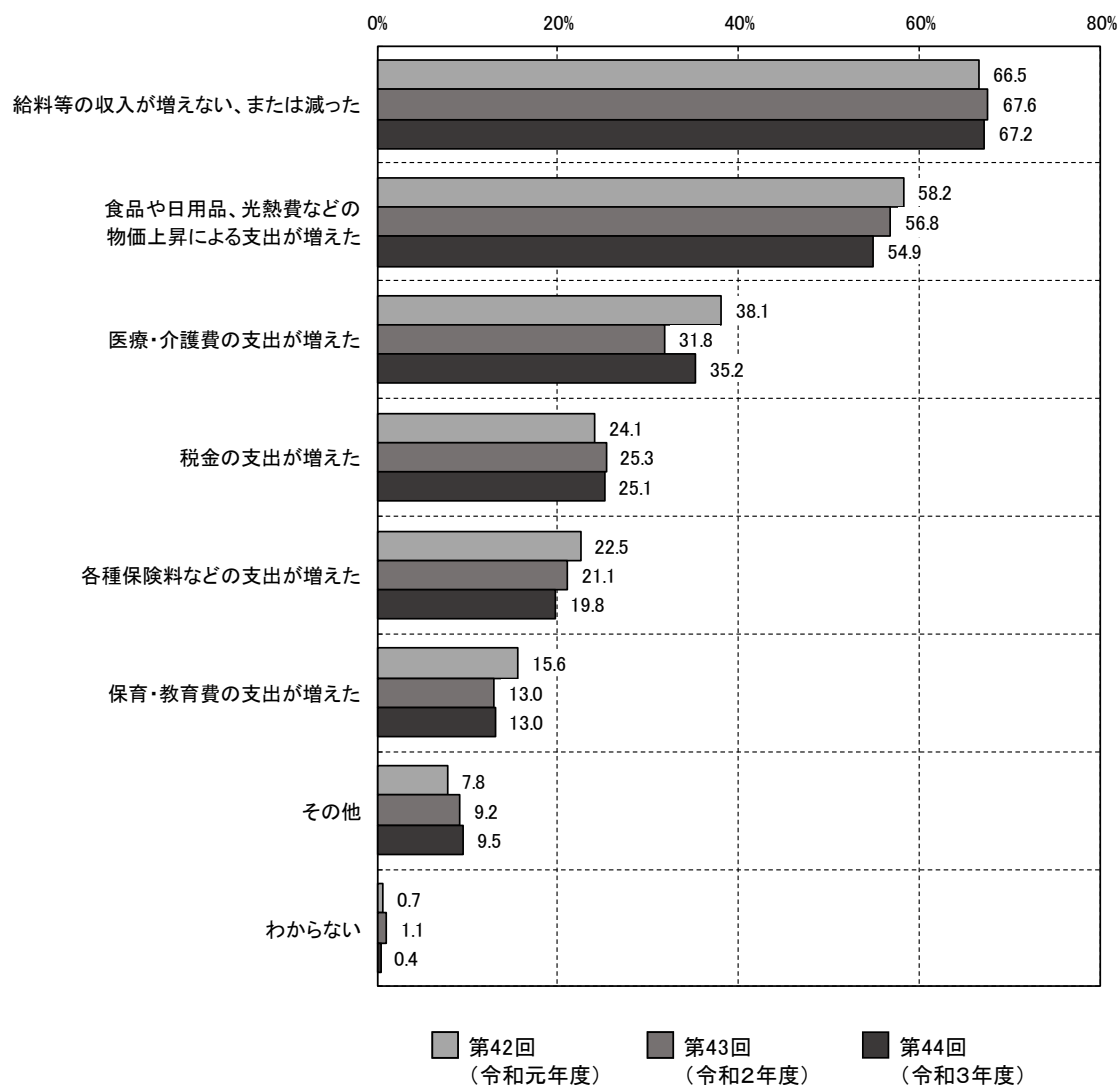
総回答数(N = 1,229)



※ 問1で「苦しくなった」と答えた方のみ

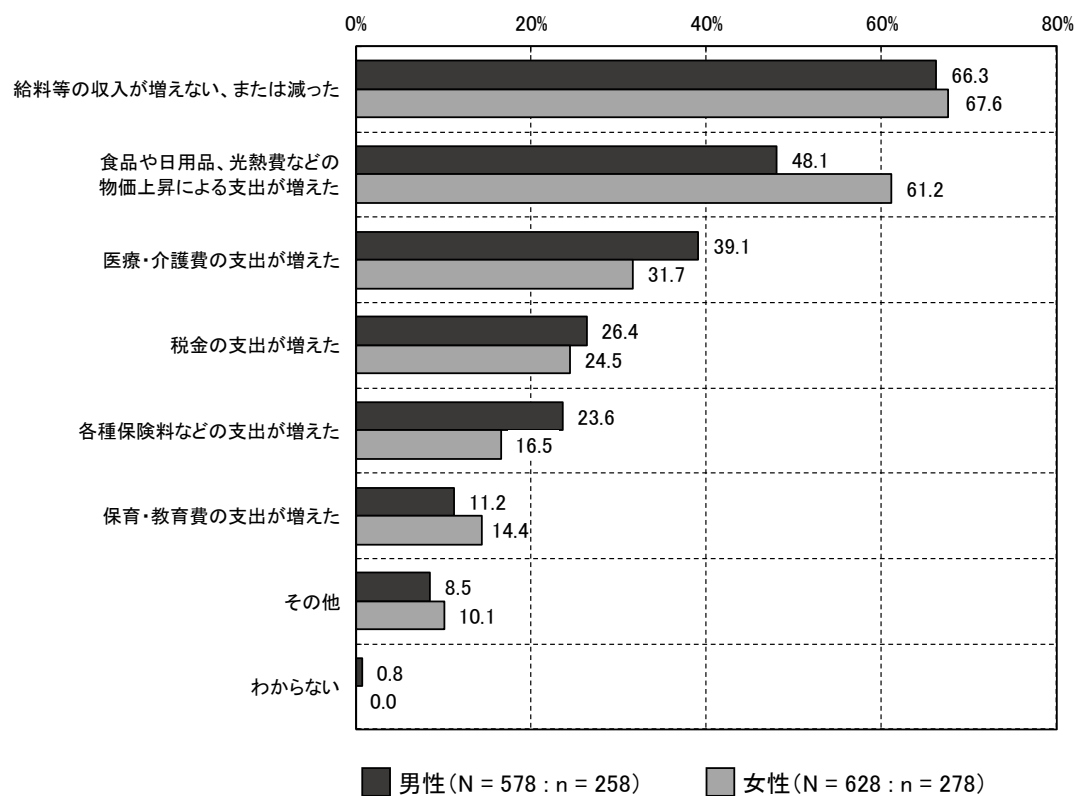
前々回・前回比較（図 1-2-2）で見ると、「食品や日用品、光熱費などの物価上昇による支出が増えた」は年々低くなっている。「医療・介護費の支出が増えた」は前回に比べて 3.4 ポイント高くなっている。

図 1-2-2 【前々回・前回比較】くらしが苦しくなったと感じる理由



性別（図 1-2-3）で見ると、男女ともに「給料等の収入が増えない、または減った」が最も高くなっている。「食品や日用品、光熱費などの物価上昇による支出が増えた」は女性が男性より 13.1 ポイント高く、「医療・介護費の支出が増えた」は男性が女性より 7.4 ポイント高くなっている。

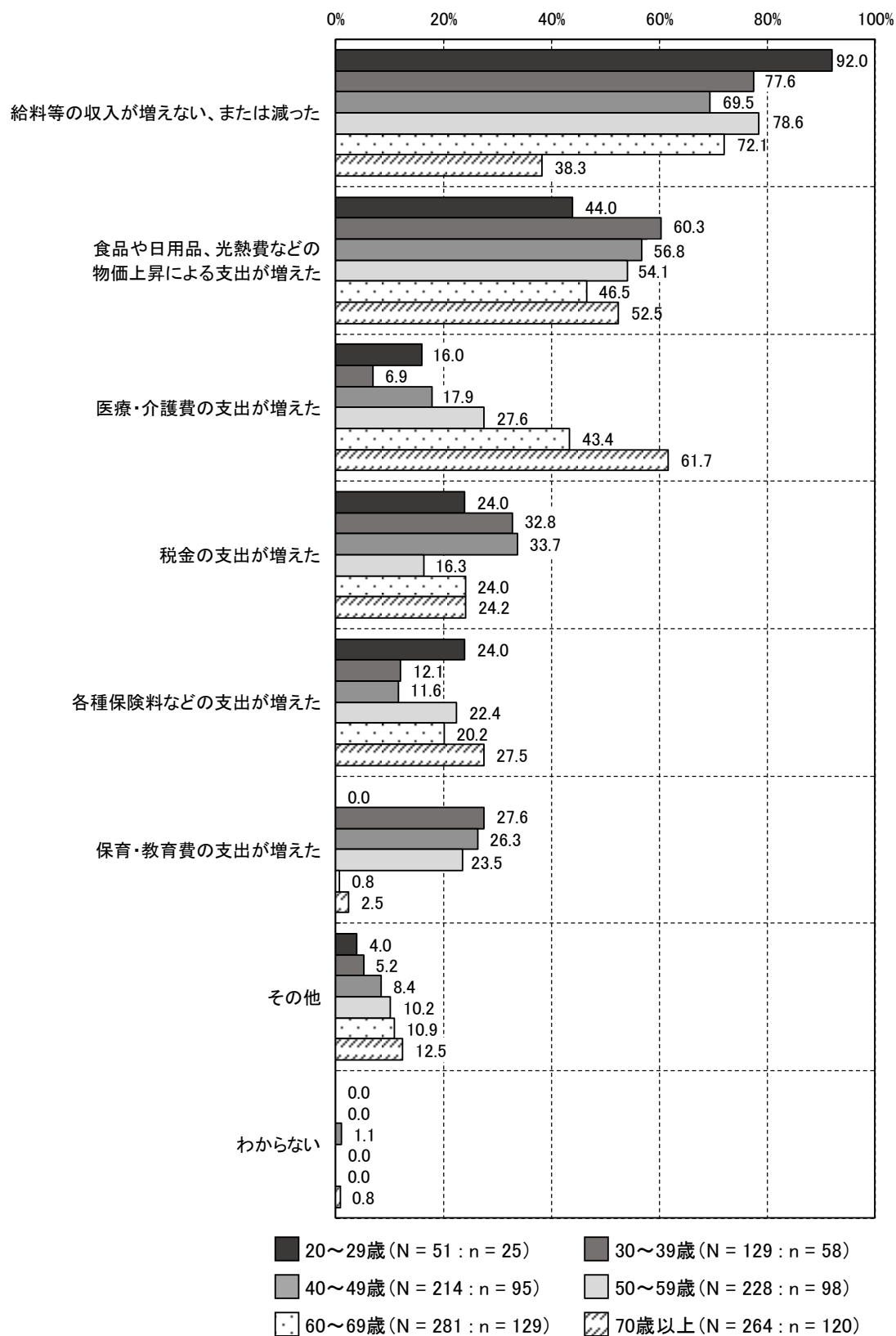
図 1-2-3 【性別】くらしが苦しくなったと感じる理由



※ N=総回答数 n=回答者数

年代別（図 1-2-4）でみると、70 歳以上を除くいずれの年代においても「給料等の収入が増えない、または減った」が最も高く、70 歳以上では「医療・介護費の支出が増えた」が最も高くなっている。

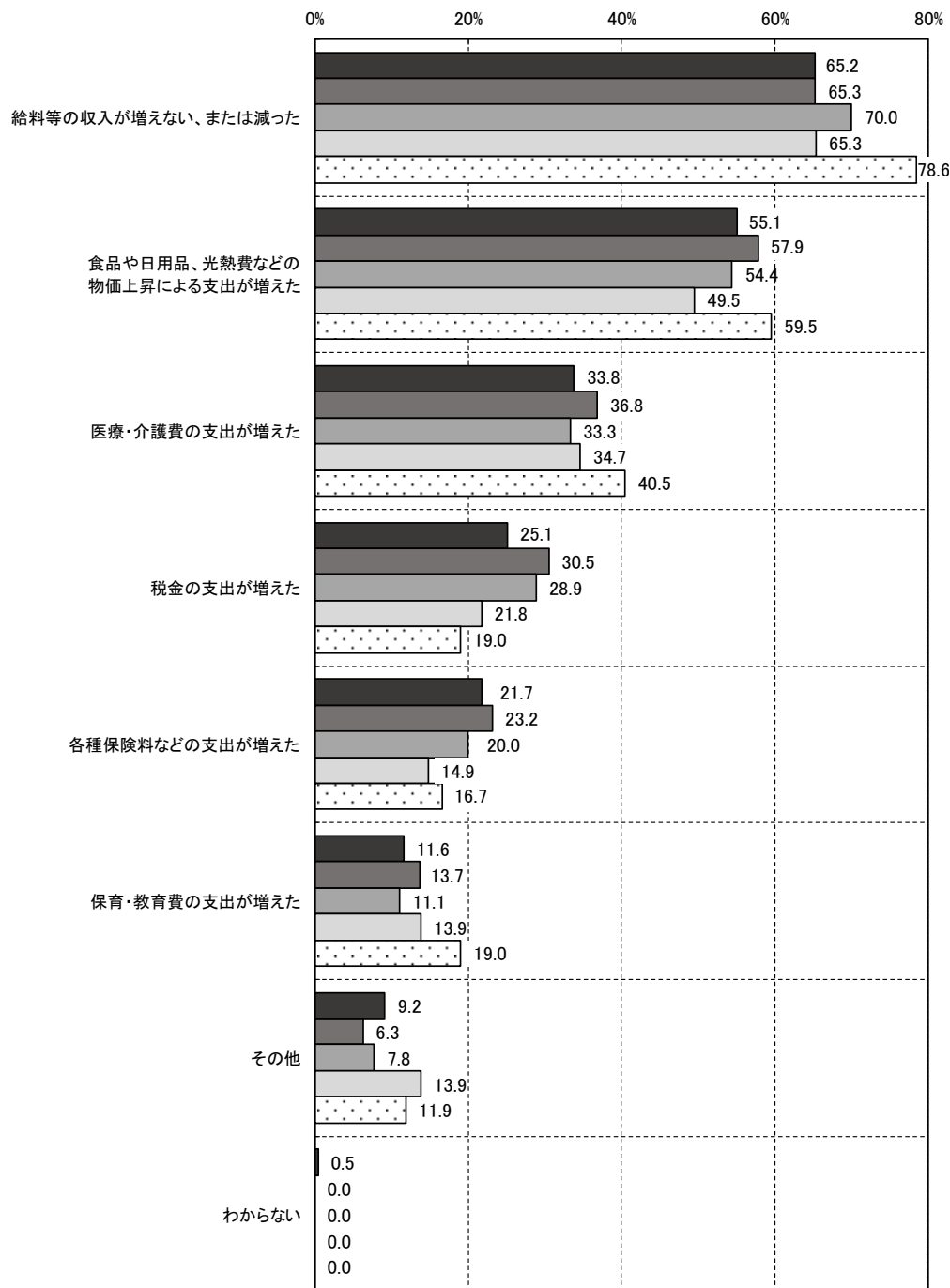
図 1-2-4 【年代別】くらしが苦しくなったと感じる理由



※ N=総回答数 n=回答者数

居住圏域別（図 1-2-5）でみると、いずれの居住圏域においても「給料等の収入が増えない、または減った」が最も高く、次いで「食品や日用品、光熱費などの物価上昇による支出が増えた」となっている。

図 1-2-5 【居住圏域別】 暮らしが苦しくなったと感じる理由

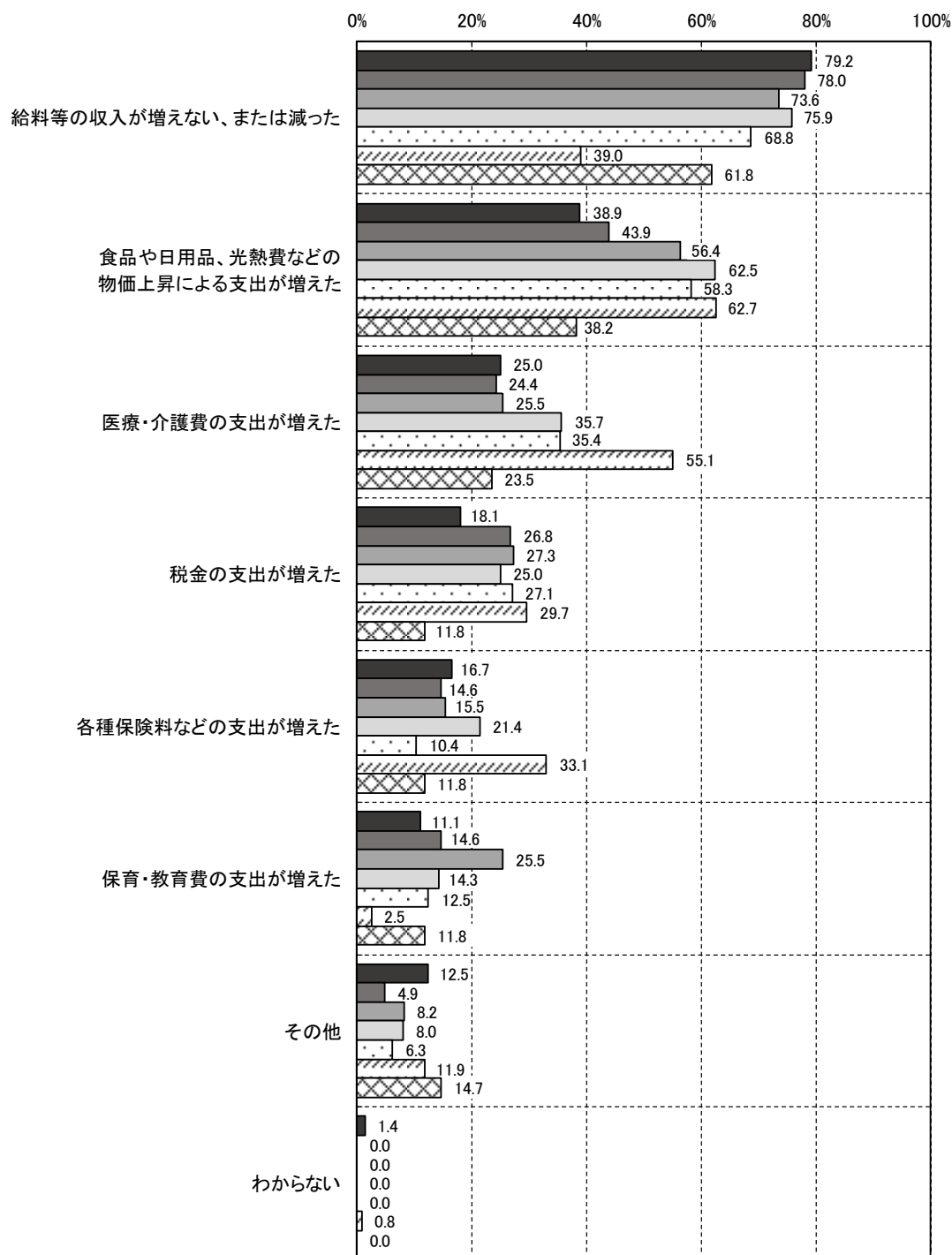


■ 岐阜圏域 (N = 460 : n = 207) ■ 西濃圏域 (N = 222 : n = 95)
 ■ 中濃圏域 (N = 204 : n = 90) ■ 東濃圏域 (N = 216 : n = 101)
 ■ 飛騨圏域 (N = 103 : n = 42)

※ N=総回答数 n=回答者数

職業別（図 1-2-6）でみると、無職を除くいずれの職業においても「給料等の収入が増えない、または減った」が最も高く、無職では「食品や日用品、光熱費などの物価上昇による支出が増えた」が最も高くなっている。

図 1-2-6 【職業別】 暮らしが苦しくなったと感じる理由



- 自営業 (N = 146 : n = 72)
- 会社・団体役員 (N = 85 : n = 41)
- 正規の従業員・職員 (N = 255 : n = 110)
- パートタイム・アルバイト・派遣 (N = 272 : n = 112)
- 家事従事 (N = 105 : n = 48)
- 無職 (N = 277 : n = 118)
- その他 (N = 59 : n = 34)

※ その他には、自由業、学生を含む。

※ N=総回答数 n=回答者数

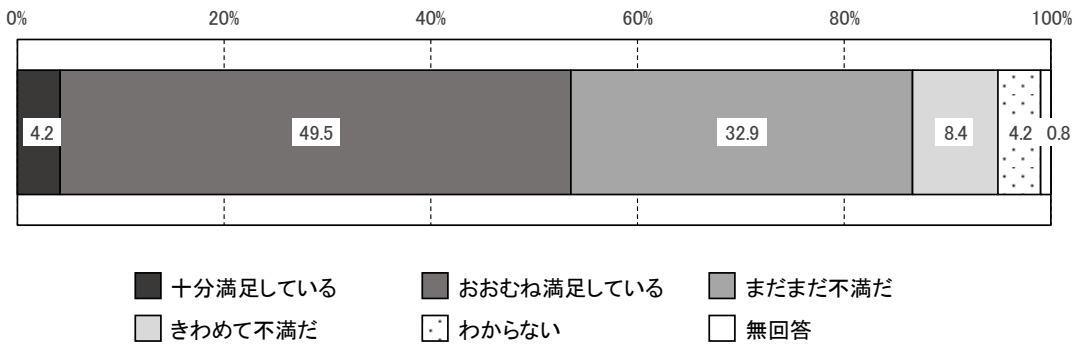
問2 暮らしの満足度

問2 あなたは、現在の暮らし全般（生活環境など）についてどう思いますか。（1つだけ）

全体（図2-1）で見ると、「おおむね満足している」が49.5%と最も高く、次いで「まだまだ不満だ」（32.9%）、「きわめて不満だ」（8.4%）の順となっている。

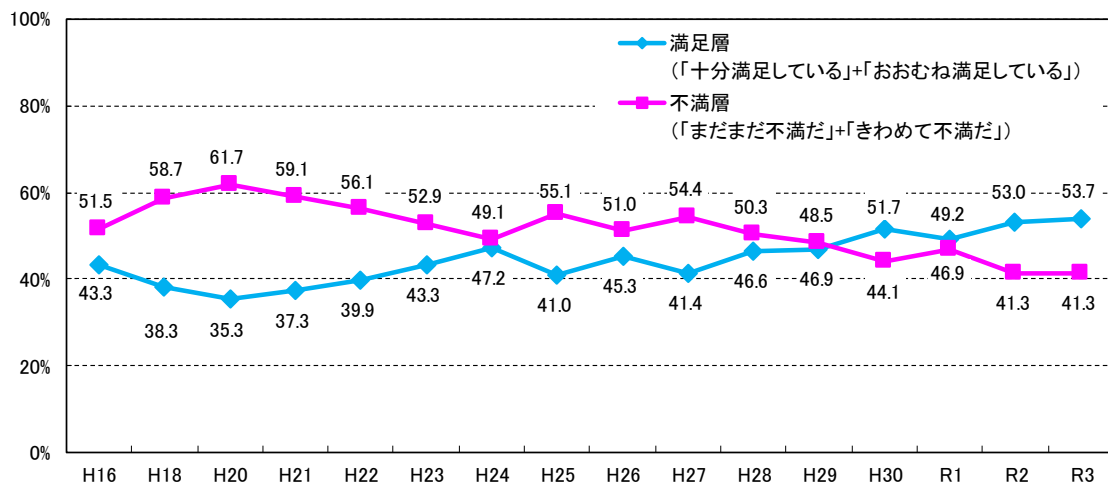
図2-1 暮らしの満足度

回答者数(n = 1,553)



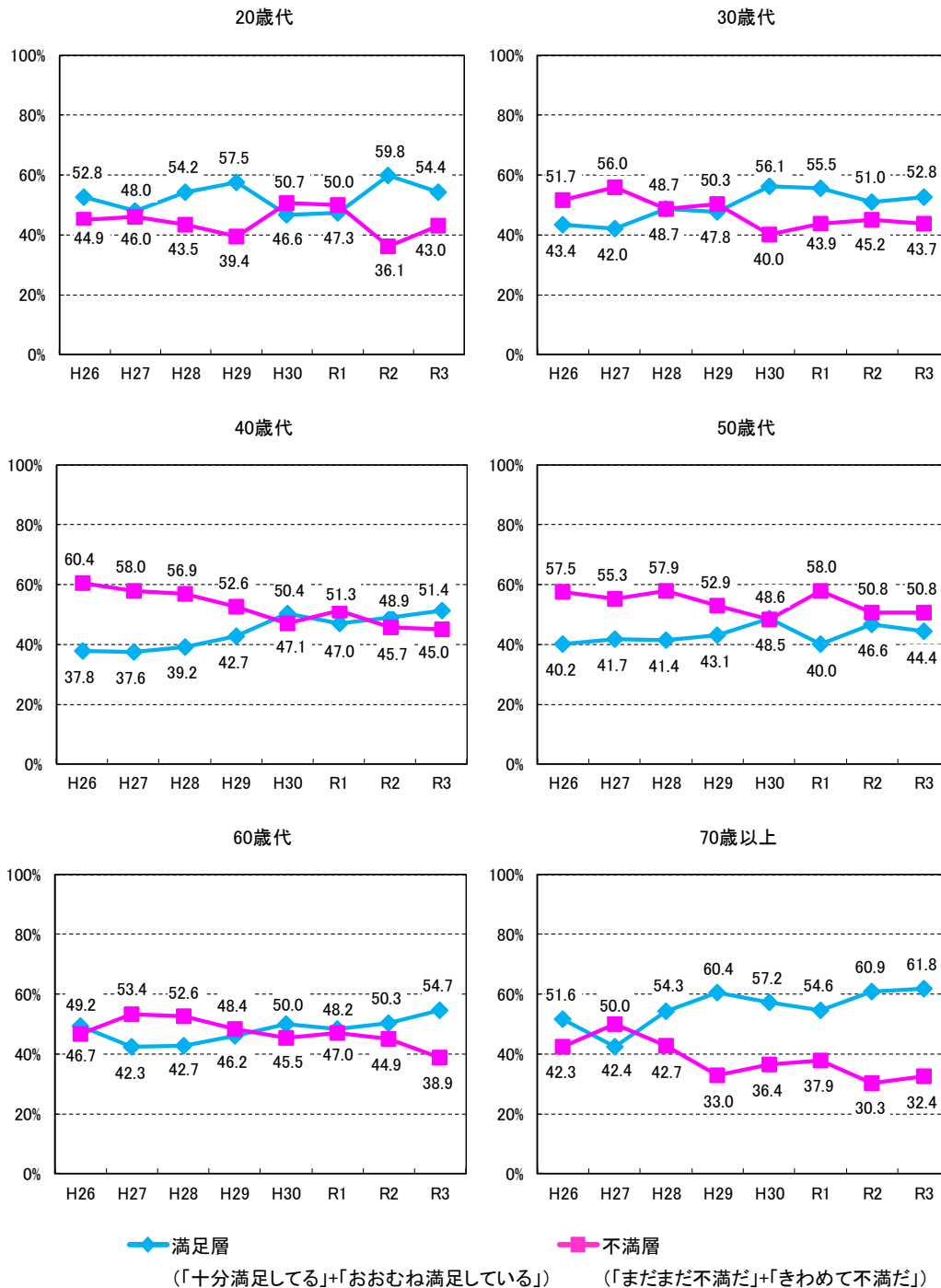
経年変化（図2-2）で見ると、平成16年から「不満層」（「まだまだ不満だ」+「きわめて不満だ」）が「満足層」（「十分満足している」+「おおむね満足している」）を上回っていたが、平成30年には「満足層」が「不満層」を上回った。令和3年は、前年に比べて「満足層」が0.7ポイント増加している。

図2-2 【経年変化】暮らしの満足度



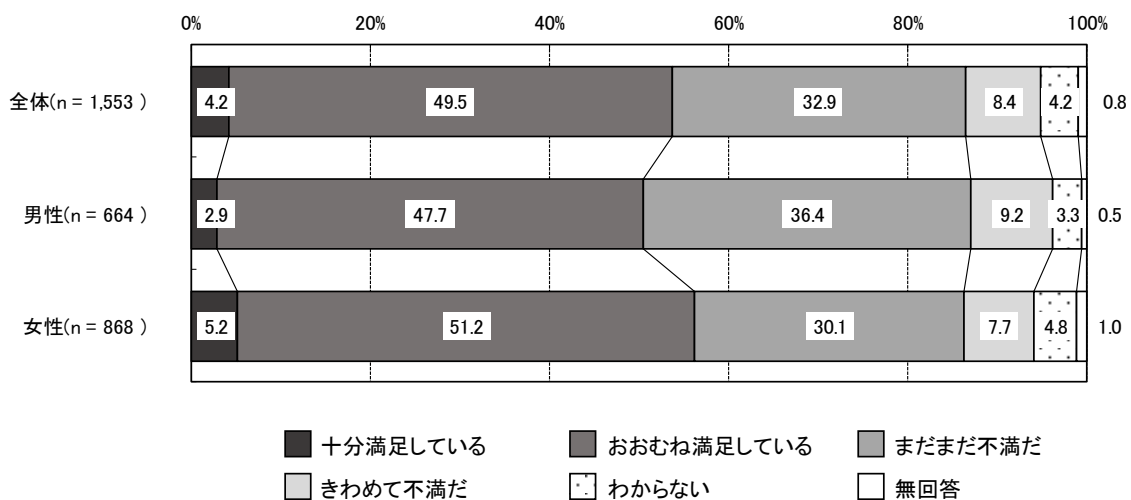
年代別の経年変化（図 2-3）でみると、令和 3 年は 20 歳代、50 歳代を除くいずれの年代においても「満足層」が増加している。50 歳代では変わらず「不満層」が「満足層」を上回っている。

図 2-3 【経年変化(年代別)】 暮らしの満足度



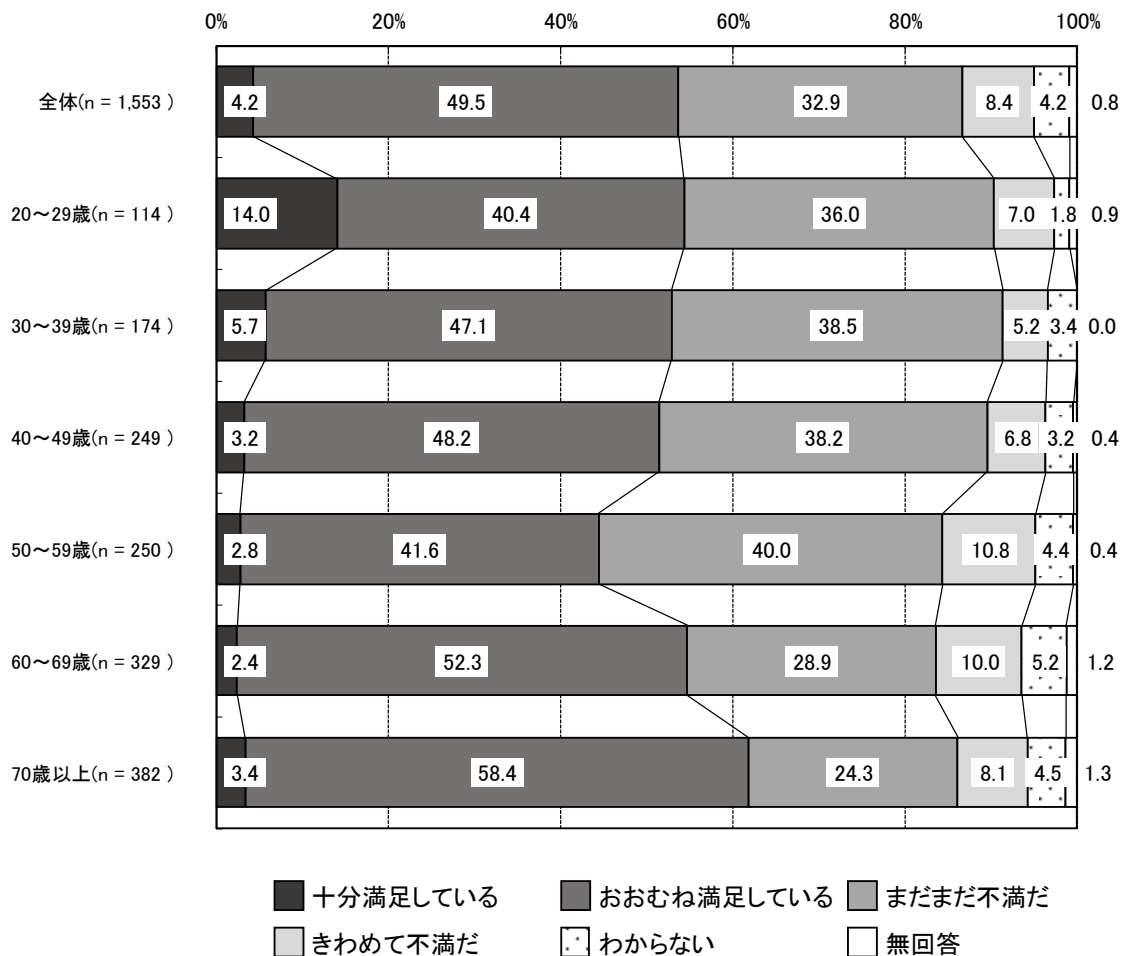
性別(図2-4)で見ると、男女ともに「おおむね満足している」が最も高く、男性が47.7%、女性が51.2%となっている。

図2-4【性別】くらしの満足度



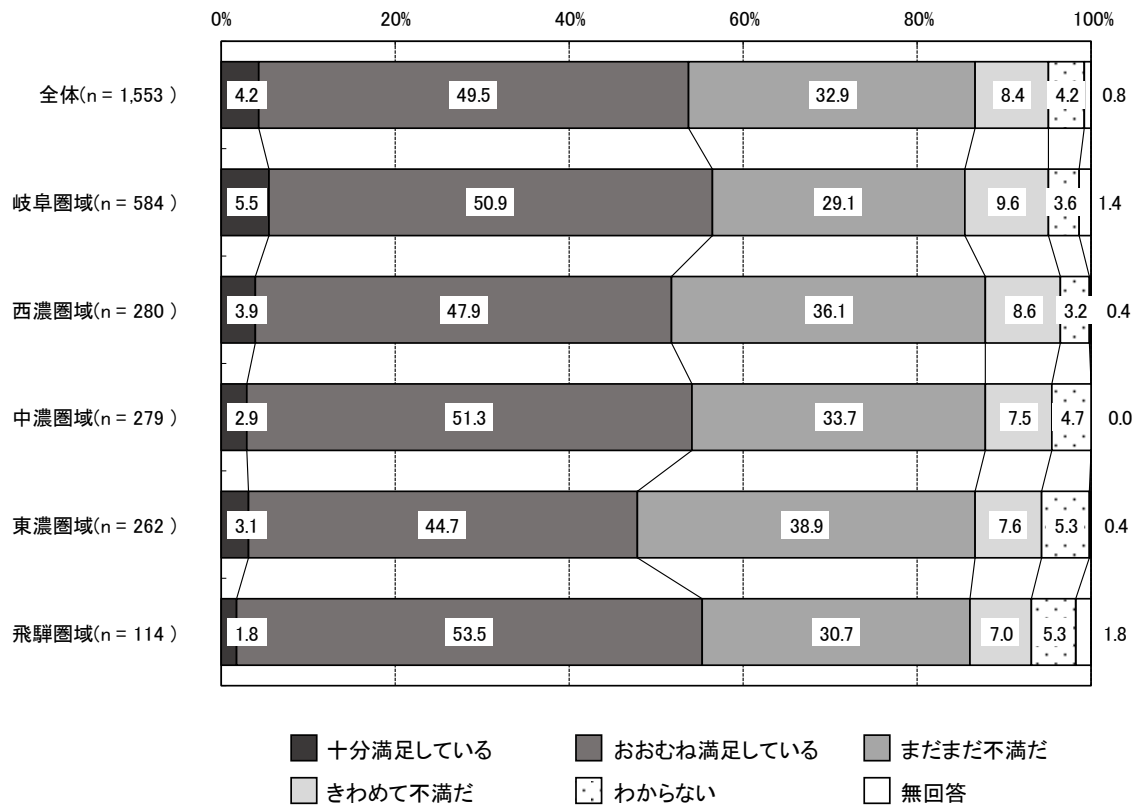
年代別(図2-5)で見ると、いずれの年代においても「おおむね満足している」が最も高くなっている。

図2-5【年代別】くらしの満足度



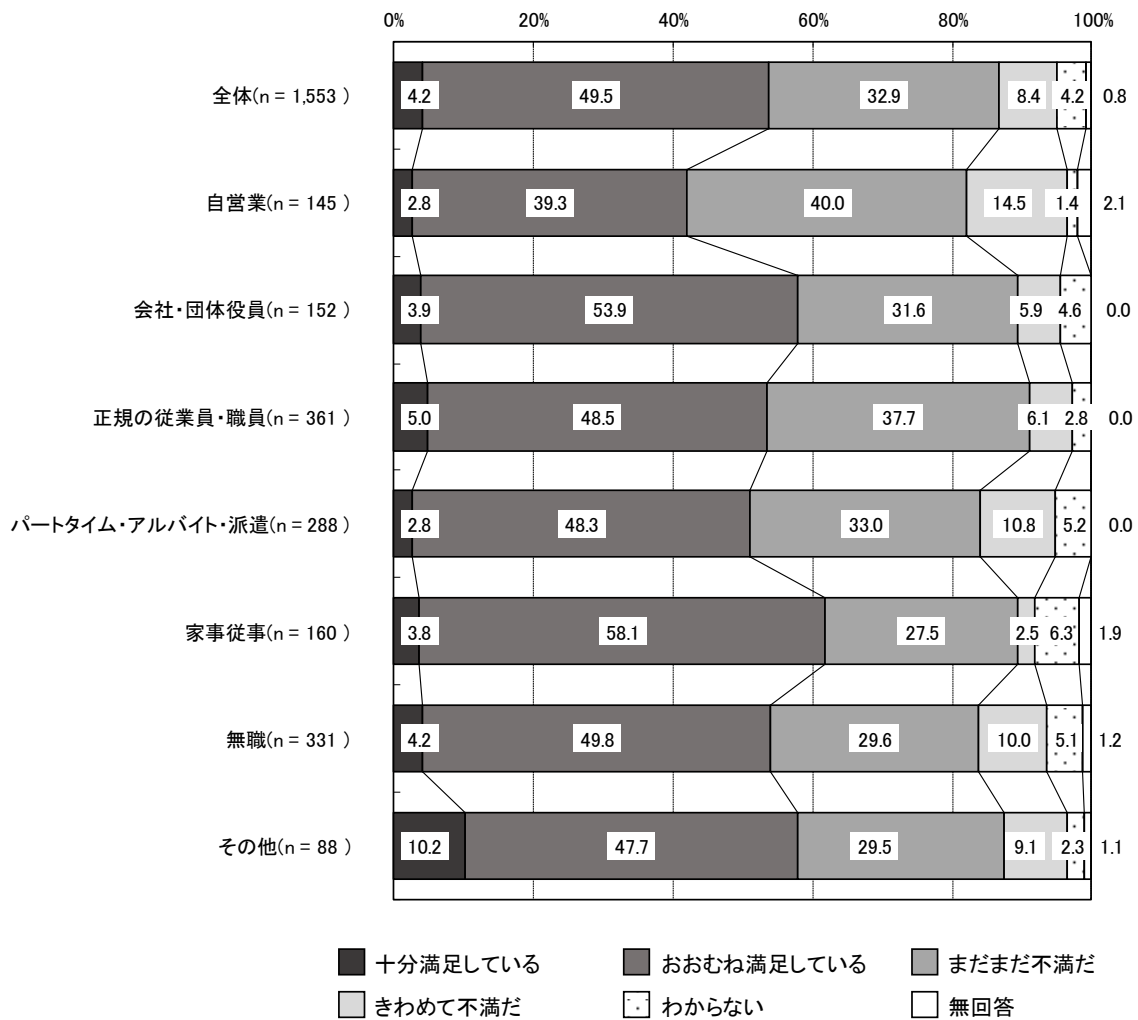
居住圏域別（図 2-6）で見ると、いずれの圏域においても「おおむね満足している」が最も高く、そのうち飛騨圏域が 53.5%と最も高くなっている。

図 2-6 【居住圏域別】 暮らしの満足度



職業別（図 2-7）で見ると、自営業を除くいずれの職業においても「おおむね満足している」が最も高く、自営業では「まだまだ不満だ」が最も高くなっている。

図 2-7 【職業別】くらしの満足度



※ その他には、自由業、学生を含む。

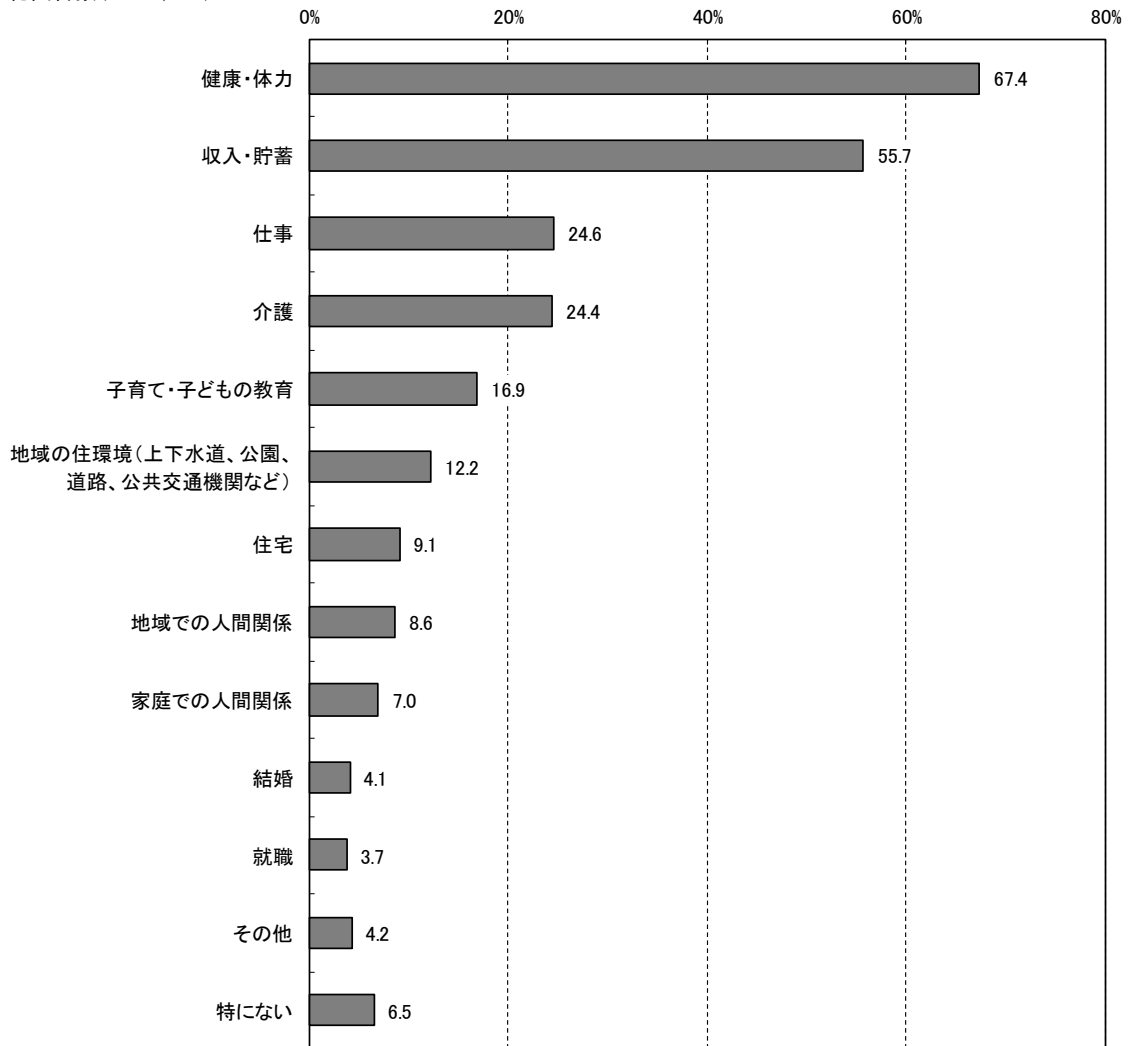
問3 生活面での不安

問3 あなたは、日頃の暮らしの中で、どのようなことに悩みや不安を感じていますか。
(3つまで)

全体(図3-1)で見ると、「健康・体力」が67.4%と最も高く、次いで「収入・貯蓄」(55.7%)、「仕事」(24.6%)の順となっている。

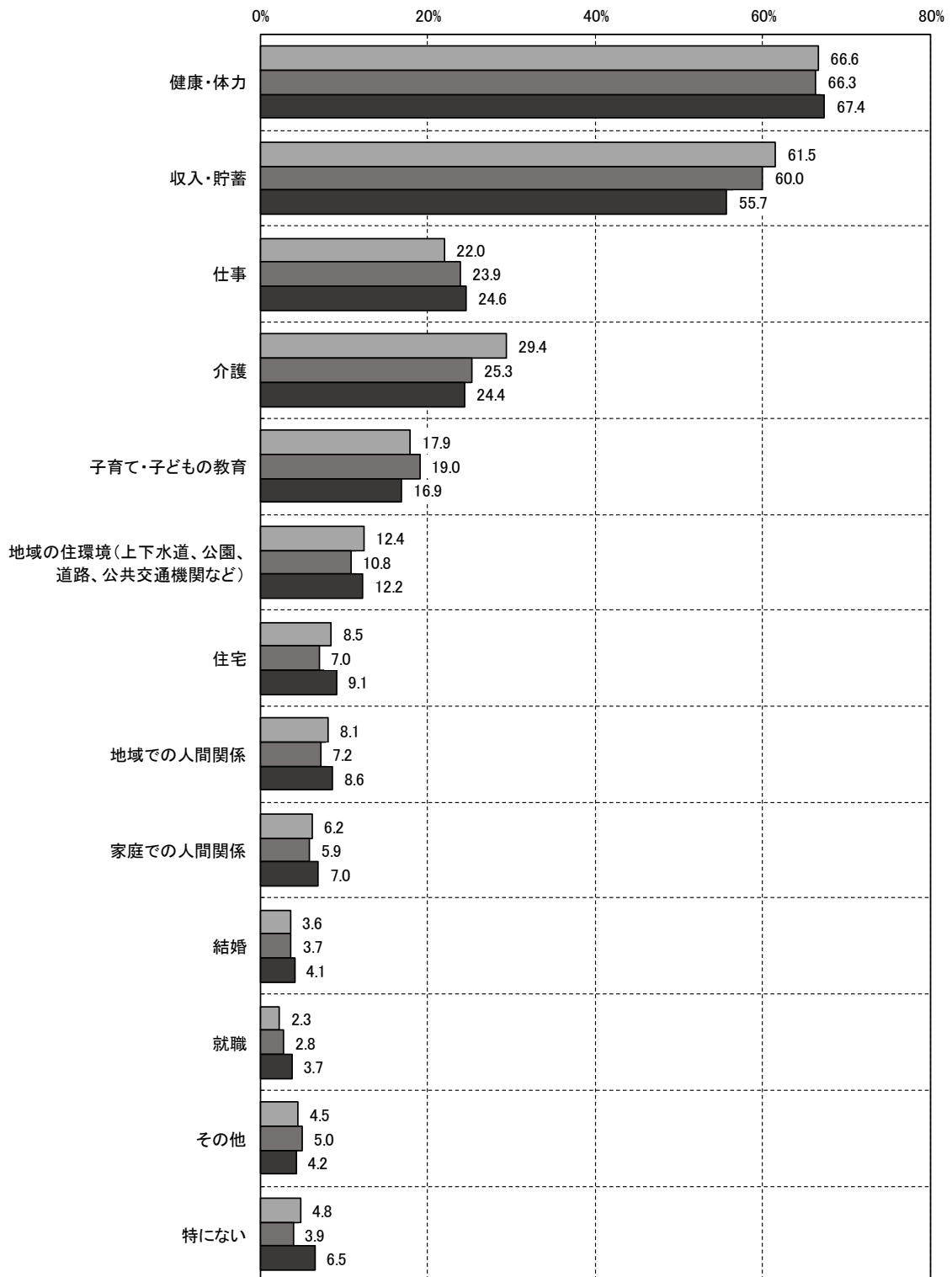
図3-1 生活面での不安

回答者数(n = 1,553)
総回答数(N = 3,806)



前々回・前回比較（図 3-2） でみると、前々回・前回に続き「健康・体力」、「収入・貯蓄」の順となっている。今回、「仕事」と「介護」の順が入れ替わっている。

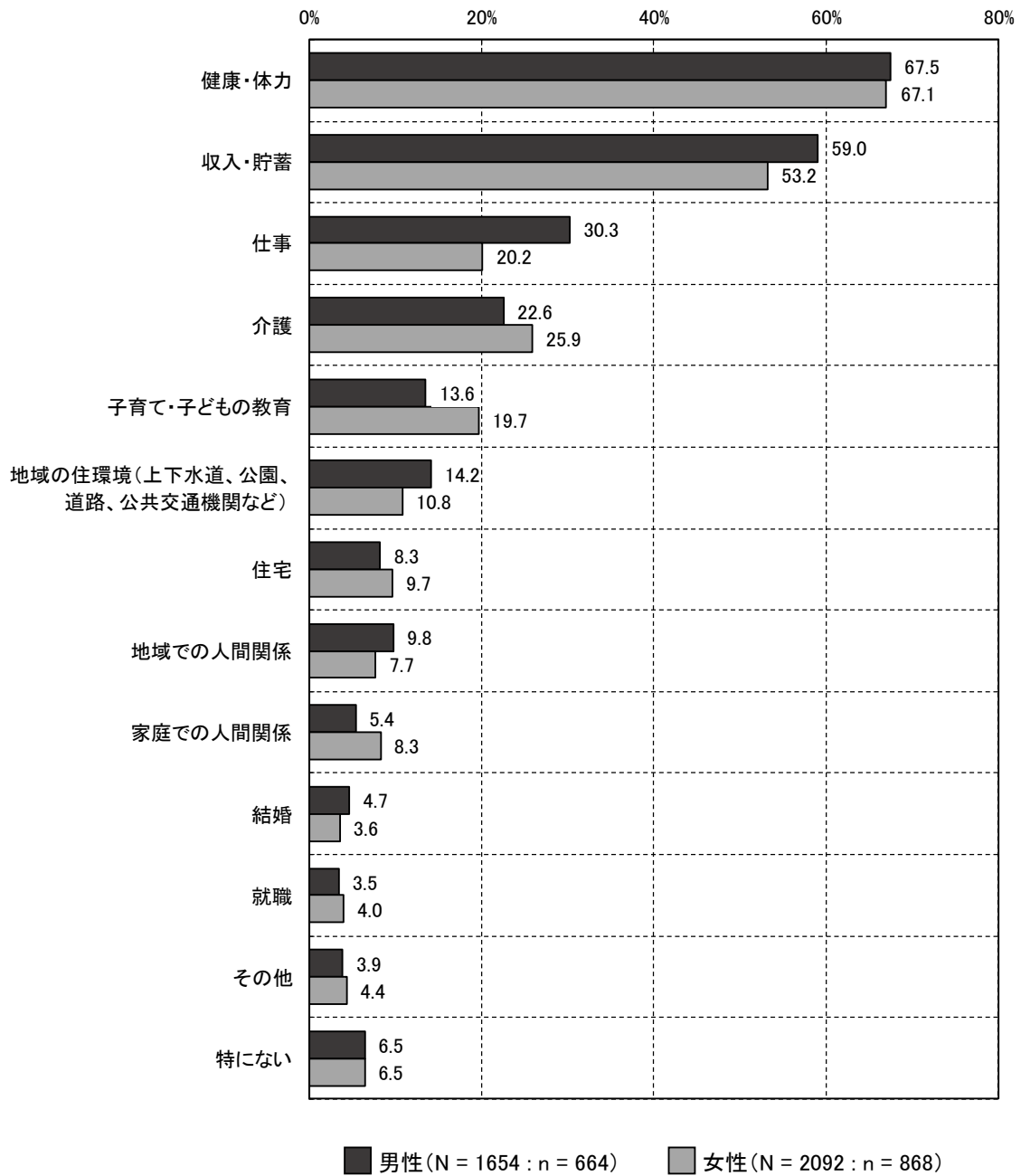
図 3-2 【前々回・前回比較】 生活面での不安



第42回 (令和元年度)
 第43回 (令和2年度)
 第44回 (令和3年度)

性別（図 3-3）で見ると、男女ともに「健康・体力」が最も高く、次いで「収入・貯蓄」となっている。「仕事」では男性が女性より 10.1 ポイント高くなっている。

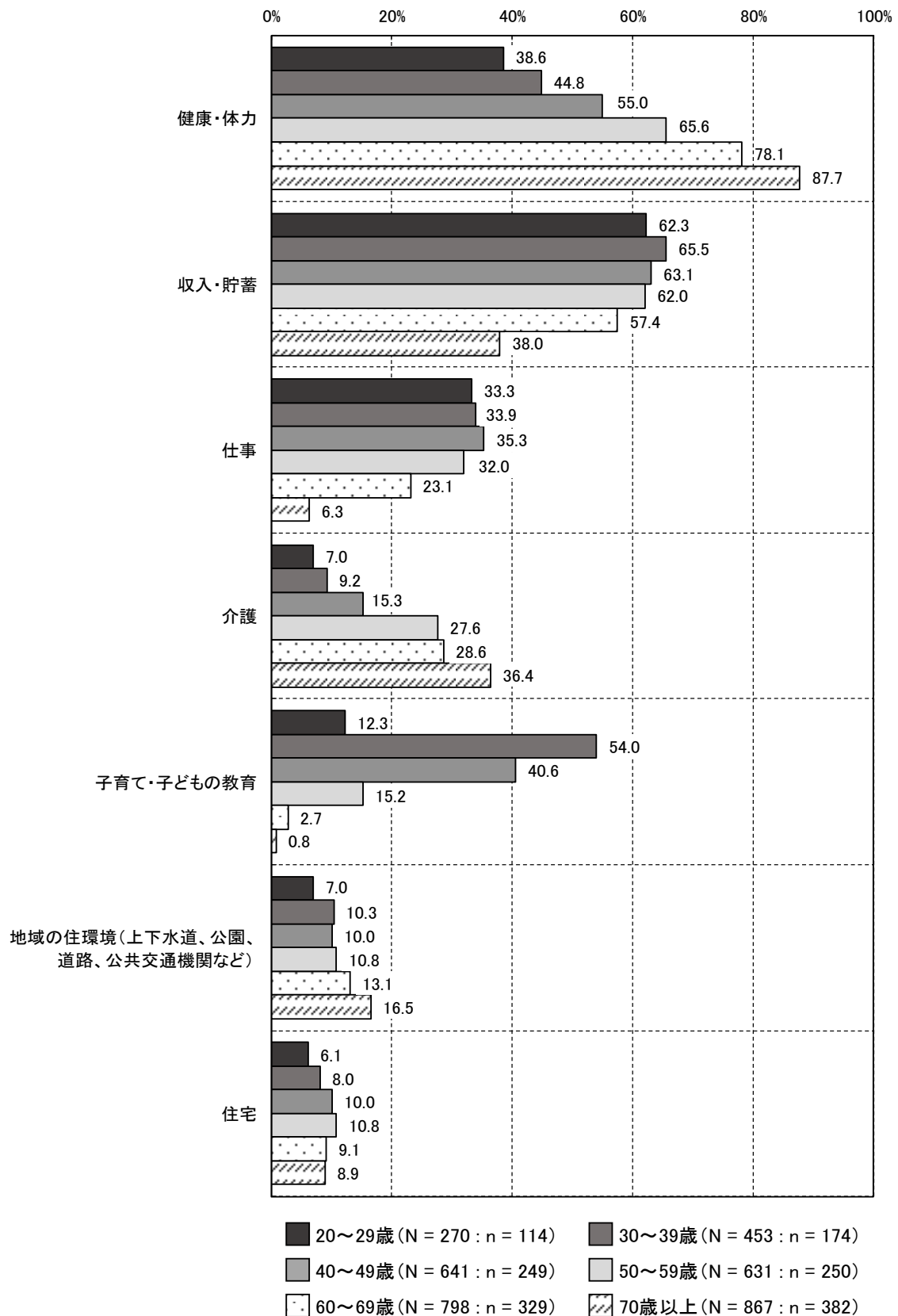
図 3-3 【性別】生活面での不安



※ N=総回答数 n=回答者数

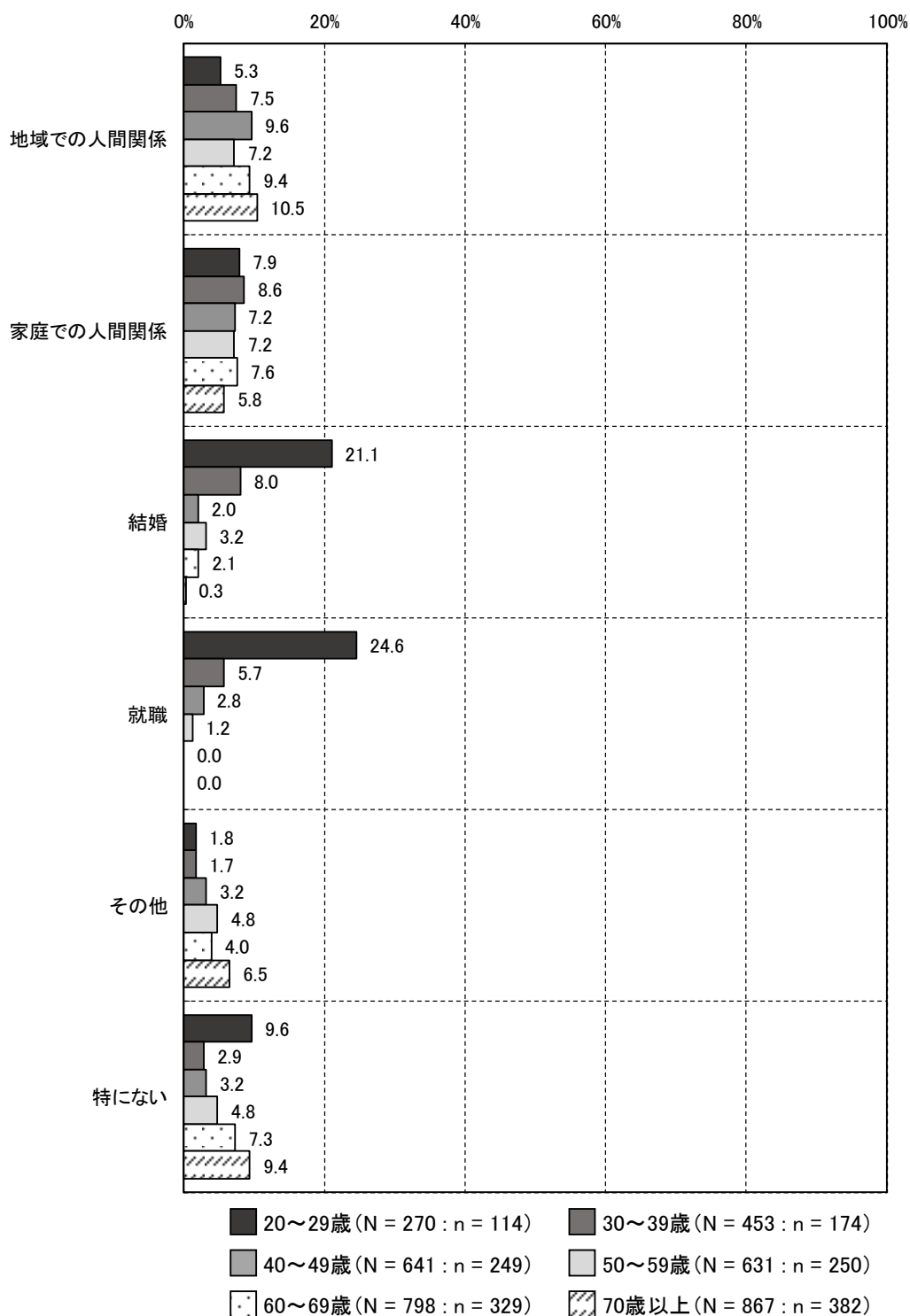
年代別（図 3-4）で見ると、20 歳代、30 歳代、40 歳代は「収入・貯蓄」が最も高く、50 歳代、60 歳代、70 歳以上では「健康・体力」が最も高くなっている。「結婚」「就職」では 20 歳代が、「子育て・子どもの教育」では 30 歳代、40 歳代が他の年代より高くなっている。

図 3-4 【年代別】生活面での不安



※ N=総回答数 n=回答者数

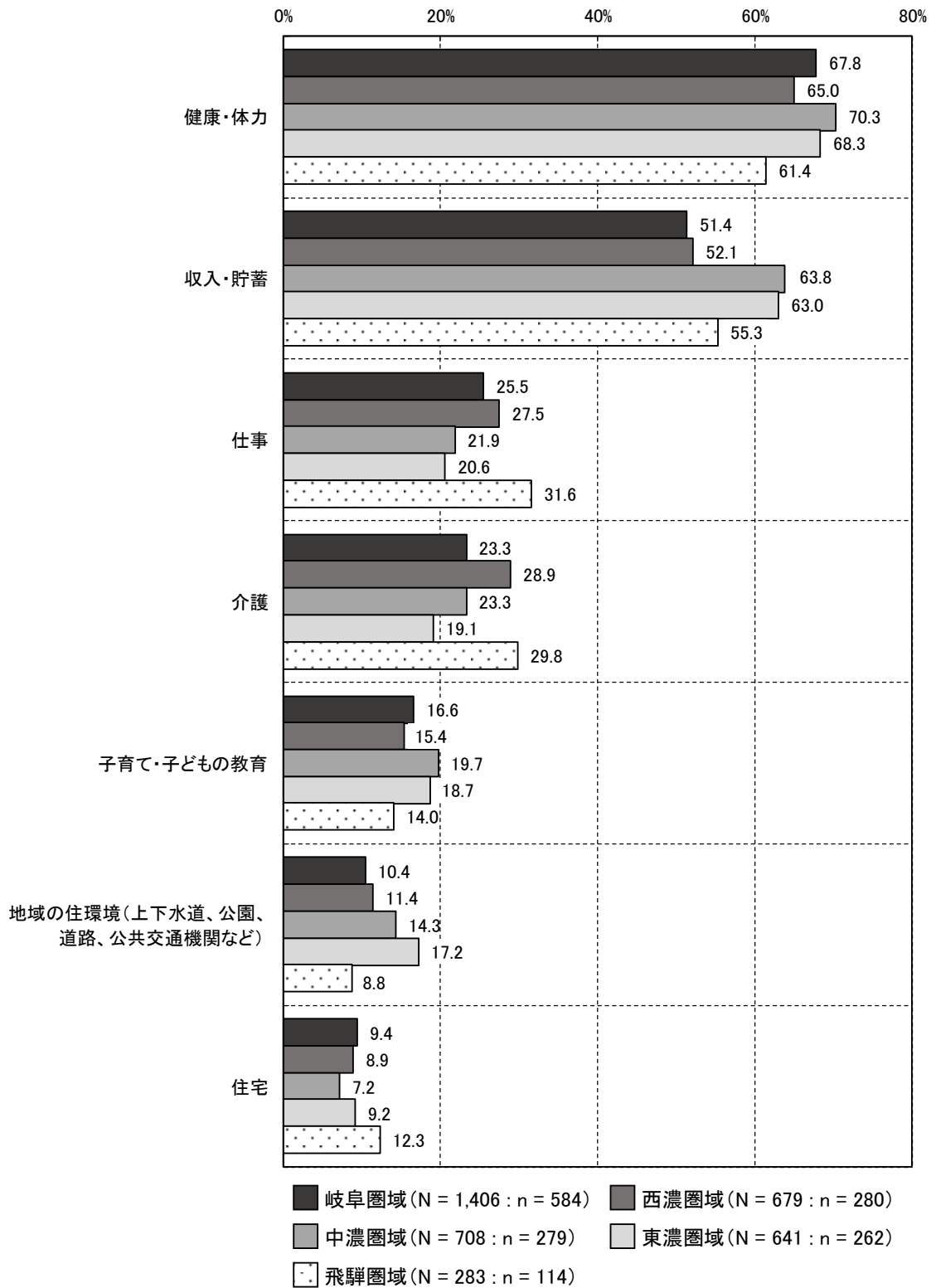
図 3-4 【年代別】生活面での不安（続き）



※ N=総回答数 n=回答者数

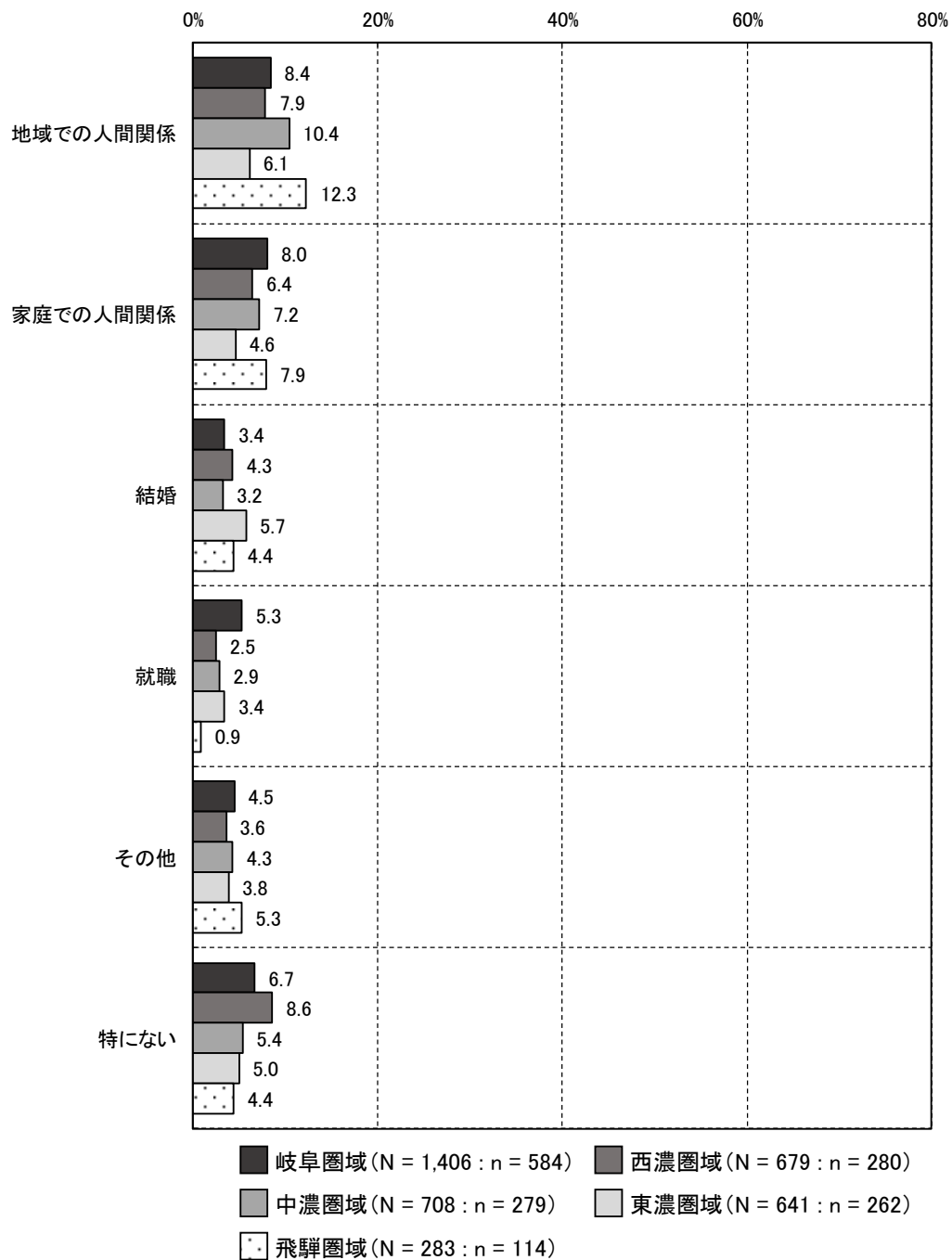
居住圏域別（図 3-5）で見ると、いずれの居住圏域においても「健康・体力」が最も高く、次いで「収入・貯蓄」となっている。

図 3-5 【居住圏域別】生活面での不安



※ N=総回答数 n=回答者数

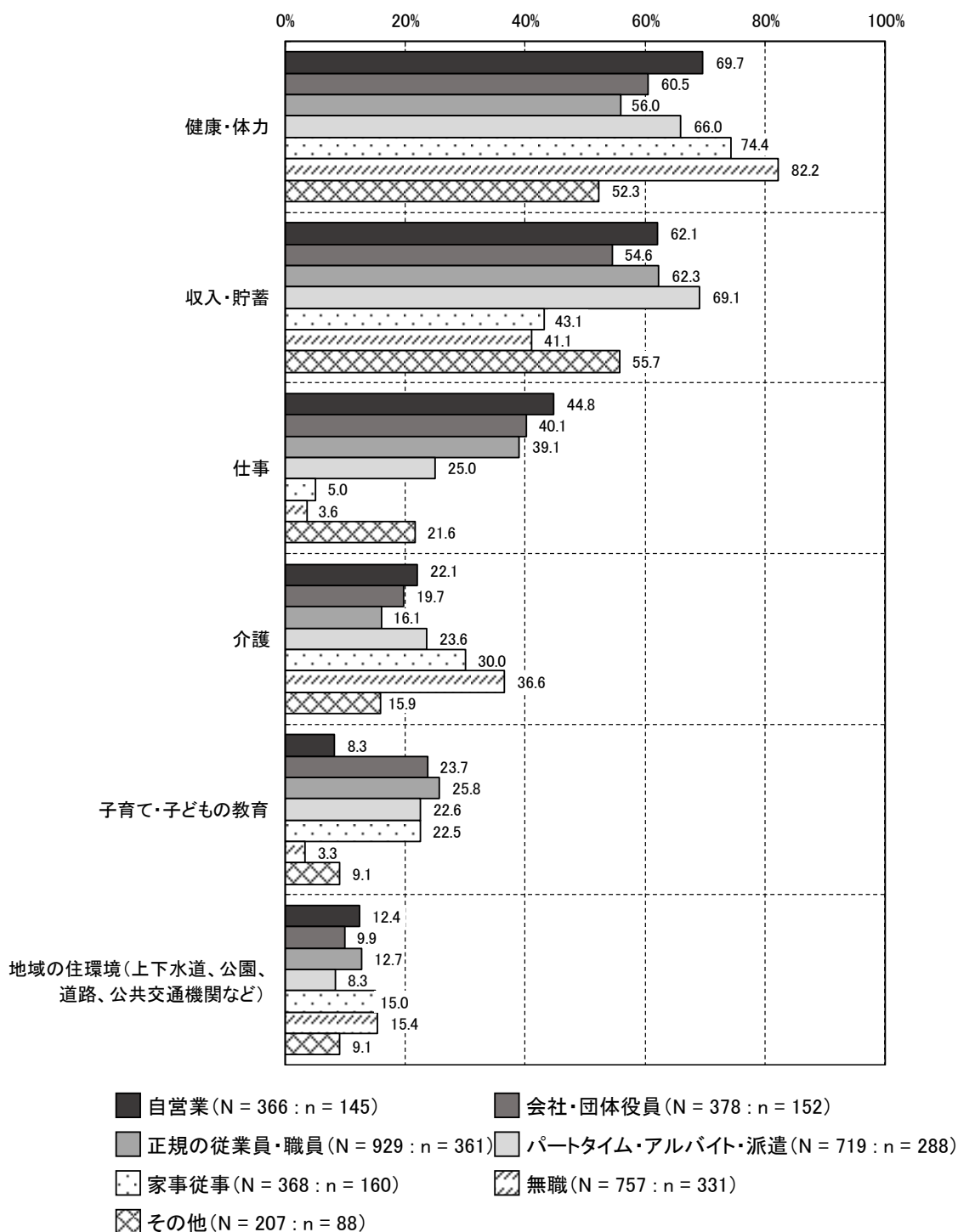
図 3-5 【居住圏域別】生活面での不安（続き）



※ N=総回答数 n=回答者数

職業別（図 3-6）でみると、自営業、会社・団体役員、家事従事、無職では「健康・体力」が最も高く、正規の従業員・職員、パートタイム・アルバイト・派遣、その他では「収入・貯蓄」が最も高くなっている。

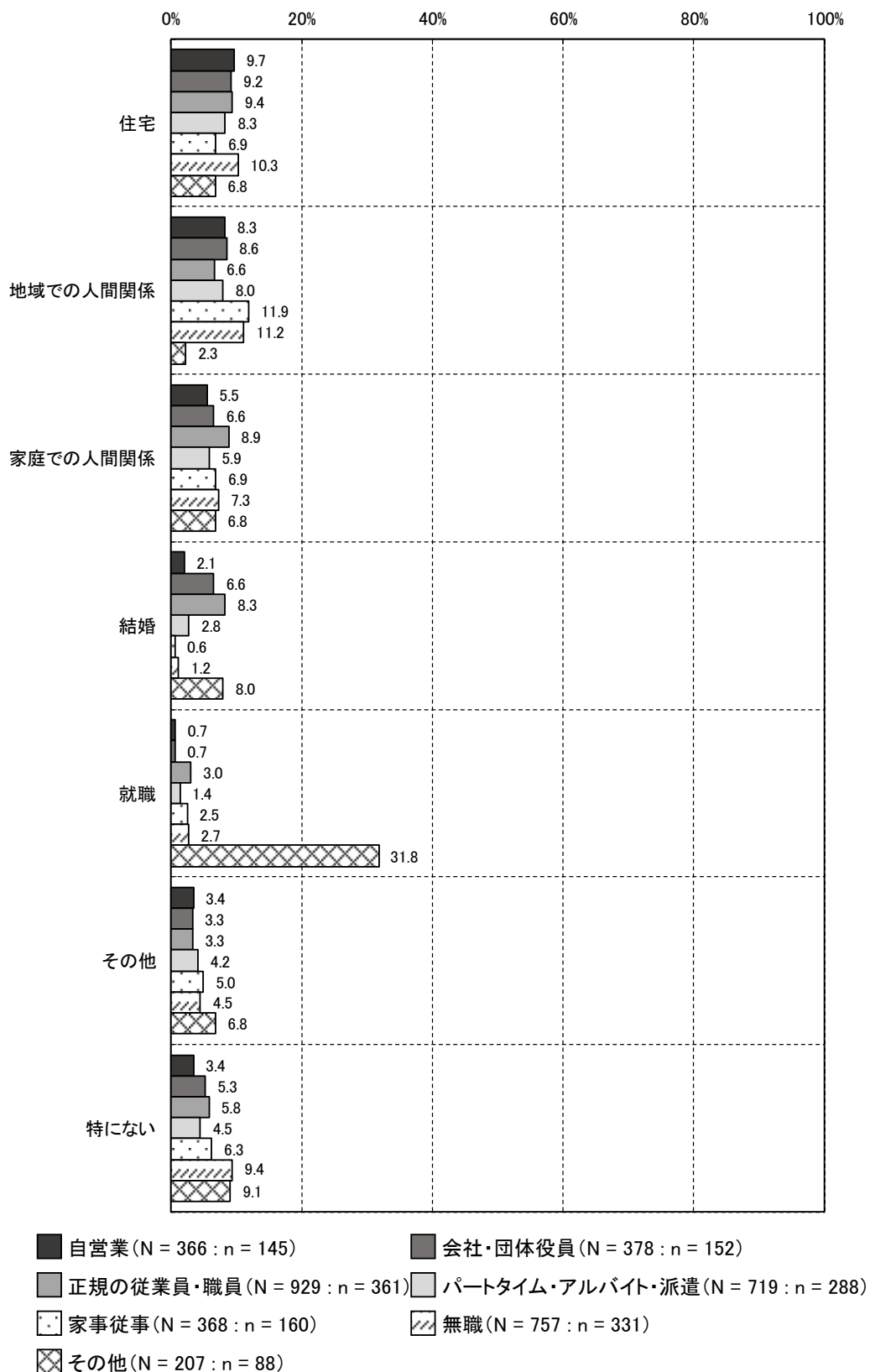
図 3-6 【職業別】生活面での不安



※ その他には、自由業、学生を含む。

※ N=総回答数 n=回答者数

図 3-6 【職業別】生活面での不安（続き）



※ その他には、自由業、学生を含む。
 ※ N=総回答数 n=回答者数

問4 今後の暮らしの中で重視していきたいこと

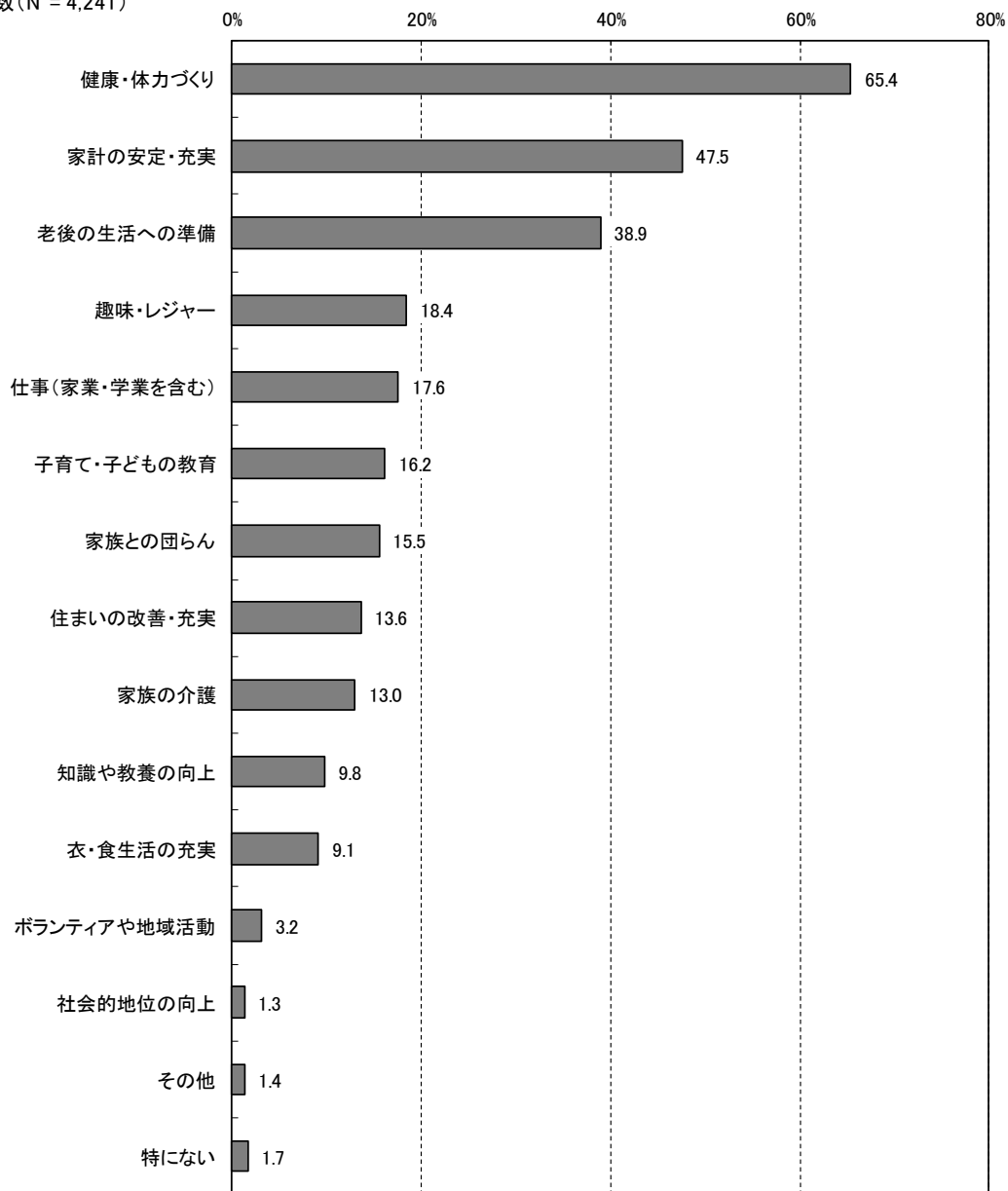
問4 あなたが、今後の暮らしの中で重視していきたいと思うことは何ですか。
(3つまで)

全体（図 4-1）で見ると、「健康・体力づくり」が 65.4%と最も高く、次いで「家計の安定・充実」（47.5%）、「老後の生活への準備」（38.9%）の順となっている。

図 4-1 今後の暮らしの中で重視していきたいこと

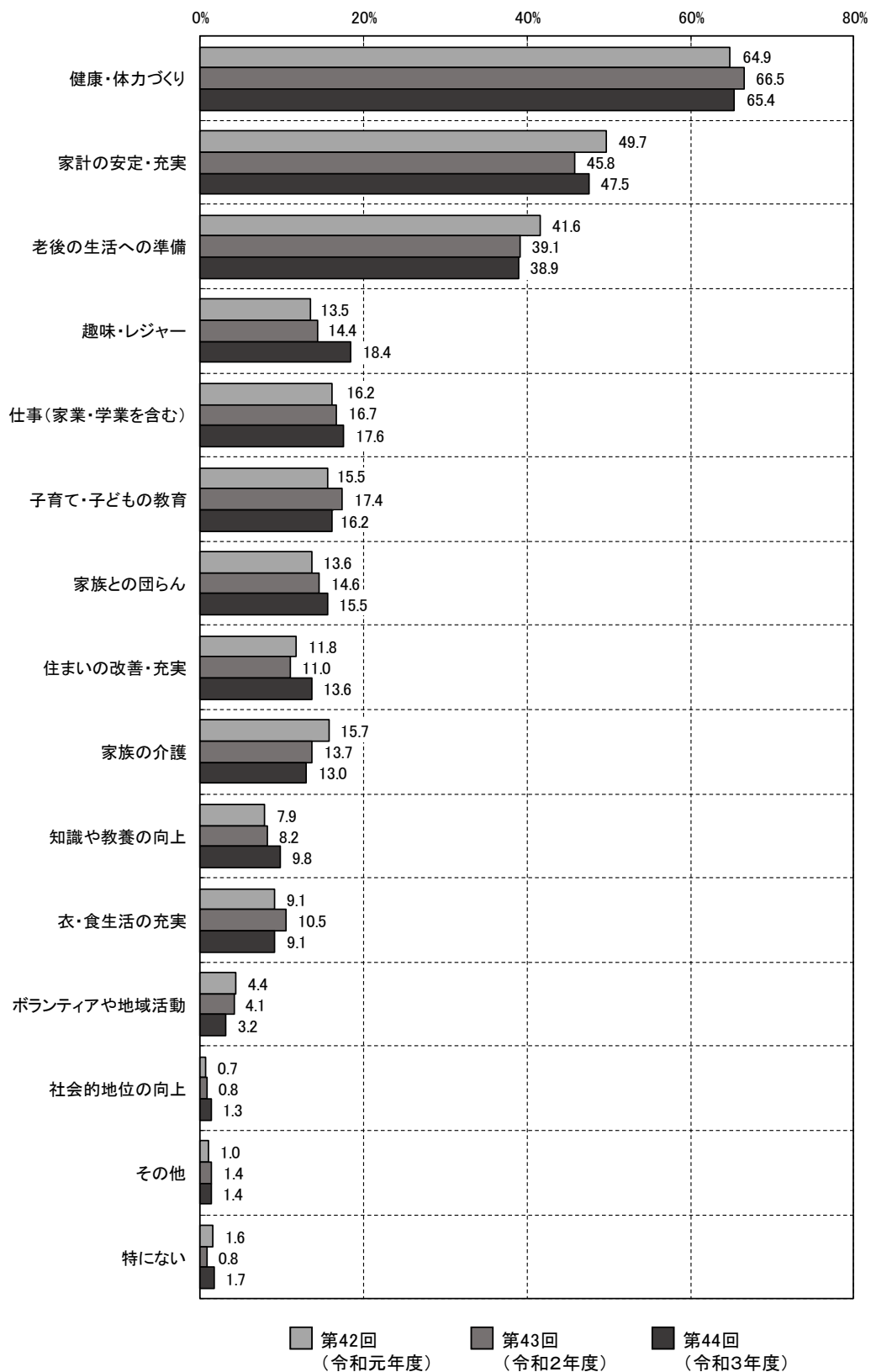
回答者数 (n = 1,553)

総回答数 (N = 4,241)



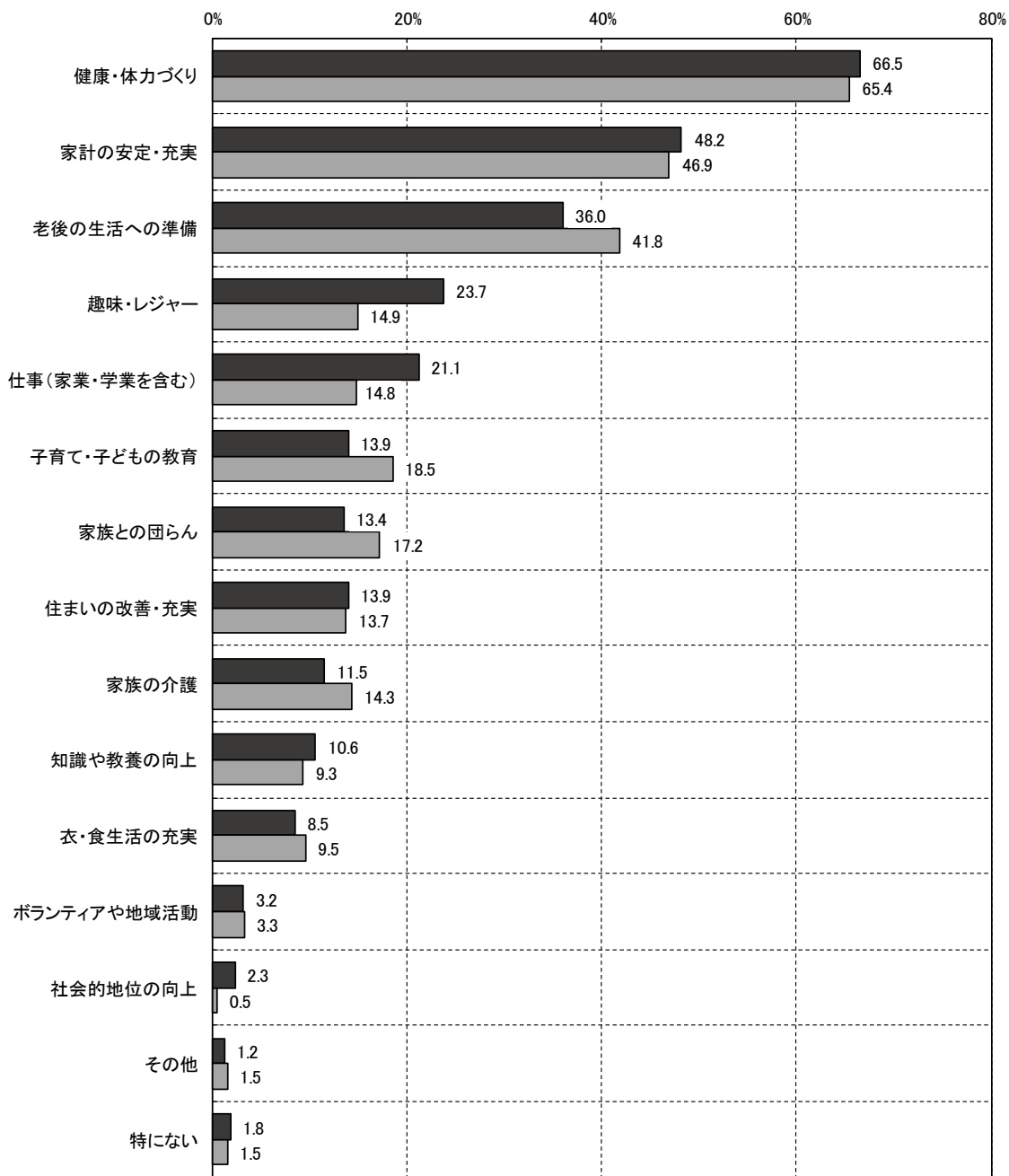
前々回・前回比較（図 4-2）で見ると、前々回・前回・今回と一貫して「健康・体力づくり」が最も高く、次いで「家計の安定・充実」、「老後の生活への準備」の順となっている。

図 4-2 【前々回・前回比較】 今後の暮らしの中で重視していきたいこと



性別（図 4-3）で見ると、男女ともに「健康・体力づくり」が最も高く、男性が 66.5%、女性が 65.4%となっている。「老後の生活への準備」では女性が男性より 5.8 ポイント、「趣味・レジャー」では男性が女性より 8.8 ポイント高くなっている。

図 4-3 【性別】 今後の暮らしの中で重視していきたいこと



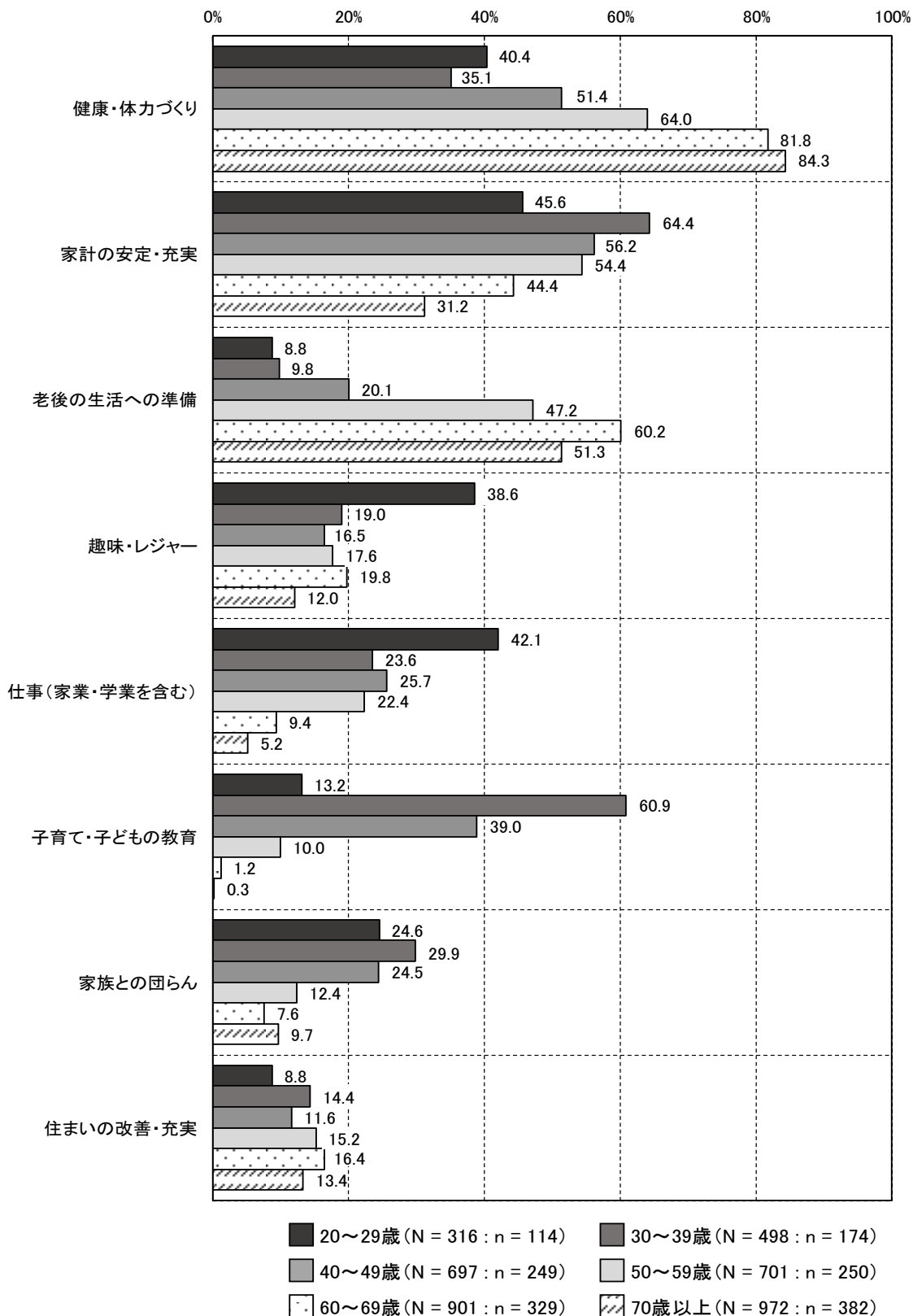
■ 男性(N = 1825 : n = 664)

■ 女性(N = 2350 : n = 868)

※ N=総回答数 n=回答者数

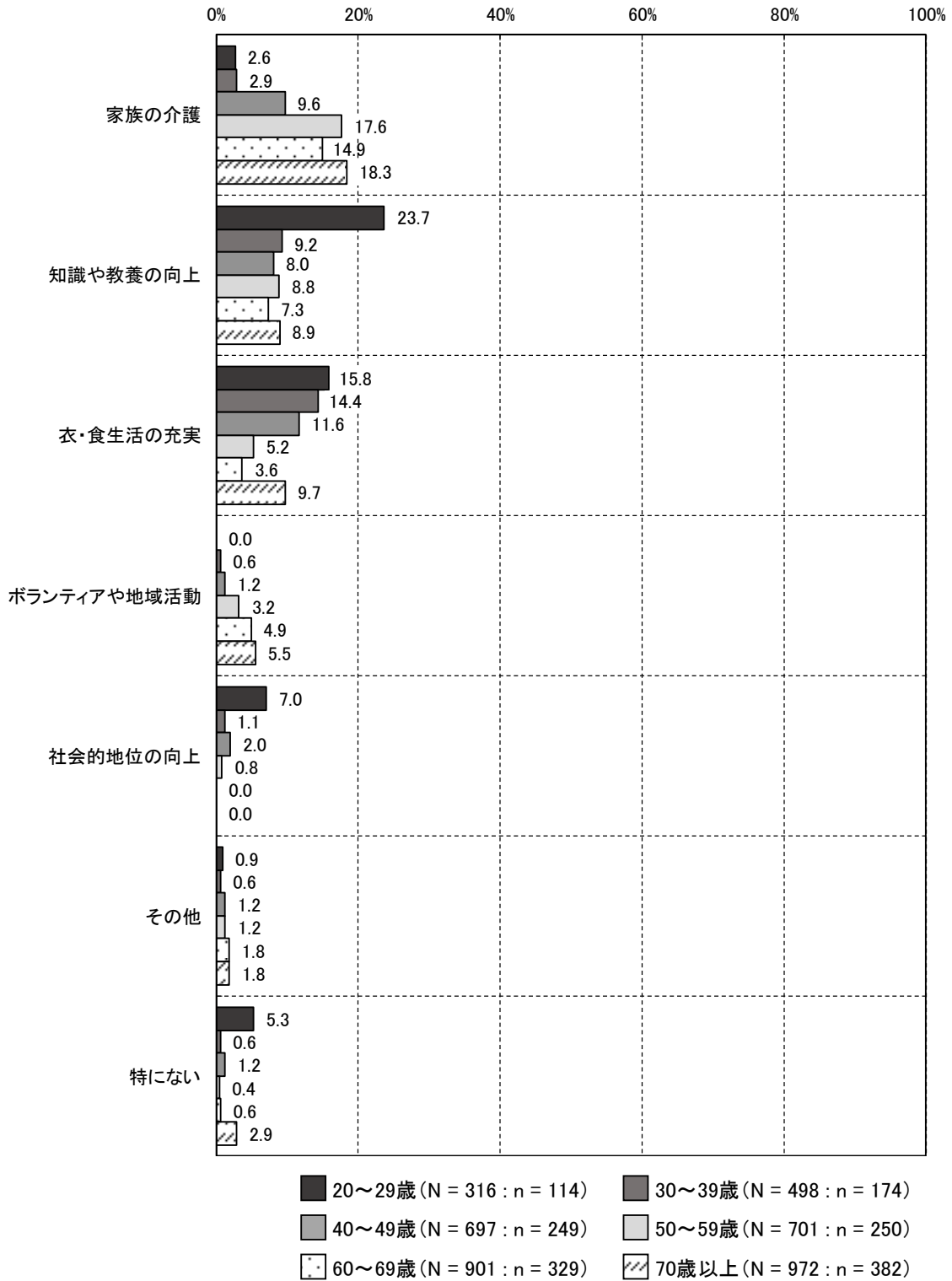
年代別（図4-4）で見ると、20歳代、30歳代、40歳代では「家計の安定・充実」が最も高く、50歳代、60歳代、70歳以上では「健康・体力づくり」が最も高くなっている。20歳代では「趣味・レジャー」、「仕事（家業・学業を含む）」、「知識や教養の向上」が、30歳代、40歳代では「子育て・子どもの教育」が他の年代に比べて高くなっている。

図4-4 【年代別】 今後の暮らしの中で重視していきたいこと



※ N=総回答数 n=回答者数

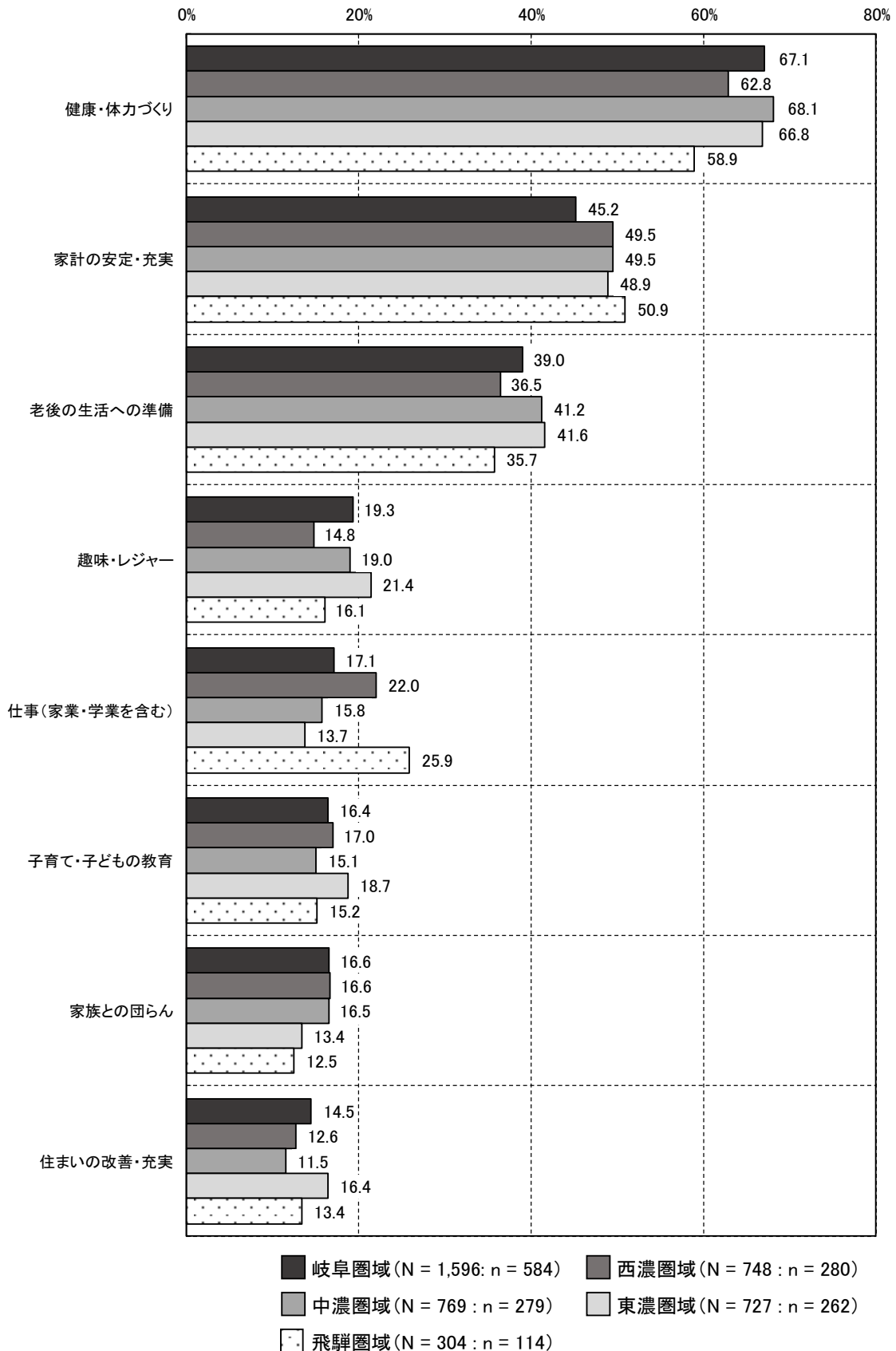
図 4-4 【年代別】 今後の暮らしの中で重視していきたいこと（続き）



※ N=総回答数 n=回答者数

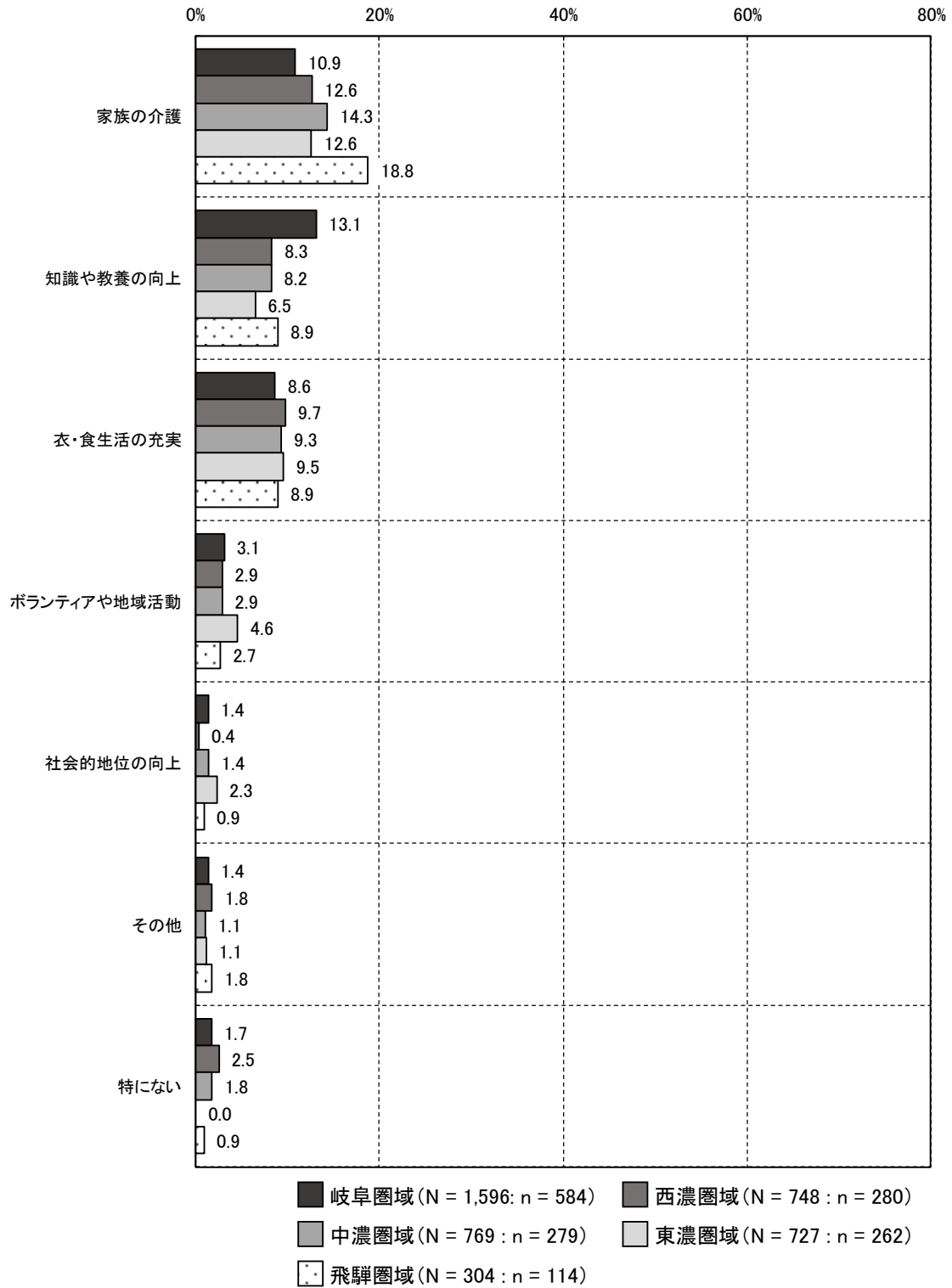
居住圏域別（図 4-5）でみると、いずれの居住圏域においても「健康・体力づくり」が最も高くなっている。

図 4-5 【居住圏域別】 今後の暮らしの中で重視していきたいこと



※ N=総回答数 n=回答者数

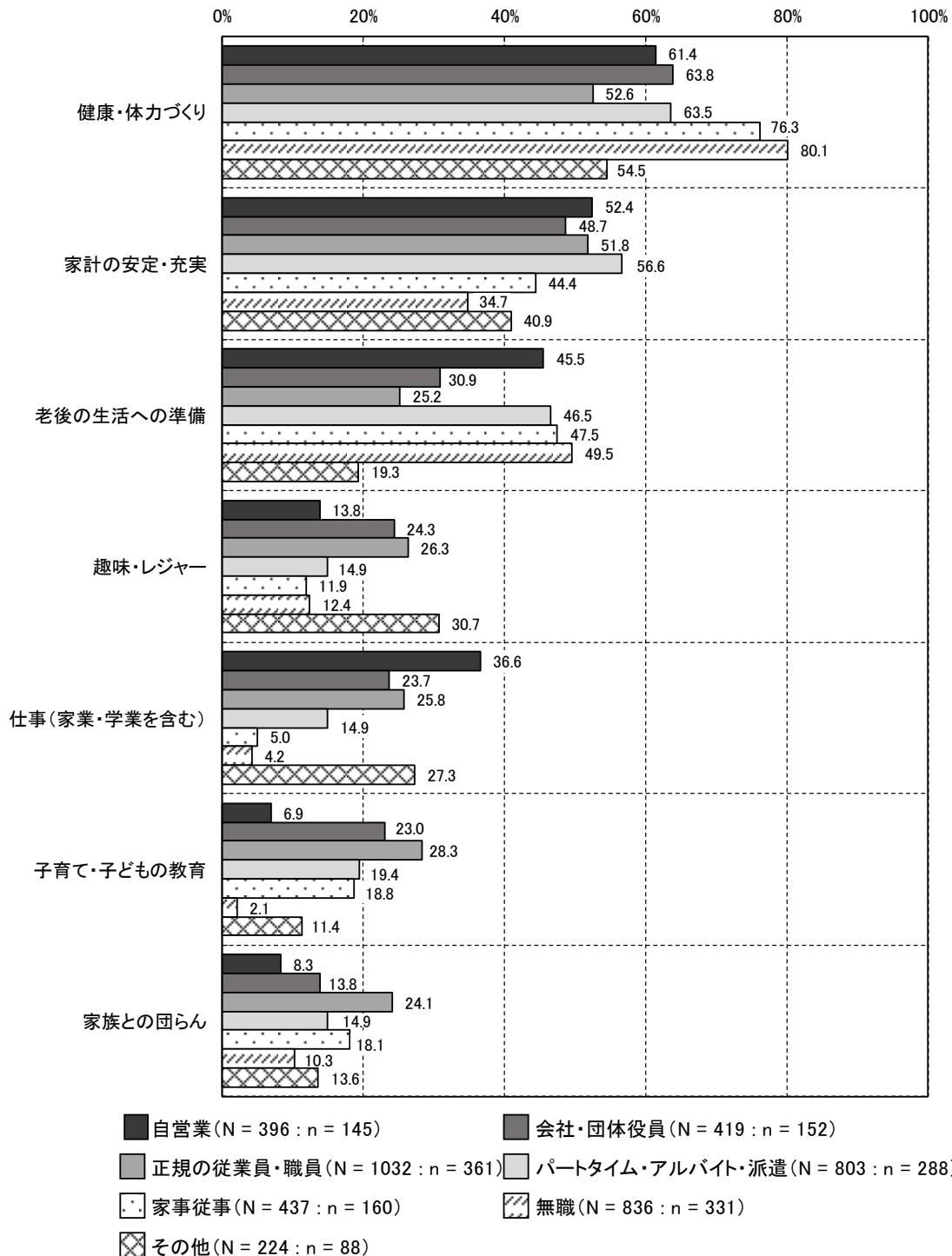
図 4-5 【居住圏域別】 今後の暮らしの中で重視していきたいこと（続き）



※ N=総回答数 n=回答者数

職業別（図 4-6）でみると、いずれの職業においても「健康・体力づくり」が最も高く、そのうち無職が80.1%と最も高くなっている。

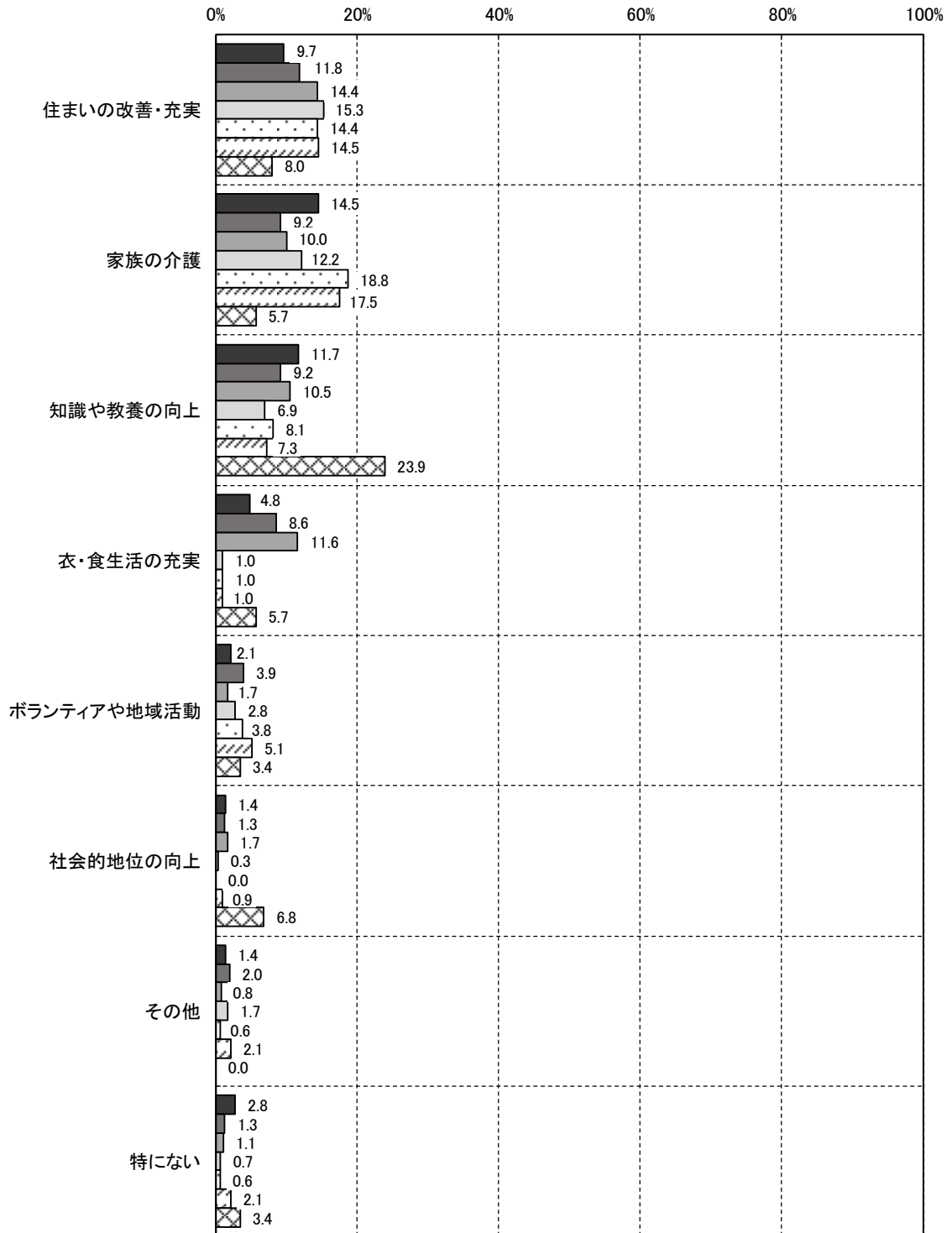
図 4-6 【職業別】 今後の暮らしの中で重視していきたいこと



※ その他には、自由業、学生を含む。

※ N=総回答数 n=回答者数

図 4-6 【職業別】 今後の暮らしの中で重視していきたいこと（続き）



■ 自営業 (N = 396 : n = 145) ■ 会社・団体役員 (N = 419 : n = 152)
 ■ 正規の従業員・職員 (N = 1032 : n = 361) ■ パートタイム・アルバイト・派遣 (N = 803 : n = 288)
 ■ 家事従事 (N = 437 : n = 160) ■ 無職 (N = 836 : n = 331)
 ■ その他 (N = 224 : n = 88)

※ その他には、自由業、学生を含む。
 ※ N=総回答数 n=回答者数

問5 生活に必要な情報の入手媒体

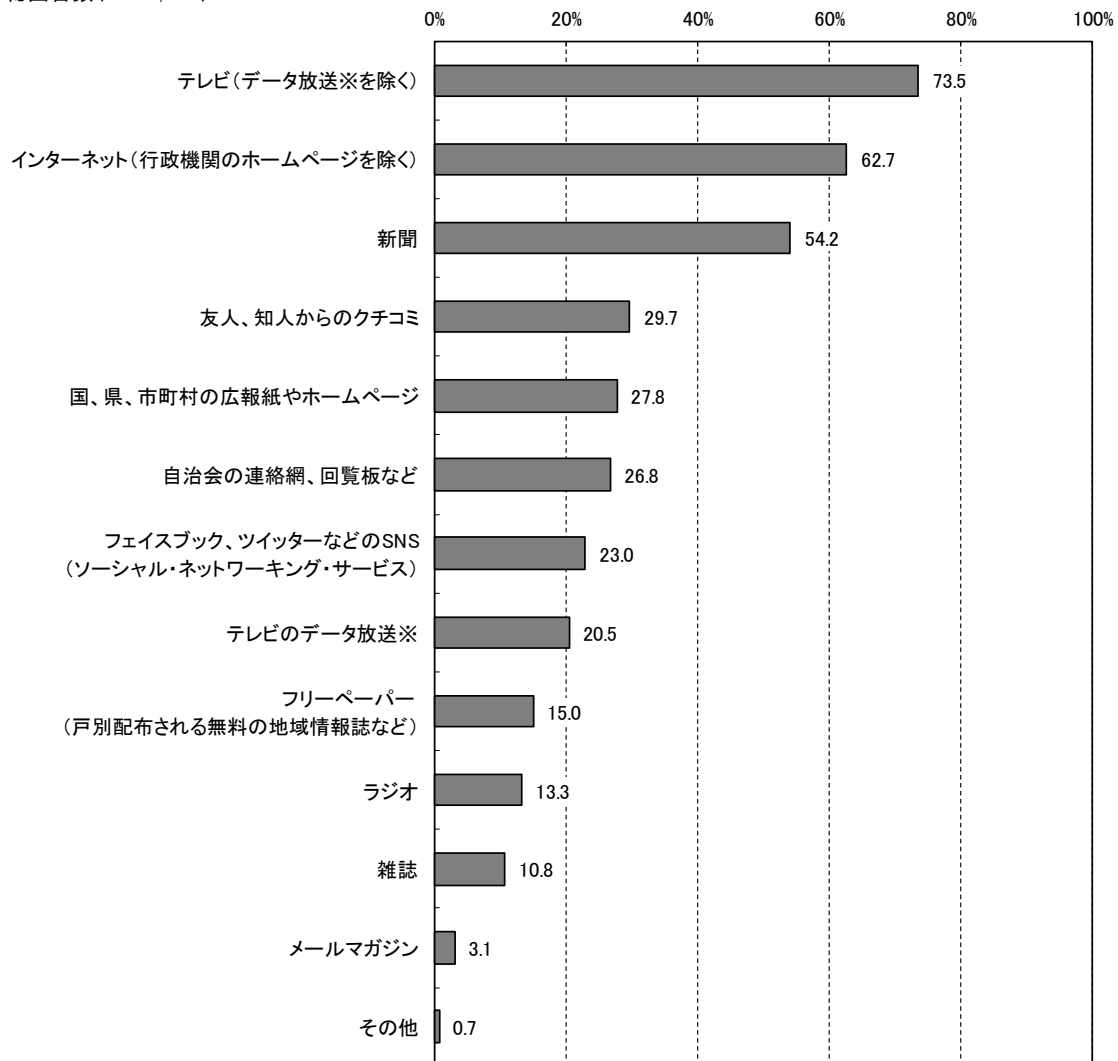
問5 あなたは、生活に必要な情報を何から得ていますか。(いくつでも)

全体(図5-1)で見ると、「テレビ(データ放送を除く)」が73.5%と最も高く、次いで「インターネット(行政機関のホームページを除く)」(62.7%)、「新聞」(54.2%)の順となっている。

図5-1 生活に必要な情報の入手媒体

回答者数(n = 1,553)

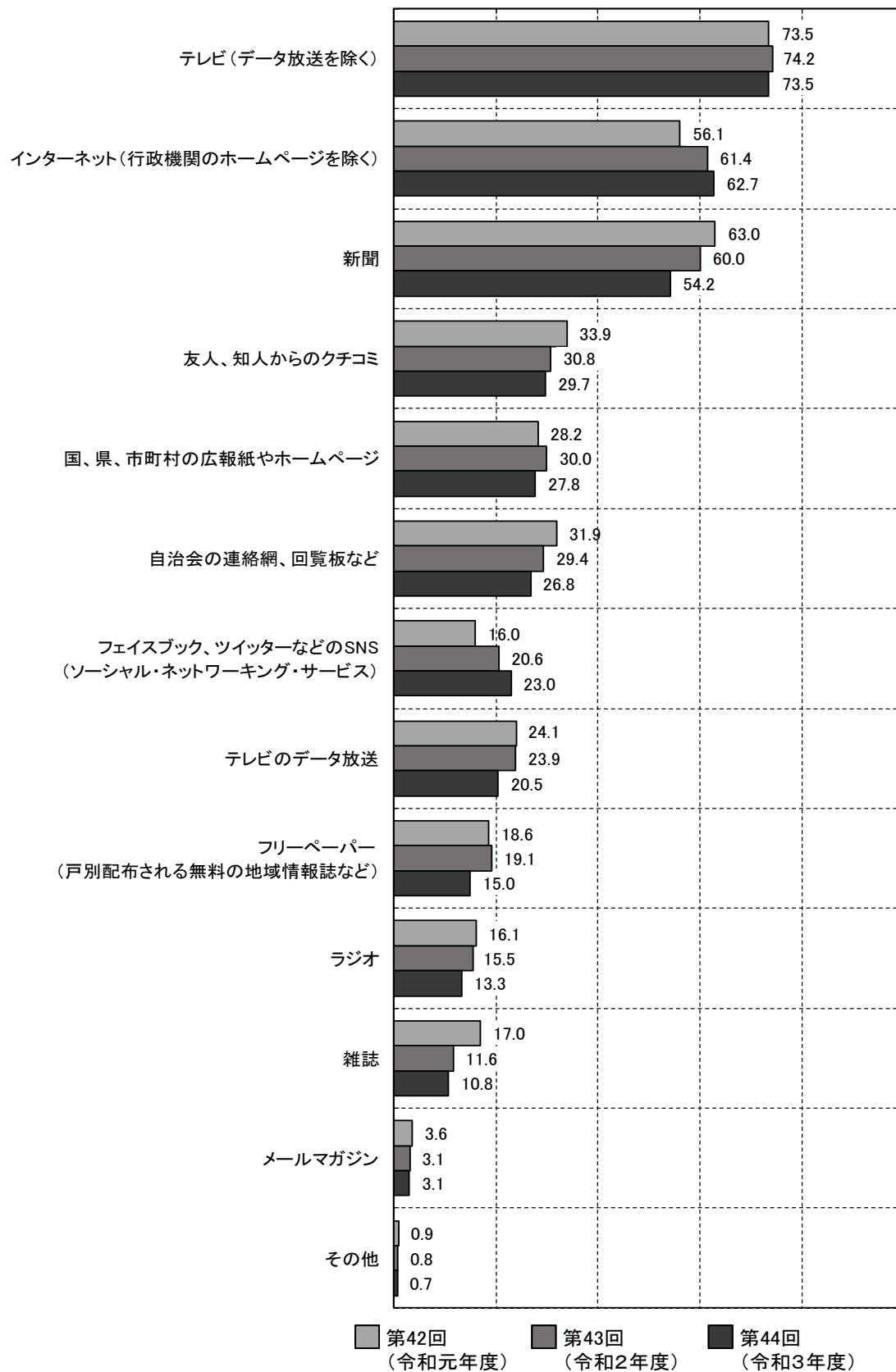
総回答数(N = 5,616)



※ データ放送:リモコンの「dボタン」を押すと天気やニュースなどの情報を入手できるサービス

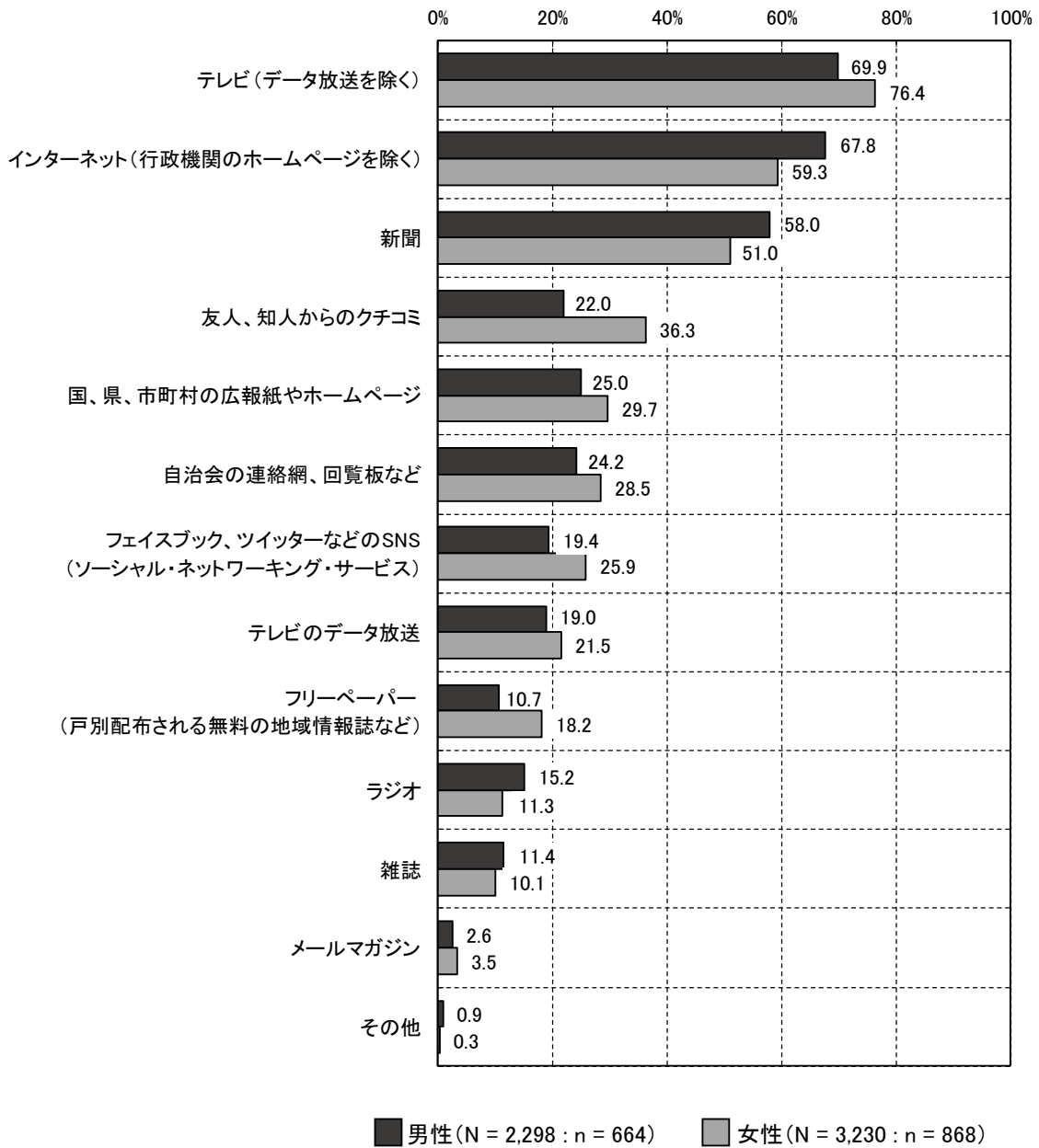
前々回・前回比較（図 5-2）で見ると、前々回・前回・今回と一貫して「テレビ（データ放送を除く）」が最も高くなっている。「新聞」は年々低くなっている。

図 5-2 【前々回・前回比較】生活に必要な情報の入手媒体



性別（図 5-3）で見ると、男女ともに「テレビ（データ放送を除く）」が最も高く、次いで「インターネット（行政機関のホームページを除く）」、「新聞」の順となっている。「友人、知人からのクチコミ」では、女性が男性より 14.3 ポイント高くなっている。

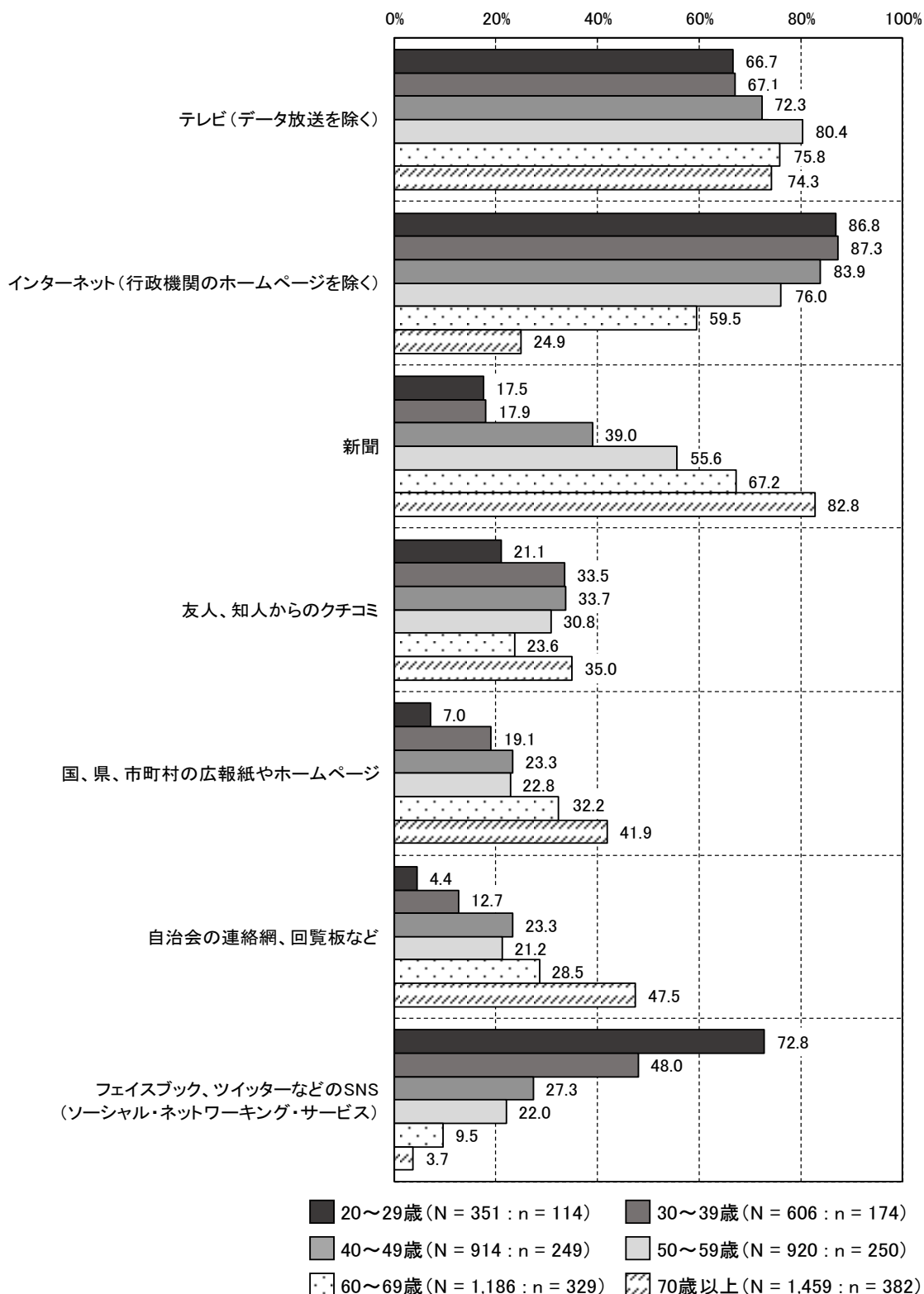
図 5-3 【性別】 生活に必要な情報の入手媒体



※ N=総回答数 n=回答者数

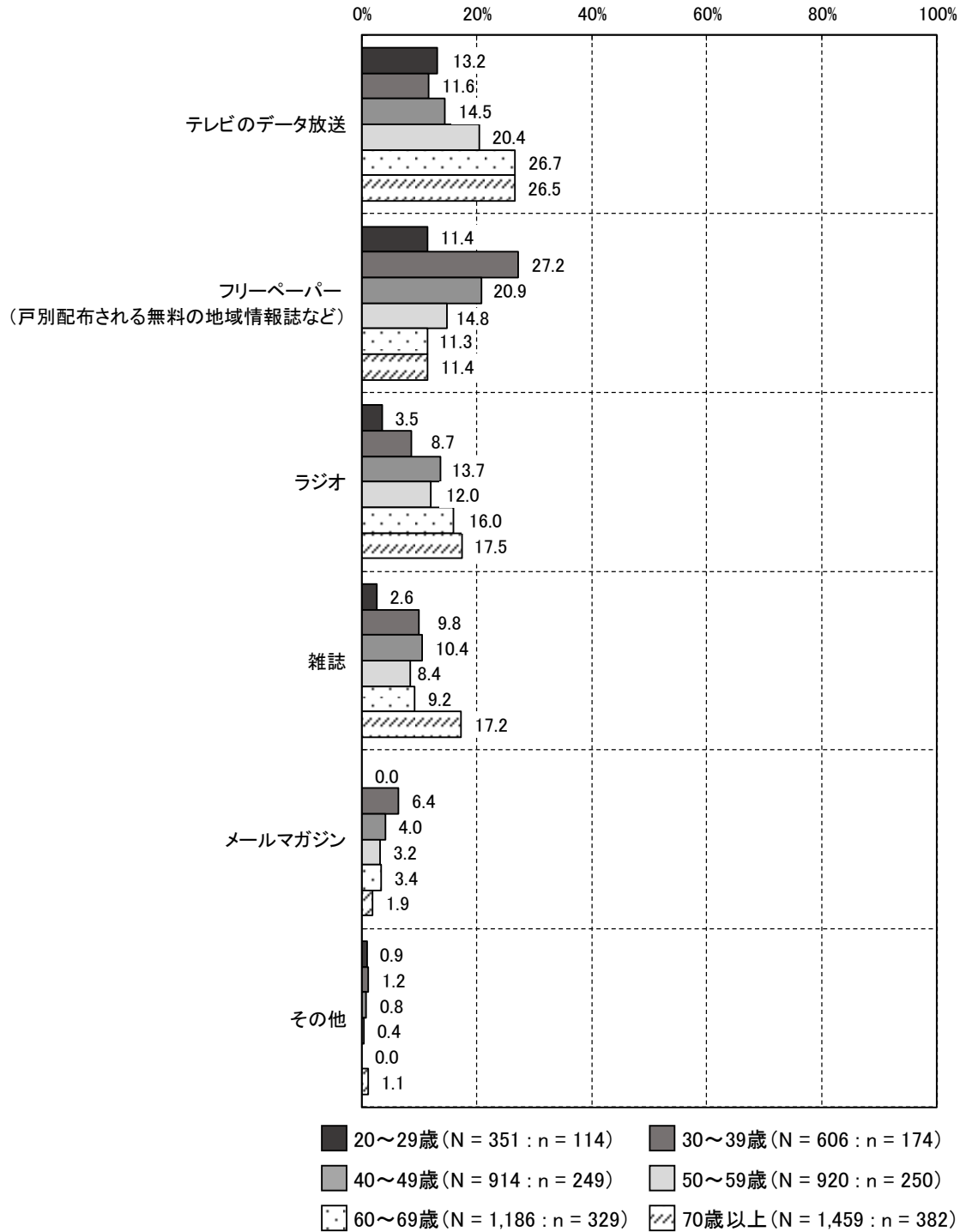
年代別（図 5-4）で見ると、20 歳代、30 歳代、40 歳代では「インターネット（行政機関のホームページを除く）」が最も高く、50 歳代、60 歳代では「テレビ（データ放送を除く）」が最も高くなっている。「フェイスブック、ツイッターなどの SNS（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）」では、20 歳代が他の年代に比べて高くなっている。

図 5-4 【年代別】生活に必要な情報の入手媒体



※ N=総回答数 n=回答者数

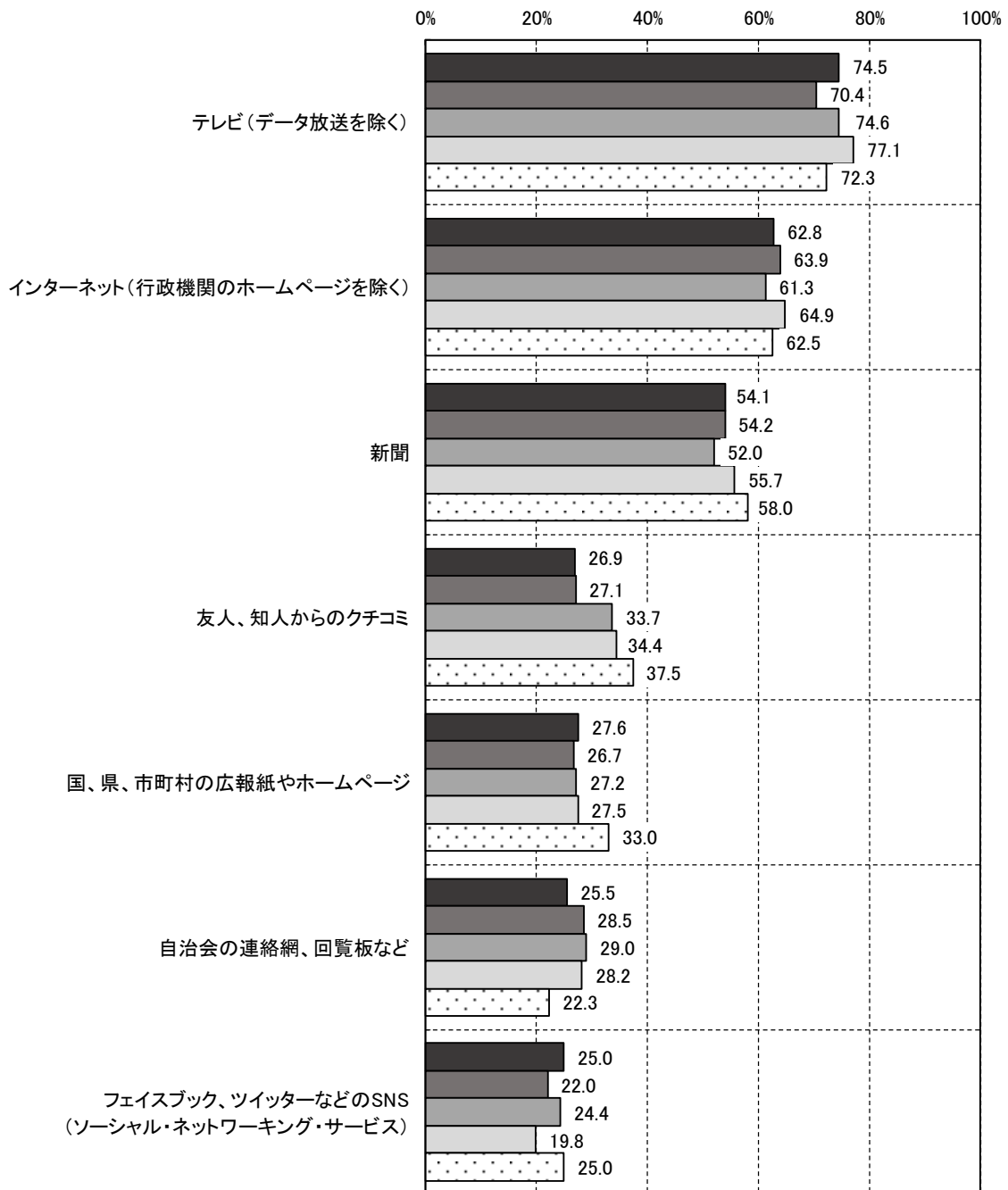
図 5-4 【年代別】生活に必要な情報の入手媒体（続き）



※ N=総回答数 n=回答者数

居住圏域別（図 5-5）で見ると、いずれの居住圏域においても「テレビ（データ放送を除く）」が最も高く、そのうち東濃圏域が 77.1%と最も高くなっている。

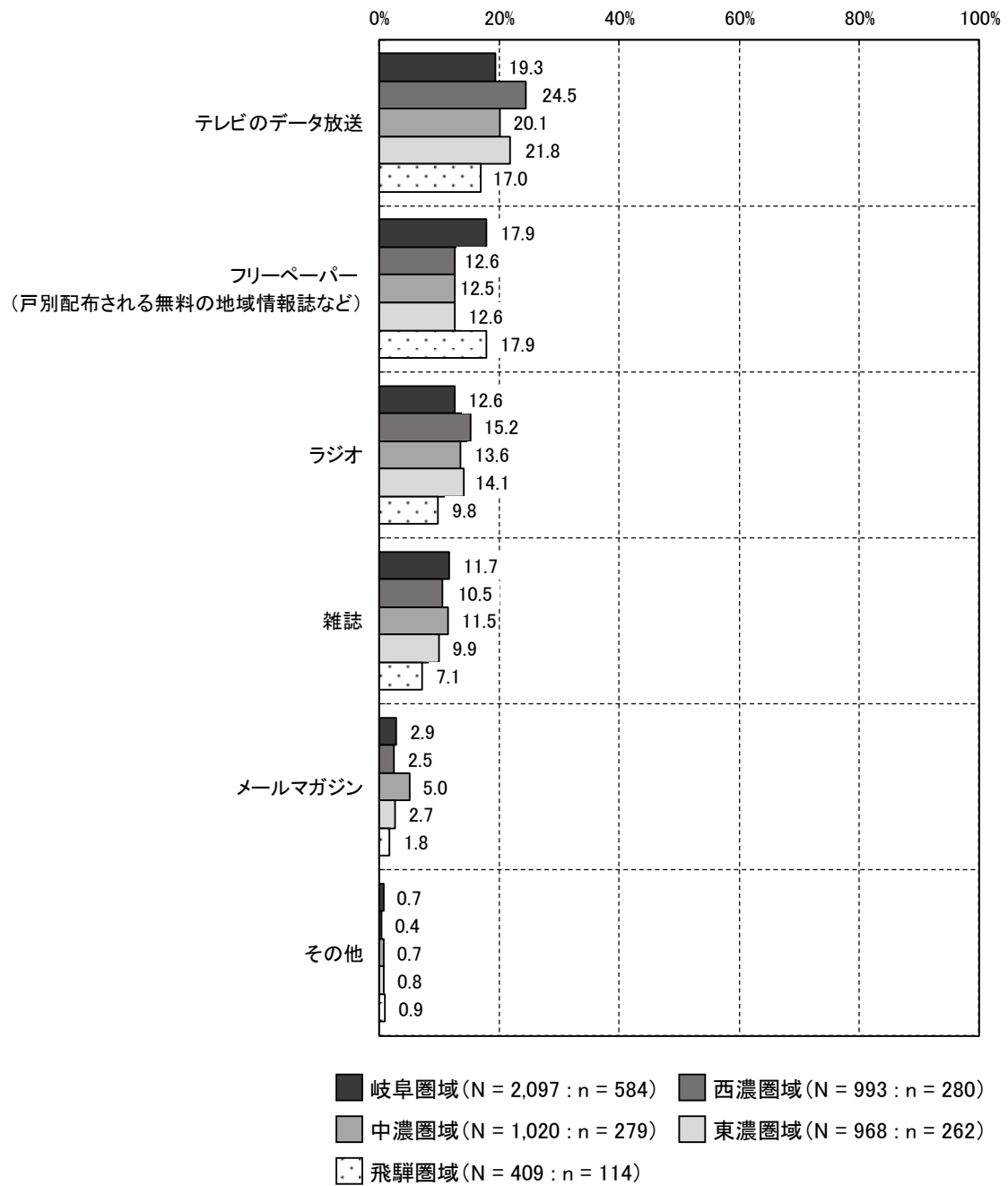
図 5-5 【居住圏域別】生活に必要な情報の入手媒体



■ 岐阜圏域 (N = 2,097 : n = 584) ■ 西濃圏域 (N = 993 : n = 280)
 ■ 中濃圏域 (N = 1,020 : n = 279) ■ 東濃圏域 (N = 968 : n = 262)
 ■ 飛騨圏域 (N = 409 : n = 114)

※ N=総回答数 n=回答者数

図 5-5 【居住圏域別】生活に必要な情報の入手媒体（続き）



※ N=総回答数 n=回答者数

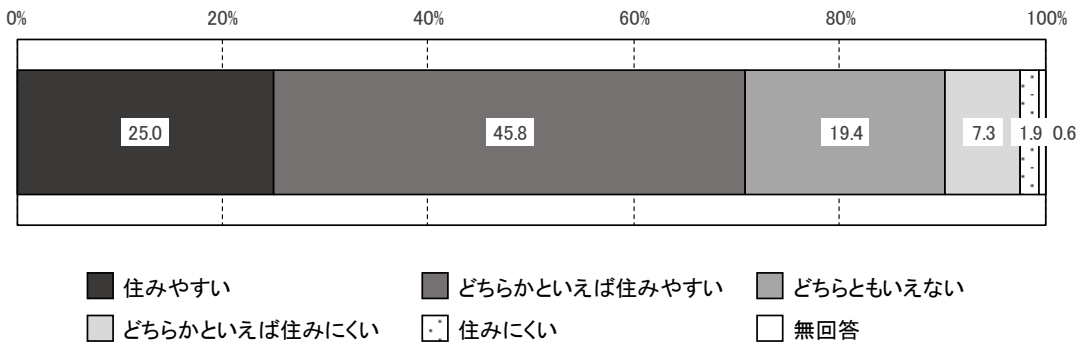
問6 現在住んでいる地域は住みやすいか

問6 あなたにとって、現在お住まいの地域は住みやすいですか。(1つだけ)

全体(図6-1)で見ると、「どちらかといえば住みやすい」が45.8%と最も高くなっている。次いで「住みやすい」(25.0%)、「どちらともいえない」(19.4%)の順となっている。

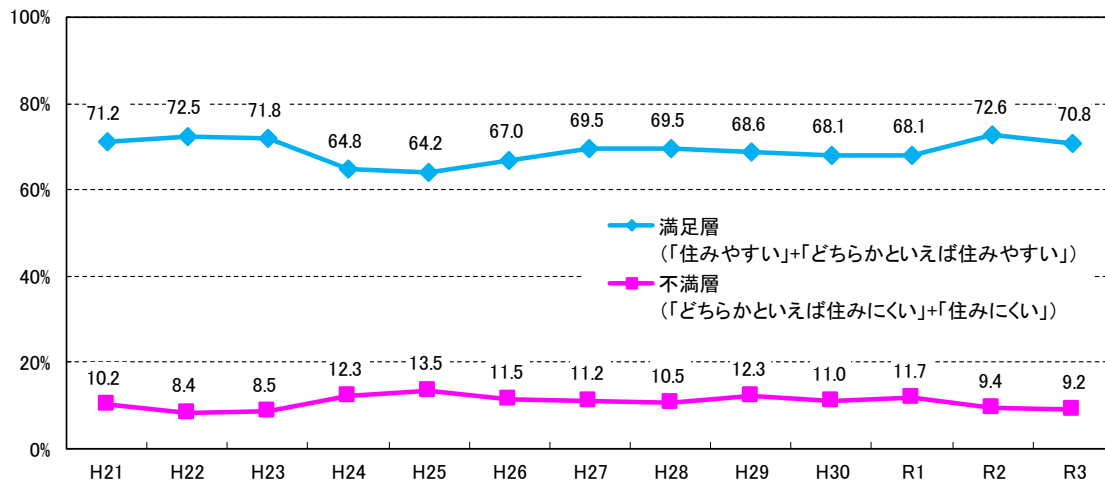
図6-1 現在住んでいる地域は住みやすいか

回答者数(n = 1,553)



経年変化(図6-2)で見ると、令和3年は前年と比べて「満足層」(「住みやすい」+「どちらかといえば住みやすい」)は1.8ポイント減少し、「不満層」(「どちらかといえば住みにくい」+「住みにくい」)は0.2ポイント減少している。

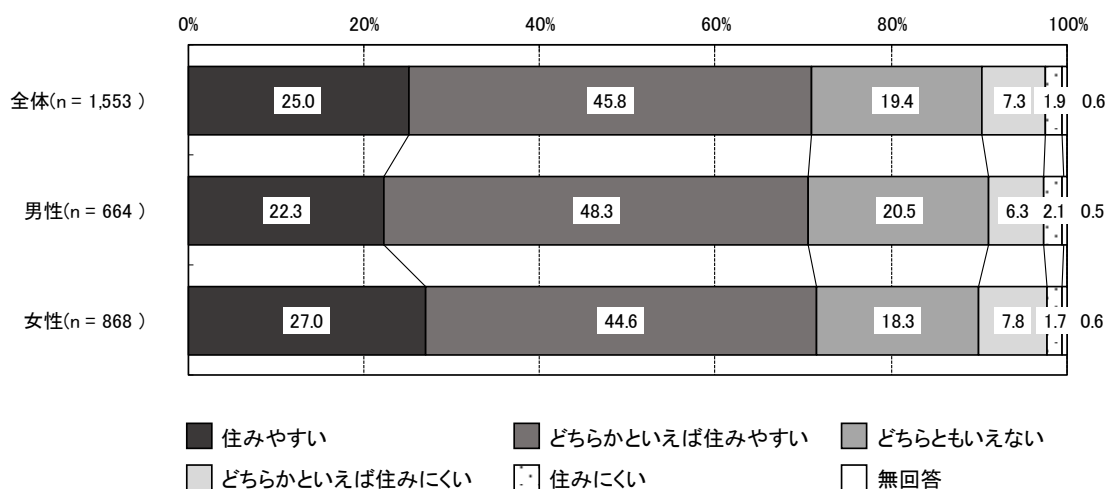
図6-2【経年変化】現在住んでいる地域は住みやすいか



※ 平成21年度から調査

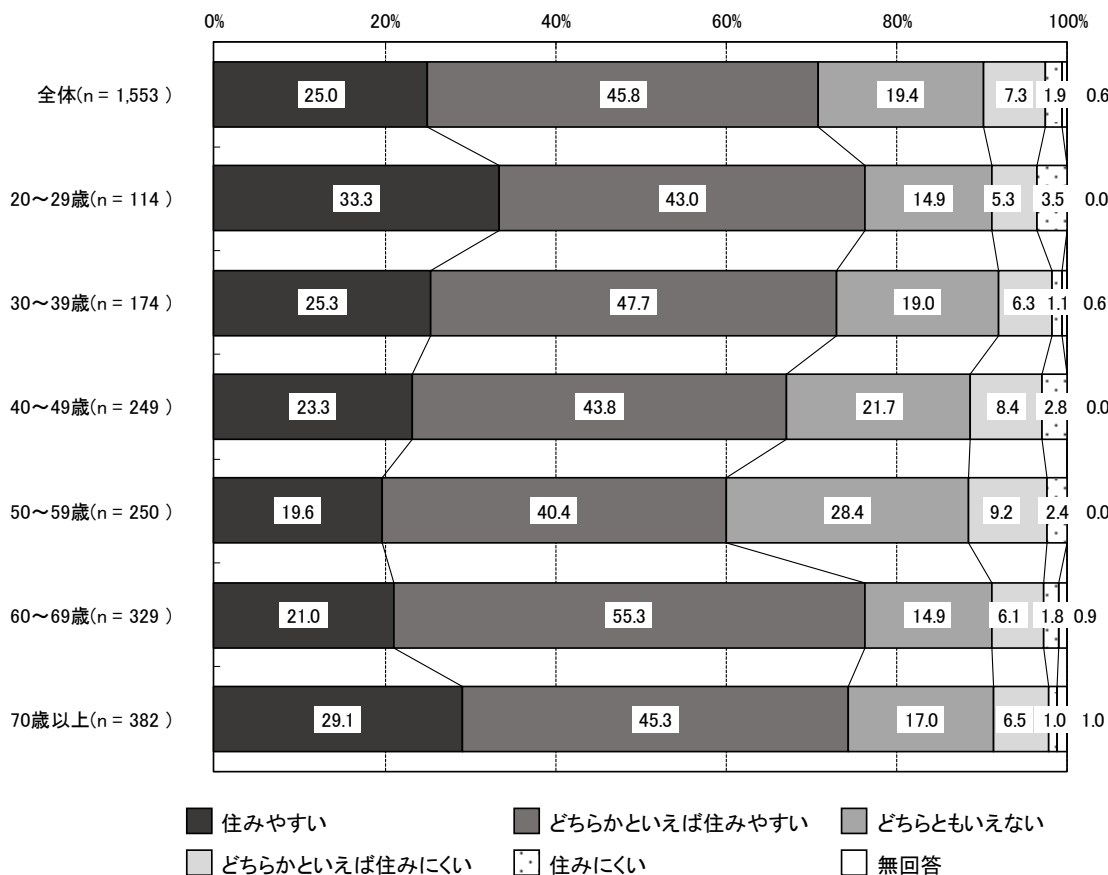
性別（図 6-3）でみると、男女ともに「どちらかといえば住みやすい」が最も高く、男性が 48.3%、女性が 44.6%となっている。

図 6-3 【性別】 現在住んでいる地域は住みやすいか



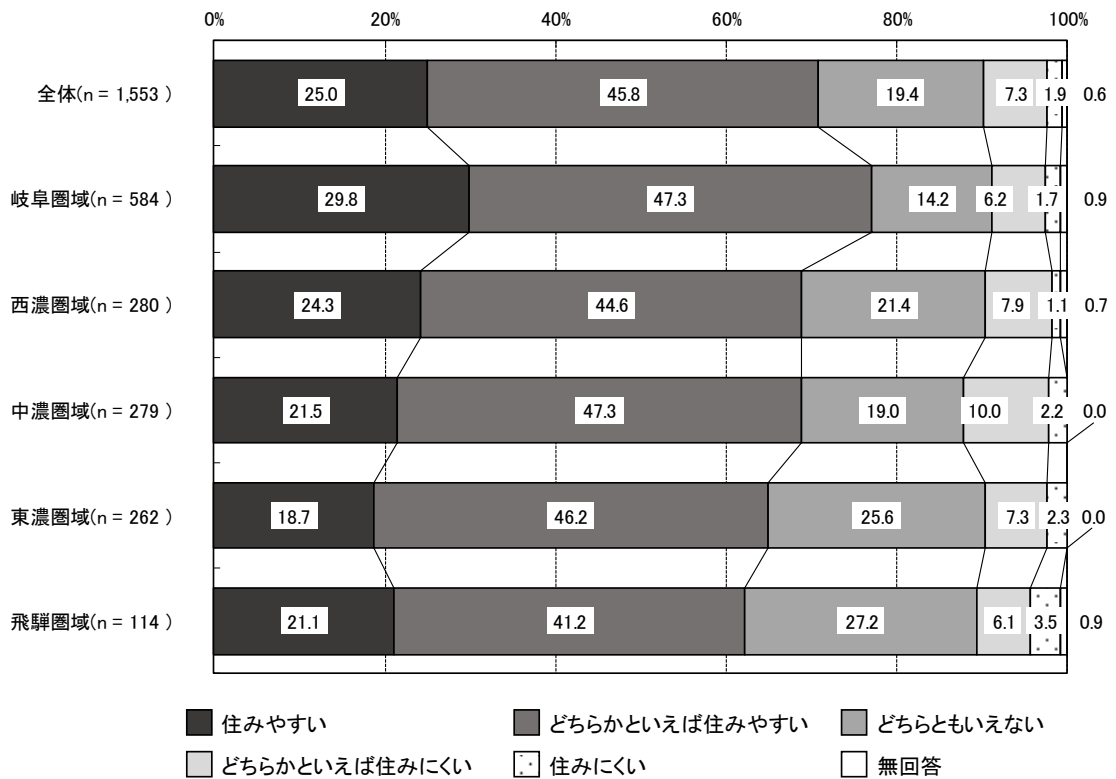
年代別（図 6-4）でみると、いずれの年代においても「どちらかといえば住みやすい」が最も高くなっている。次いで、50歳代を除くいずれの年代でも「住みやすい」が、50歳代は「どちらともいえない」が高くなっている。

図 6-4 【年代別】 現在住んでいる地域は住みやすいか



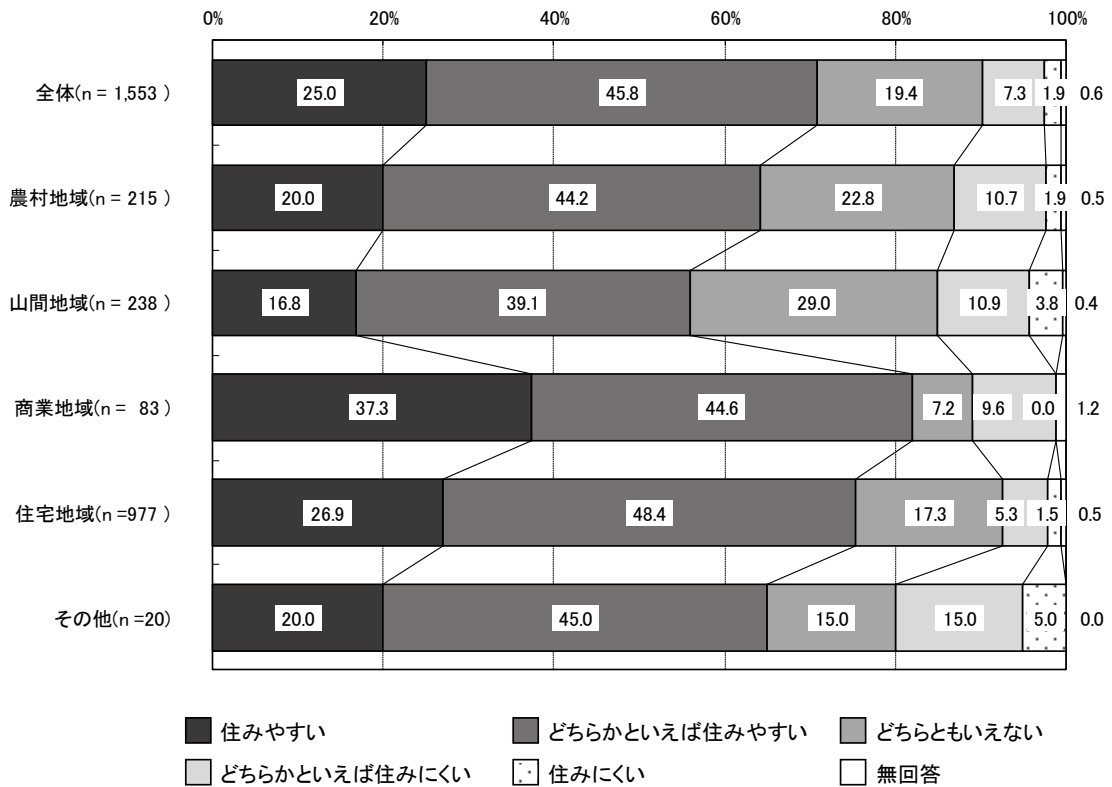
居住圏域別（図 6-5）で見ると、いずれの居住圏域においても「どちらかといえば住みやすい」が最も高くなっている。

図 6-5 【居住圏域別】 現在住んでいる地域は住みやすいか



居住環境別（図 6-6）でみると、いずれの居住環境においても「どちらかといえば住みやすい」が最も高くなっている。

図 6-6 【居住環境別】 現在住んでいる地域は住みやすいか



問6-2 住んでいる地域が住みやすいと感じる点

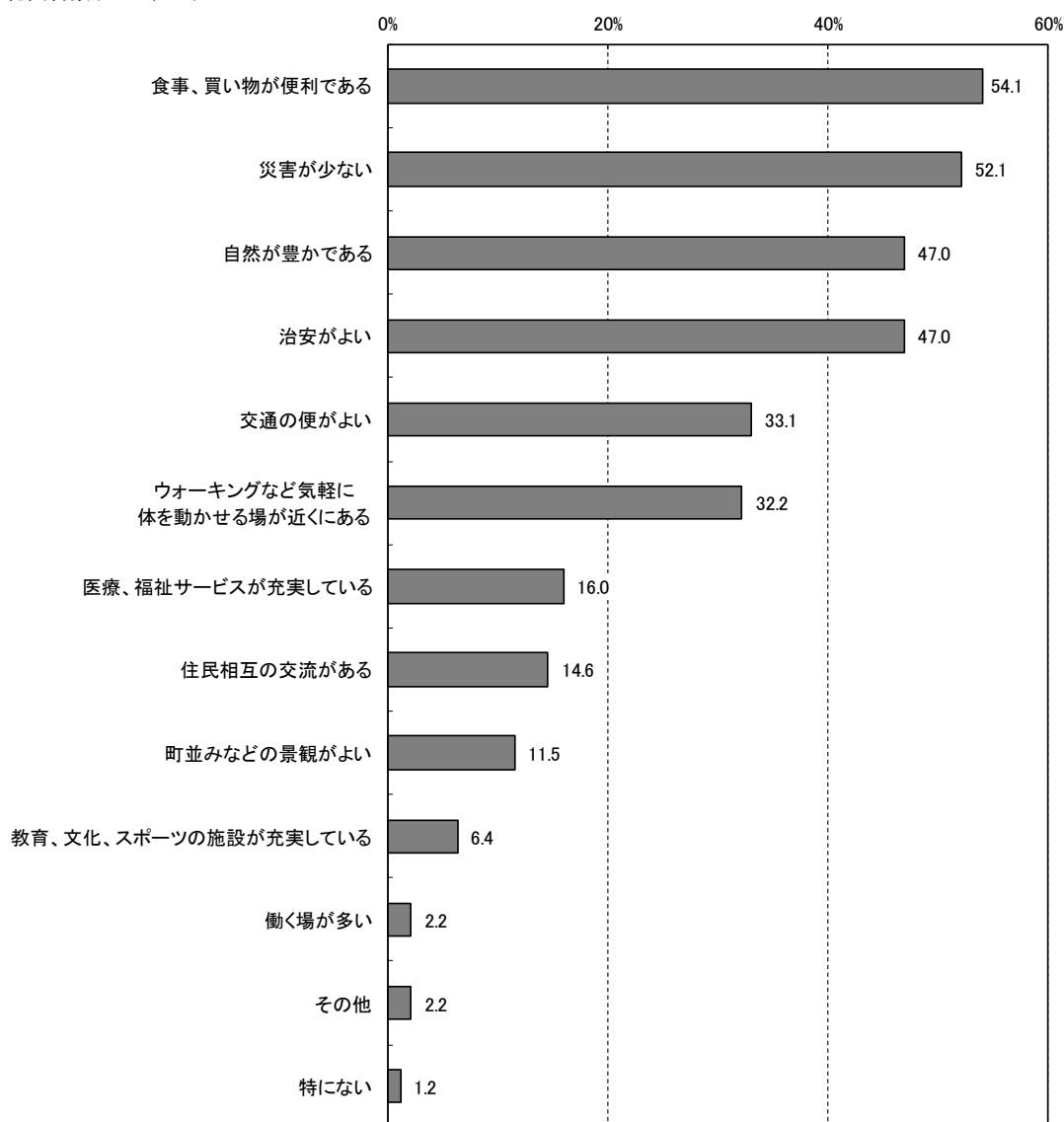
問6-2 「住みやすい」「どちらかといえば住みやすい」と答えた方にお尋ねします。
あなたが、現在お住まいの地域が住みやすいと感じるのは、特にどのような点ですか。(いくつでも)

全体(図6-2-1)で見ると、「食事、買い物が便利である」が54.1%と最も高く、次いで「災害が少ない」(52.1%)、「自然が豊かである」と「治安がよい」(同率47.0%)、「交通の便がよい」(33.1%)の順となっている。

図6-2-1 住んでいる地域が住みやすいと感じる点

回答者数(n = 1,101)※

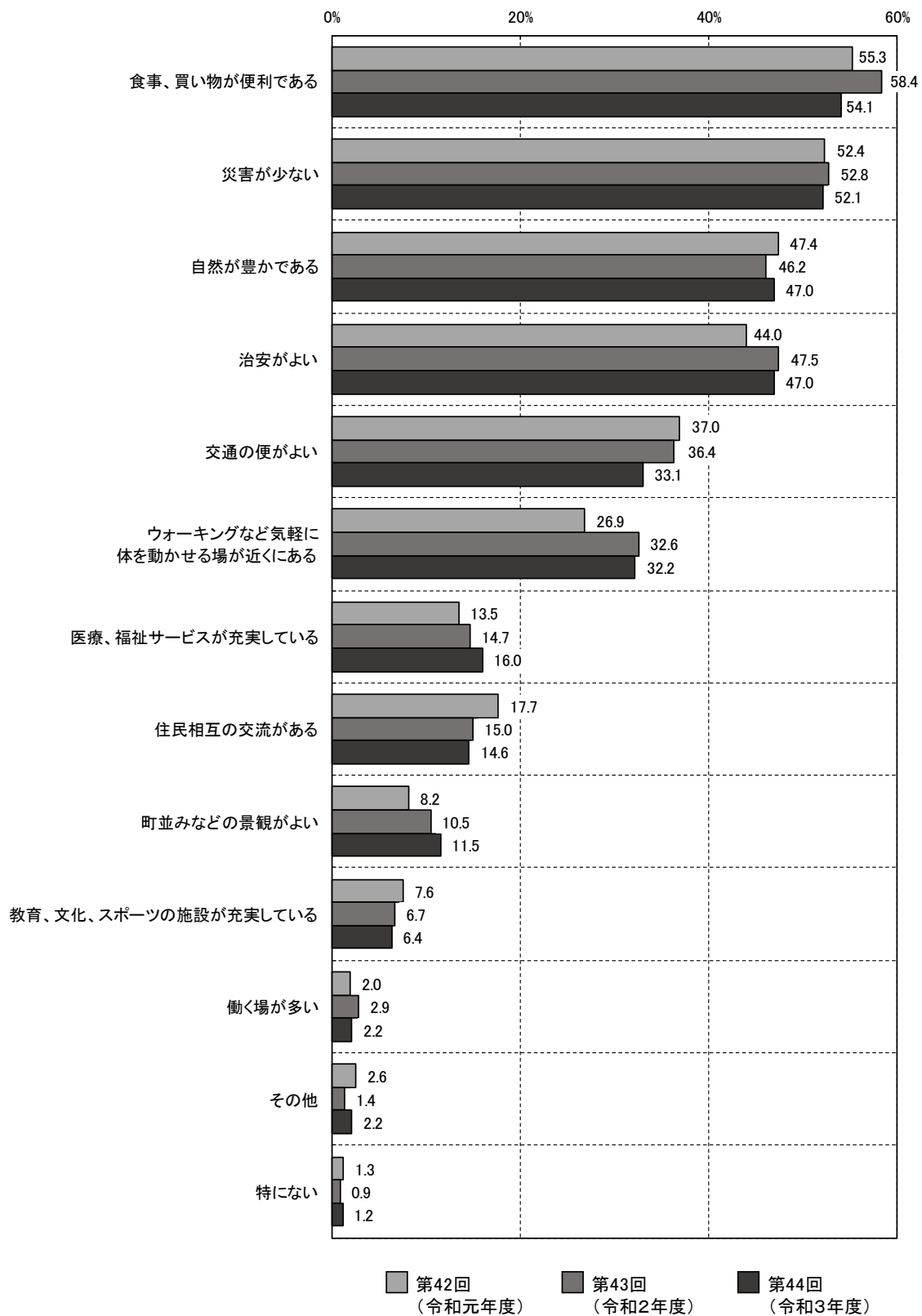
総回答数(N = 3,535)



※ 問6で「住みやすい」「どちらかといえば住みやすい」と答えた方のみ

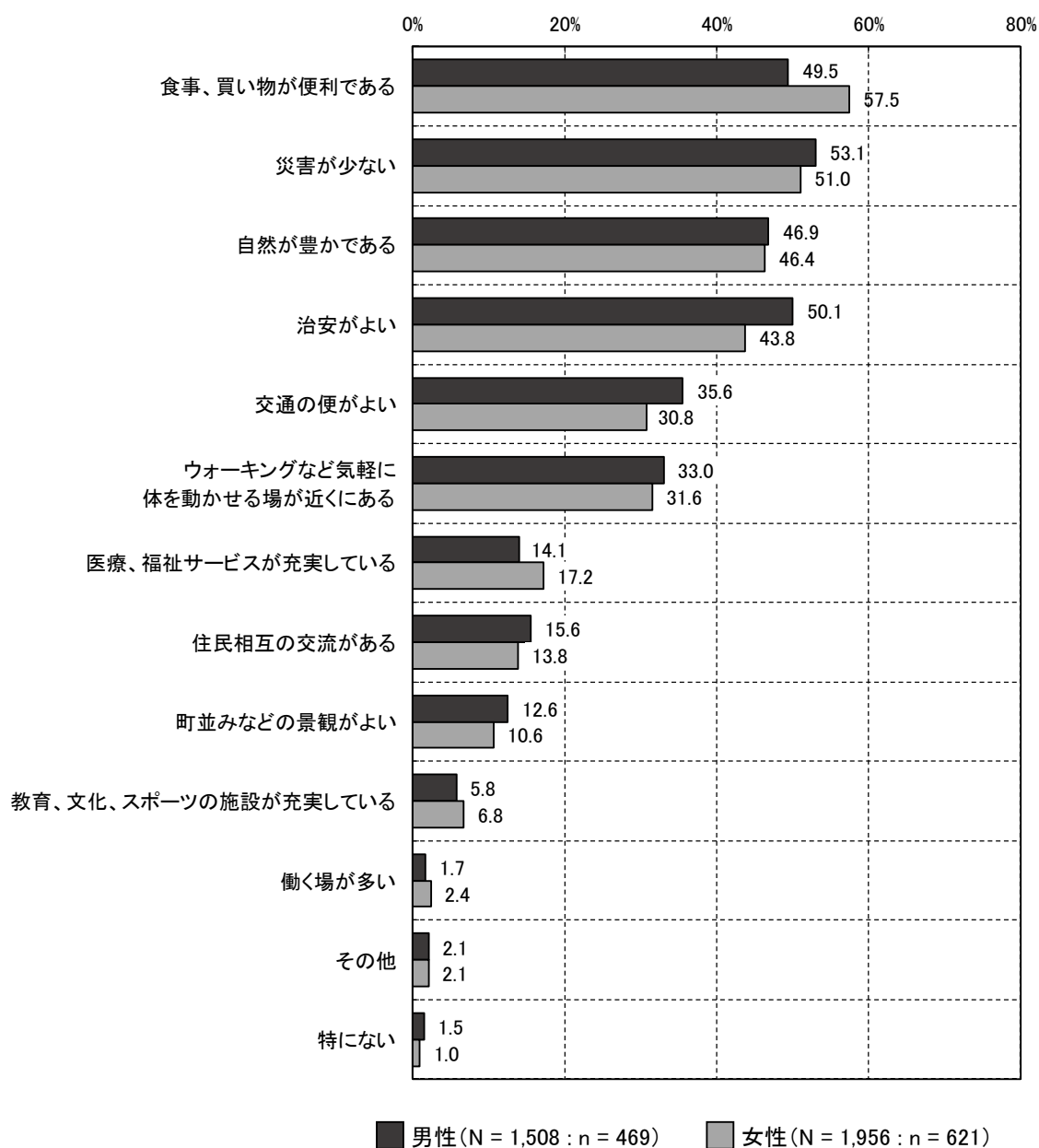
前々回・前回比較（図 6-2-2）で見ると、前々回・前回・今回と一貫して「食事、買い物
が便利である」が最も高くなっている。

図 6-2-2 【前々回・前回比較】 住んでいる地域が住みやすいと感じる点



性別（図 6-2-3）で見ると、男性では「災害が少ない」が 53.1%と最も高く、女性では「食事、買い物が便利である」が 57.5%と最も高くなっている。

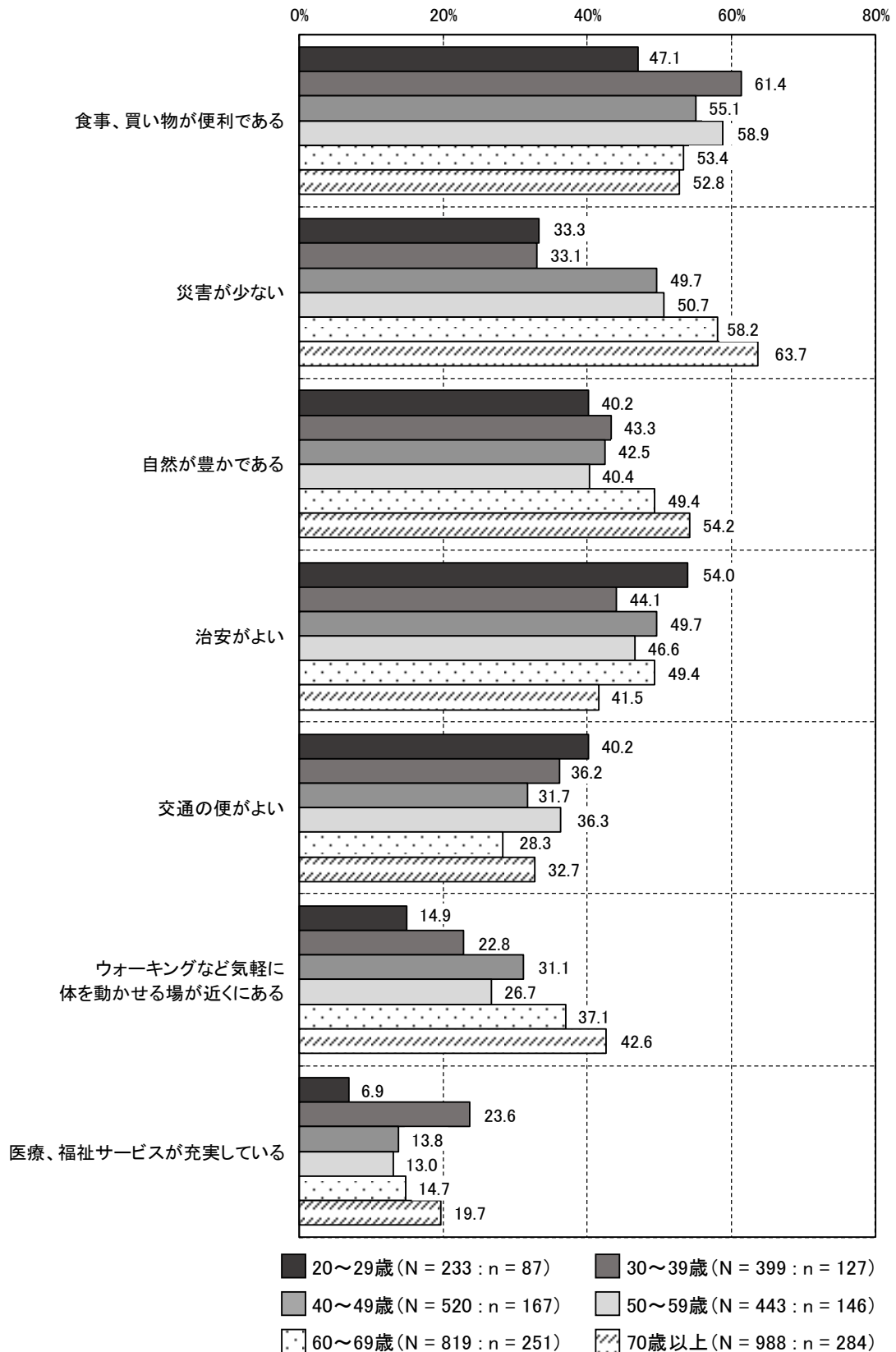
図 6-2-3 【性別】 住んでいる地域が住みやすいと感じる点



※ N=総回答数 n=回答者数

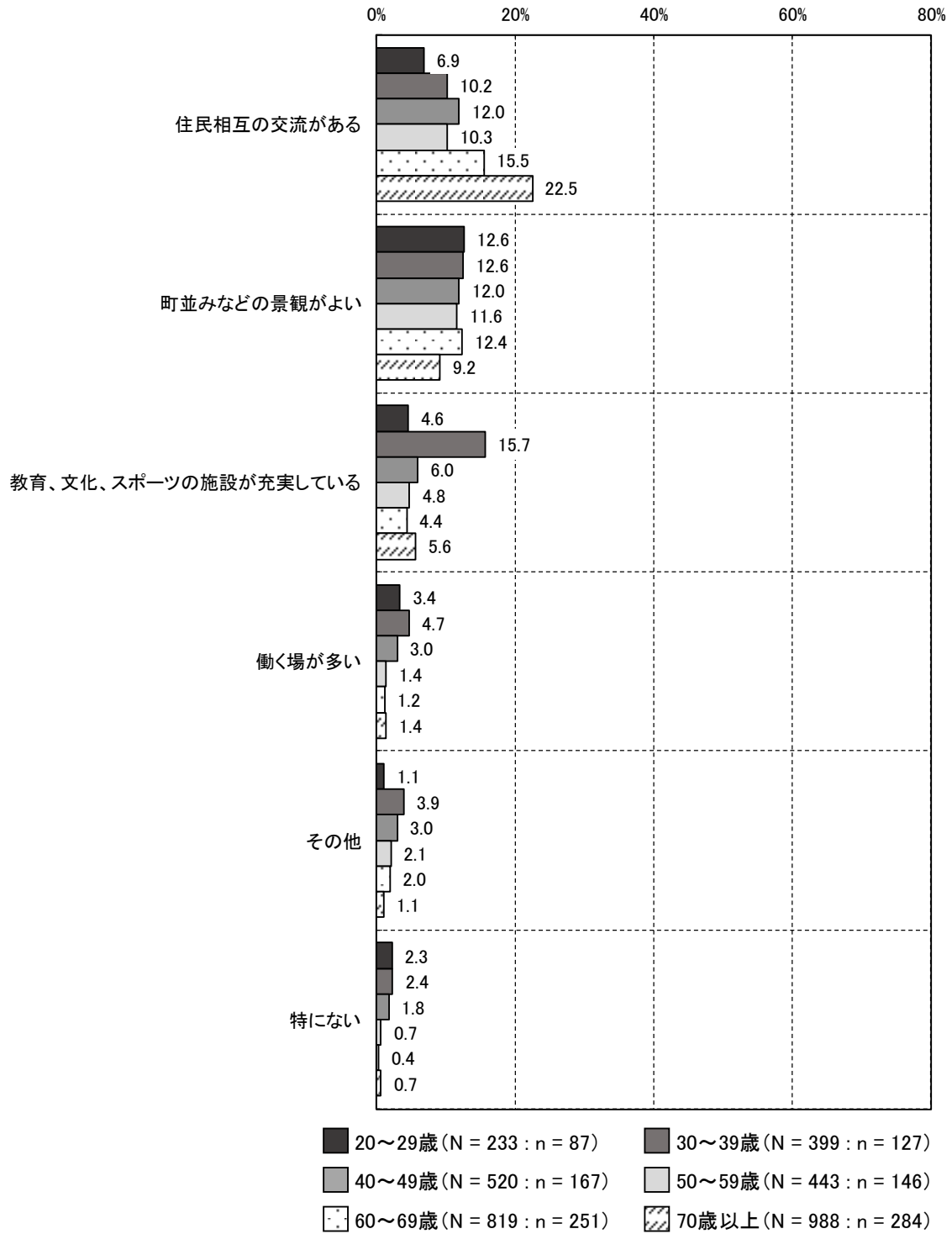
年代別（図 6-2-4）でみると、20 歳代では「治安がよい」が最も高く、30 歳代、40 歳代、50 歳代では「食事、買い物が便利である」が、60 歳代、70 歳以上では「災害が少ない」が最も高くなっている。

図 6-2-4 【年代別】住んでいる地域が住みやすいと感じる点



※ N=総回答数 n=回答者数

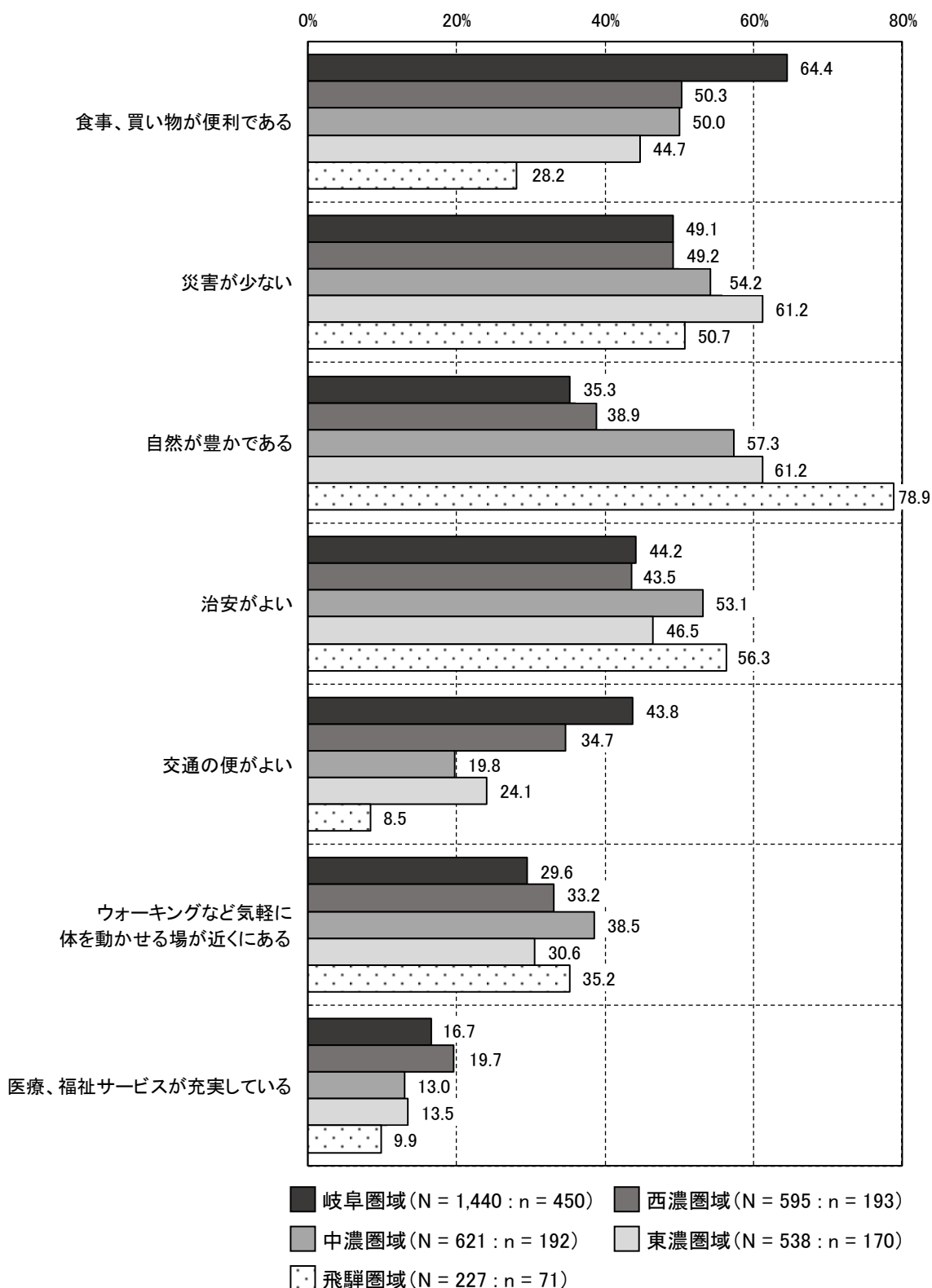
図 6-2-4 【年代別】住んでいる地域が住みやすいと感じる点（続き）



※ N=総回答数 n=回答者数

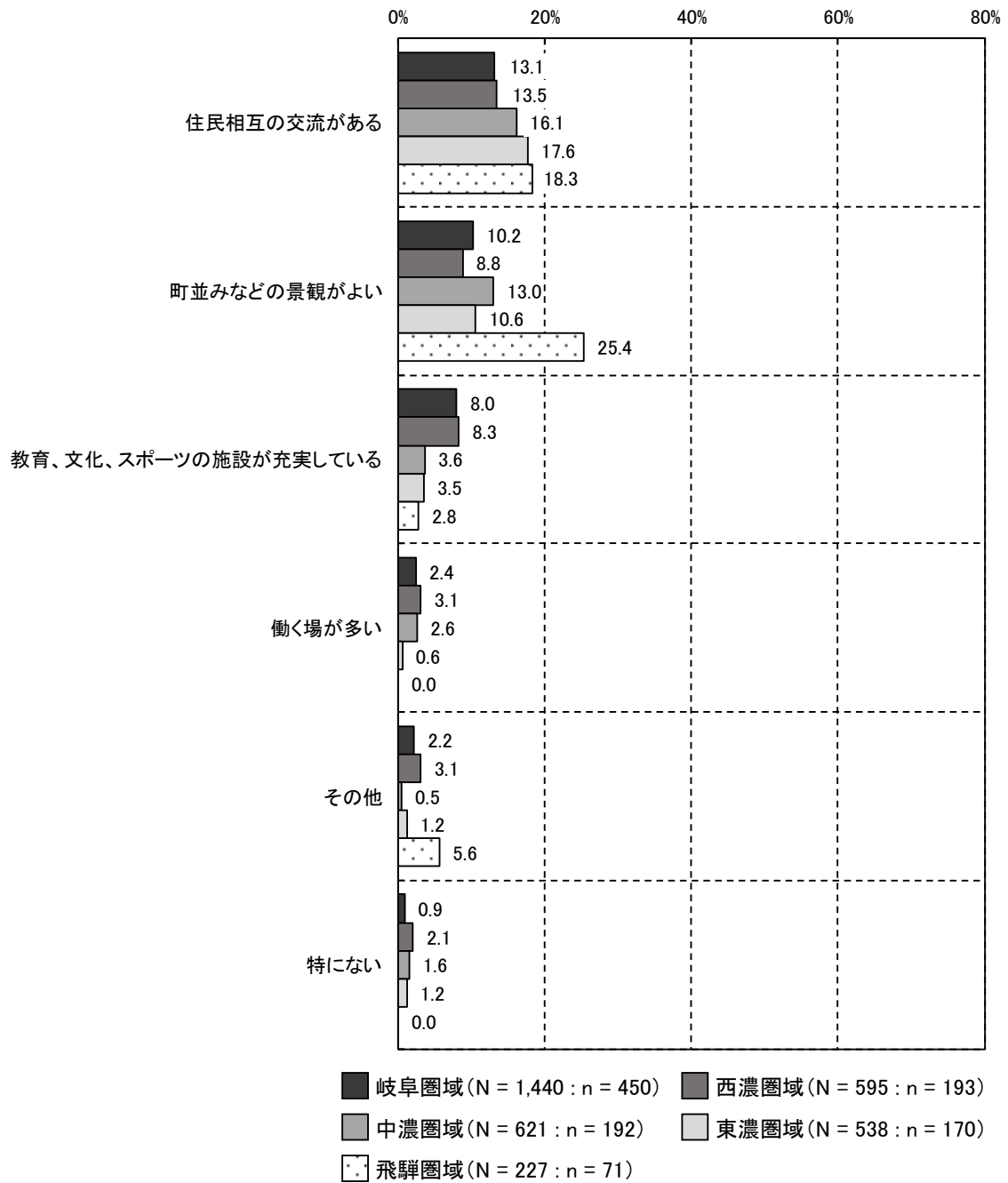
居住圏域別（図 6-2-5）で見ると、岐阜圏域、西濃圏域では「食事、買い物が便利である」が、中濃圏域、東濃圏域、飛騨圏域では「自然が豊かである」が最も高く（東濃圏域は「災害が少ない」が 61.2%と同率）なっている。

図 6-2-5 【居住圏域別】住んでいる地域が住みやすいと感じる点



※ N=総回答数 n=回答者数

図 6-2-5 【居住圏域別】 住んでいる地域が住みやすいと感じる点（続き）



※ N=総回答数 n=回答者数

問6-3 住んでいる地域が住みにくいと感ずる点

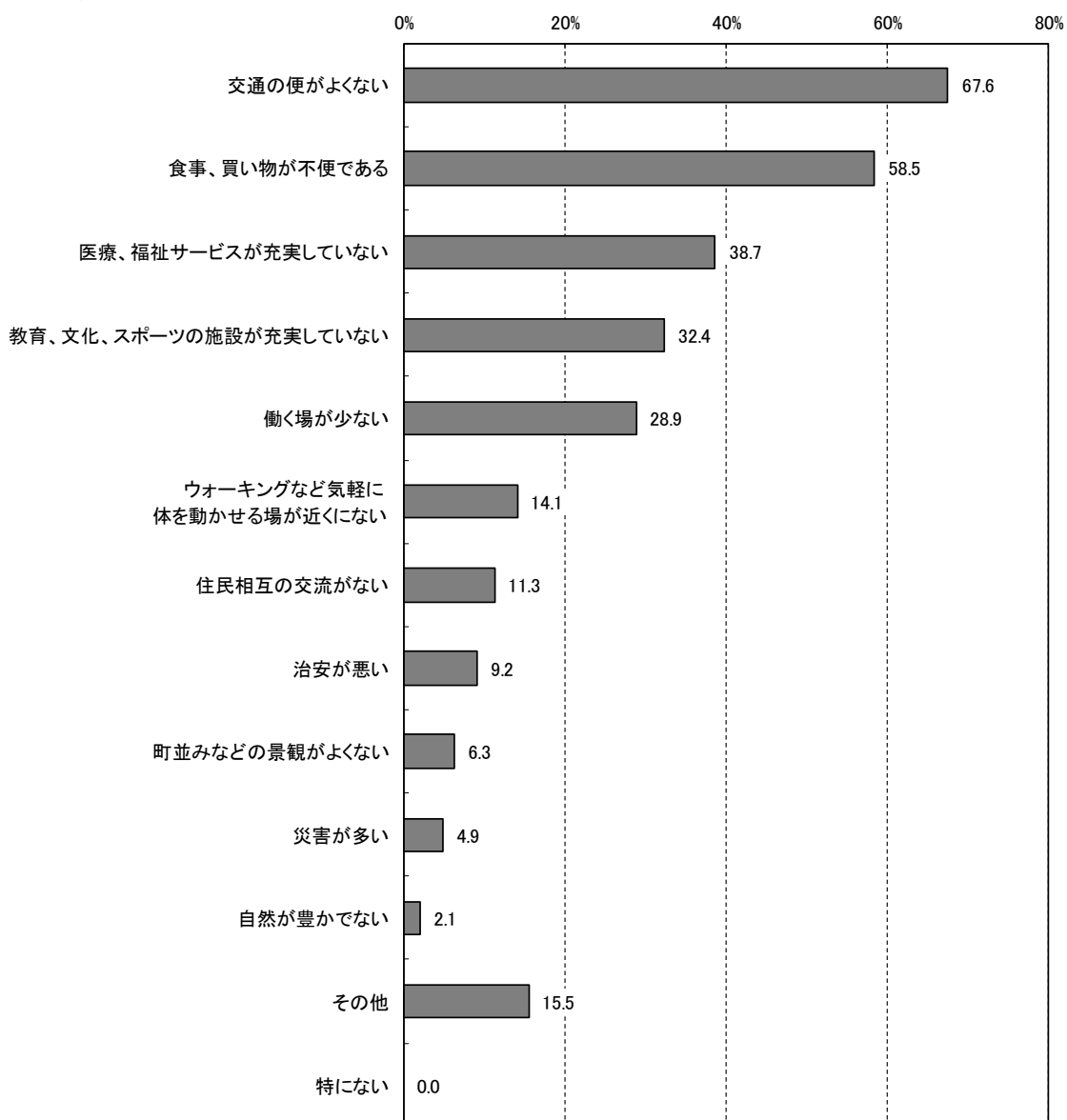
問6-3 「どちらかといえば住みにくい」「住みにくい」と答えた方にお尋ねします。
あなたが、現在お住まいの地域が住みにくいと感ずるのは、特にどのような点で
すか。(いくつでも)

全体(図6-3-1)でみると、「交通の便がよくない」が67.6%と最も高く、次いで「食事、
買い物が不便である」(58.5%)、「医療、福祉サービスが充実していない」(38.7%)の順と
なっている。

図6-3-1 住んでいる地域が住みにくいと感ずる点

回答者数(n = 142)※

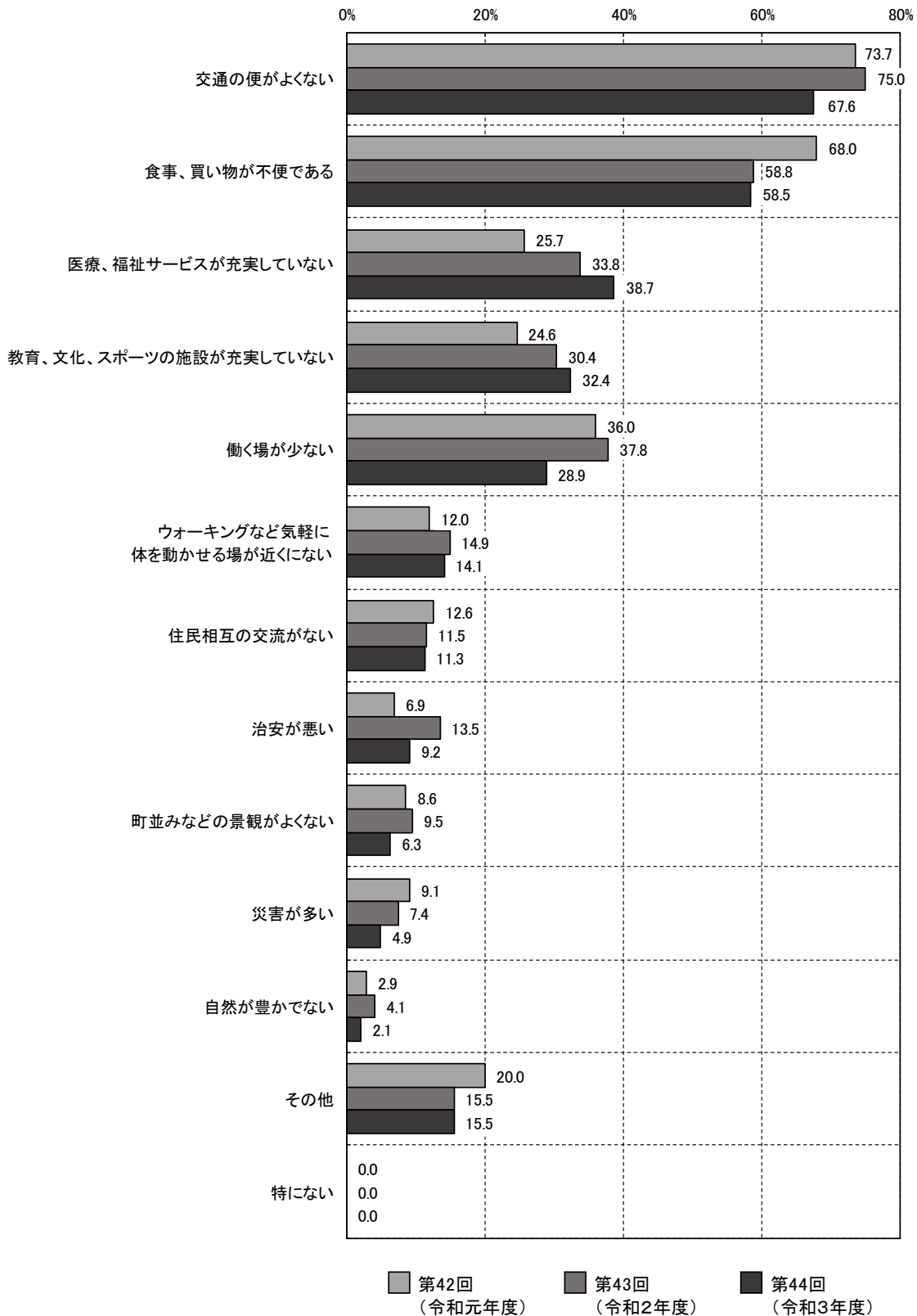
総回答数(N = 425)



※ 問6で「どちらかといえば住みにくい」「住みにくい」と答えた方のみ

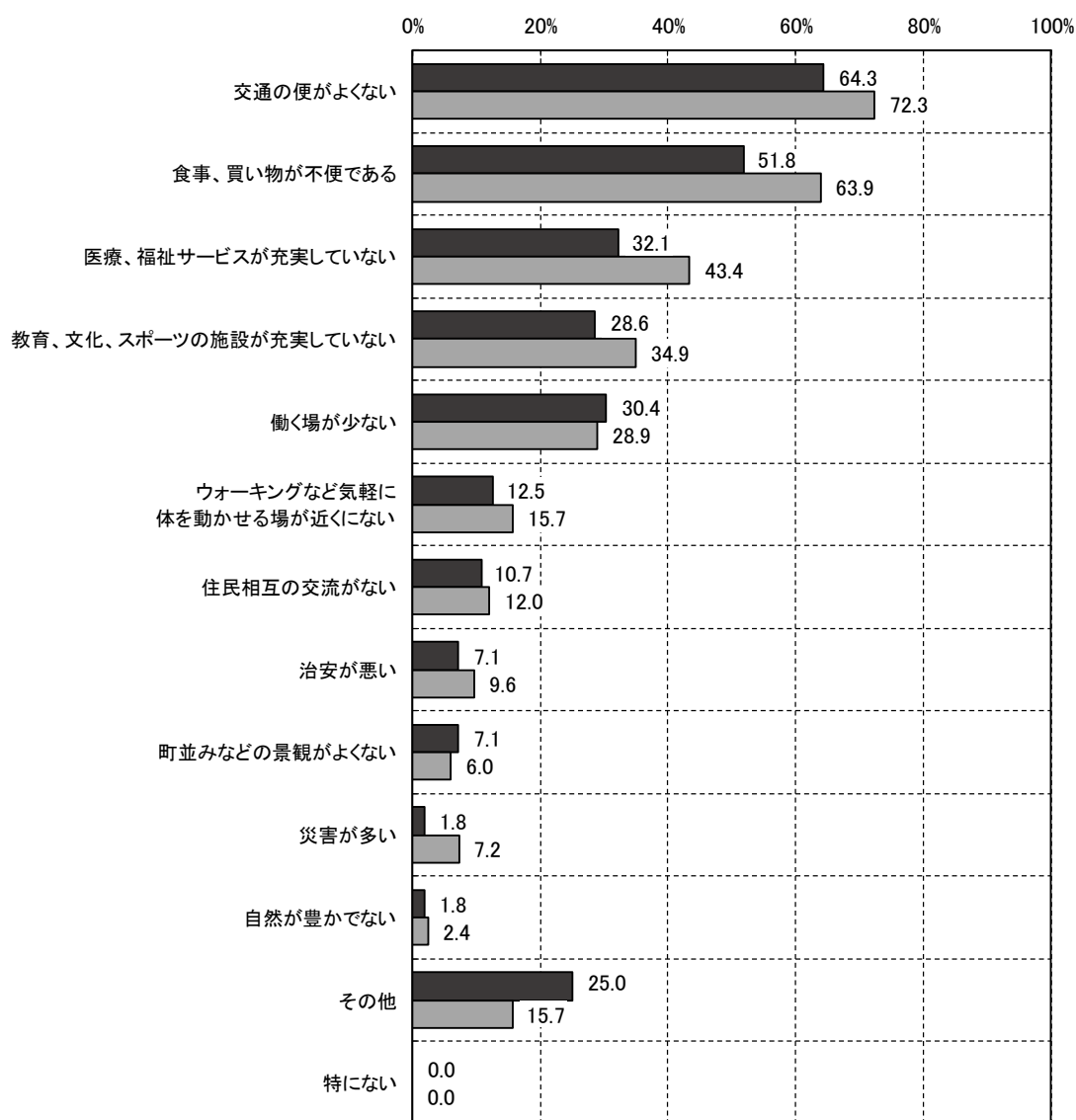
前々回・前回比較（図 6-3-2）で見ると、前々回・前回・今回と一貫して「交通の便がよくない」、「食事、買い物が不便である」の順となっている。前回第 4 位の「医療、福祉サービスが充実していない」、前回第 5 位の「教育、文化、スポーツの施設が充実していない」が今回第 3 位と第 4 位に、前回第 3 位の「働く場が少ない」が今回第 5 位となっている。

図 6-3-2 【前々回・前回比較】住んでいる地域が住みにくいと感ずる点



性別(図 6-3-3)で見ると、男女ともに「交通の便がよくない」が最も高く、男性が 64.3%、女性が 72.3%となっている。次いで「食事、買い物が不便である」が高く、女性が男性より 12.1 ポイント高くなっている。

図 6-3-3 【性別】住んでいる地域が住みにくと感じる点

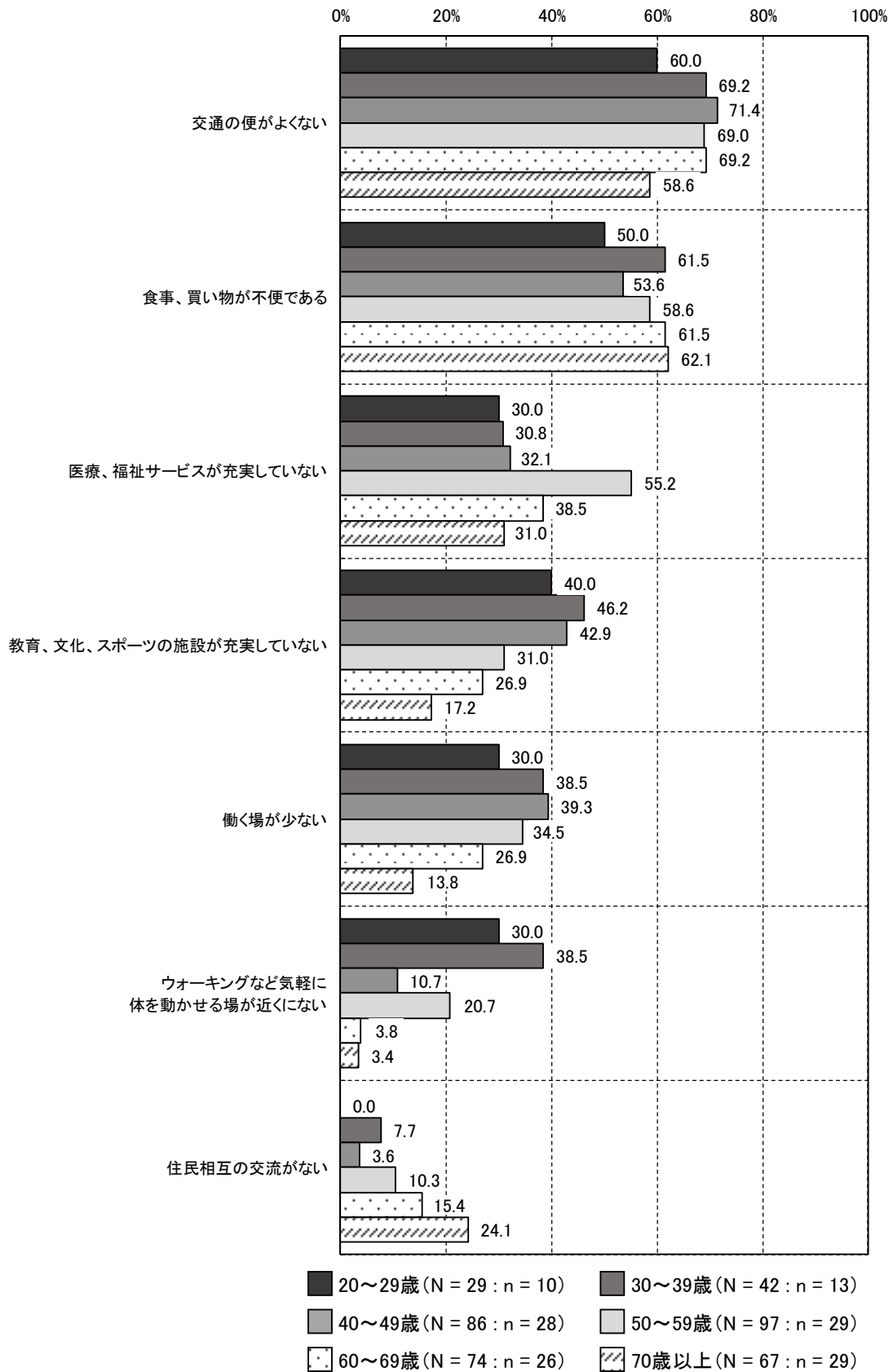


■ 男性 (N = 153 : n = 56) ■ 女性 (N = 259 : n = 83)

※ N=総回答数 n=回答者数

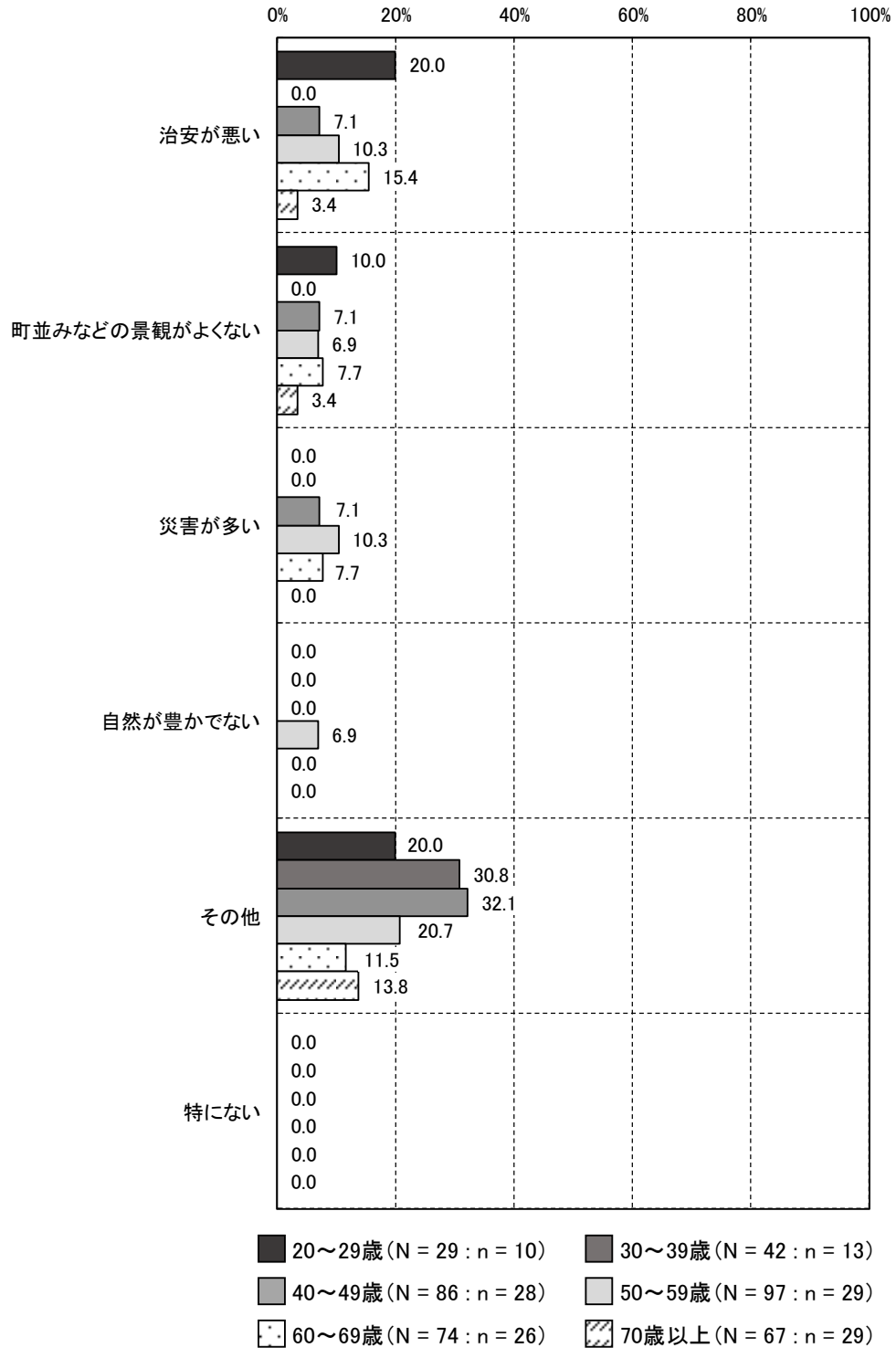
年代別（図 6-3-4）でみると、70 歳以上を除くいずれの年代においても「交通の便がよくない」が最も高く、70 歳以上では「食事、買い物が不便である」が最も高くなっている。

図 6-3-4 【年代別】住んでいる地域が住みにくいと感じる点



※ N=総回答数 n=回答者数

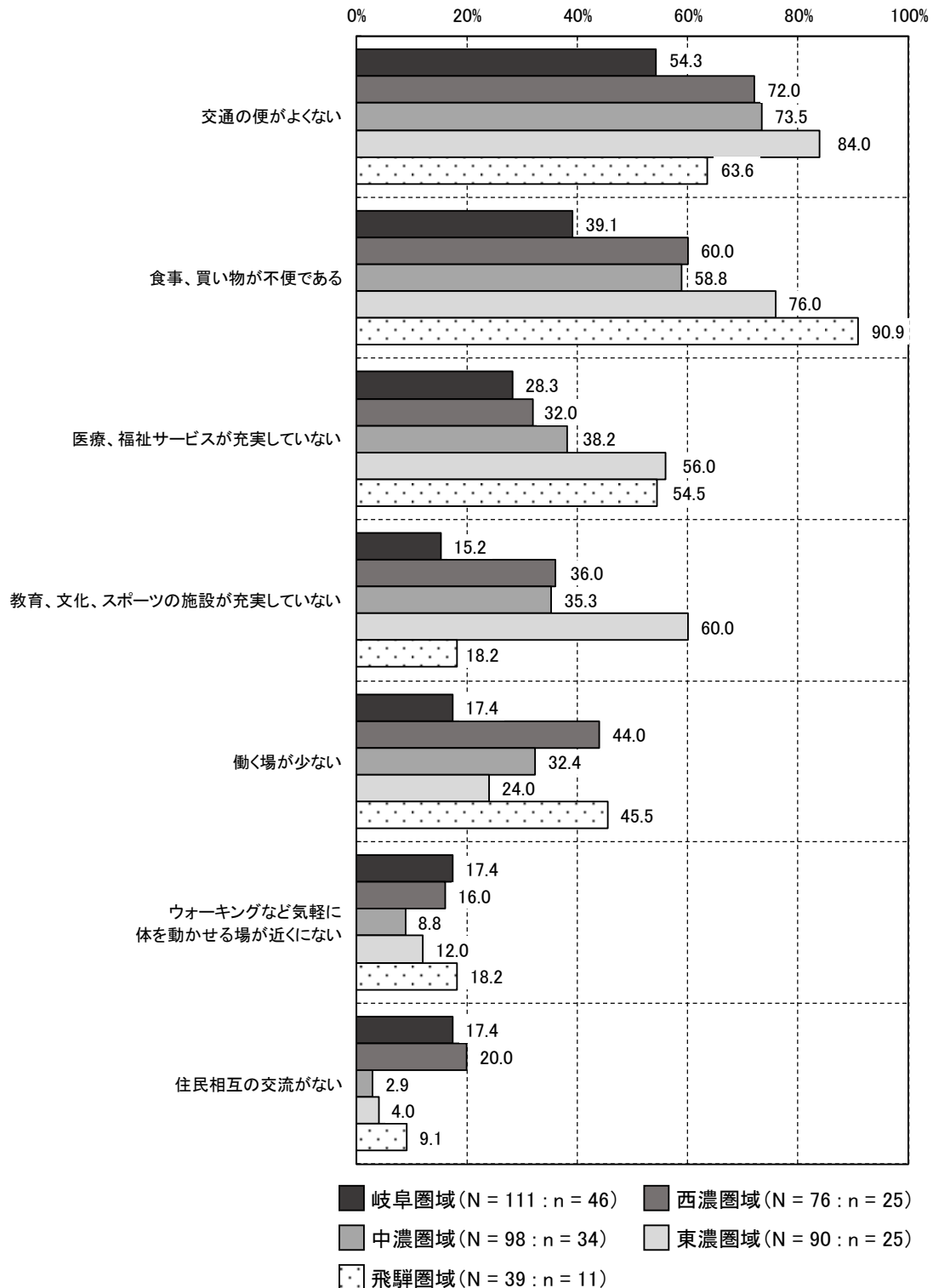
図 6-3-4 【年代別】 住んでいる地域が住みにくいと感じる点（続き）



※ N=総回答数 n=回答者数

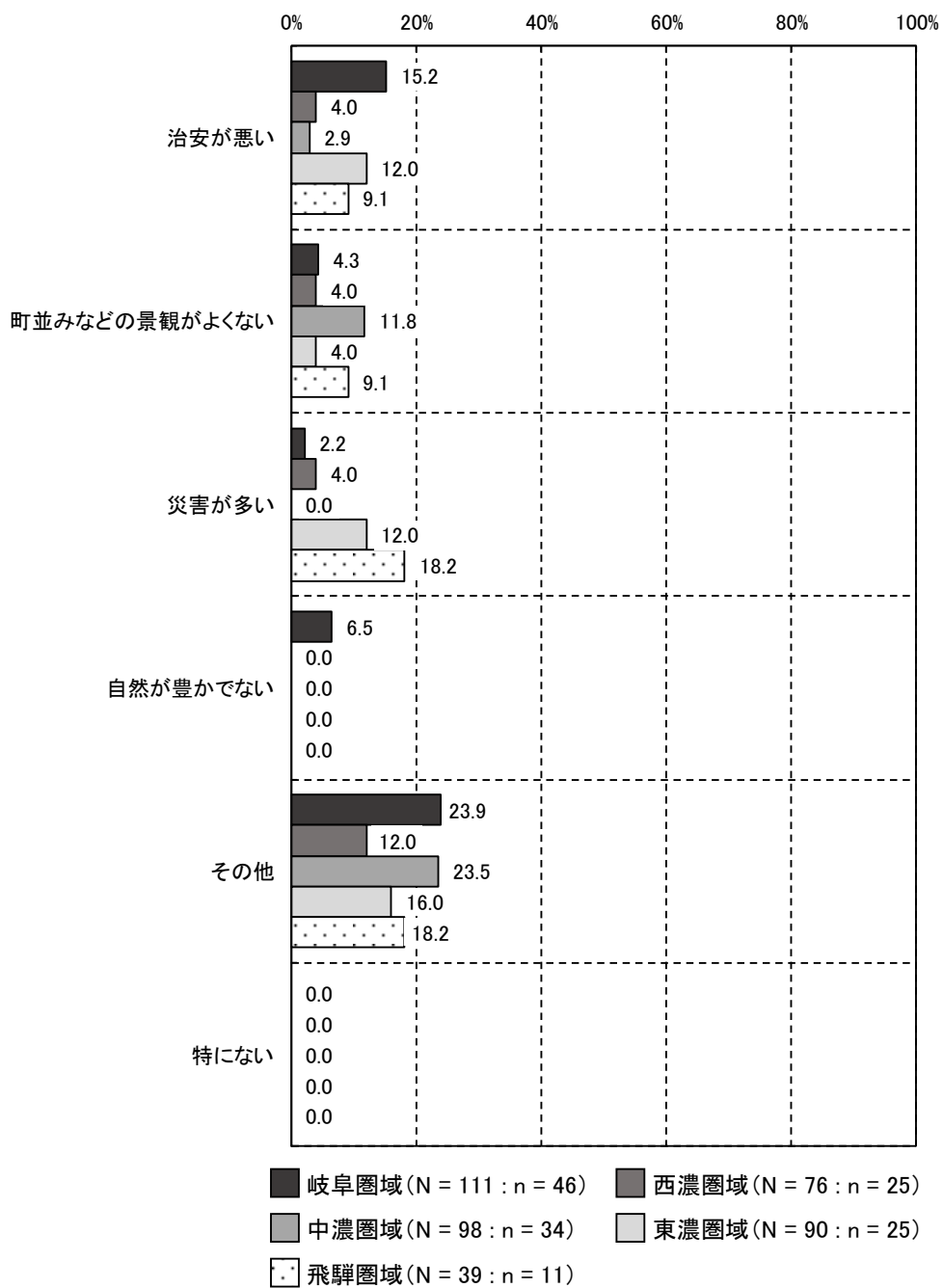
居住圏域別（図 6-3-5）でみると、飛驒圏域を除くいずれの圏域においても「交通の便がよくない」が最も高く、飛驒圏域では「食事、買い物が不便である」が最も高くなっている。

図 6-3-5 【居住圏域別】住んでいる地域が住みにくいと感じる点



※ N=総回答数 n=回答者数

図 6-3-5 【居住圏域別】 住んでいる地域が住みにくいと感じる点（続き）



※ N=総回答数 n=回答者数

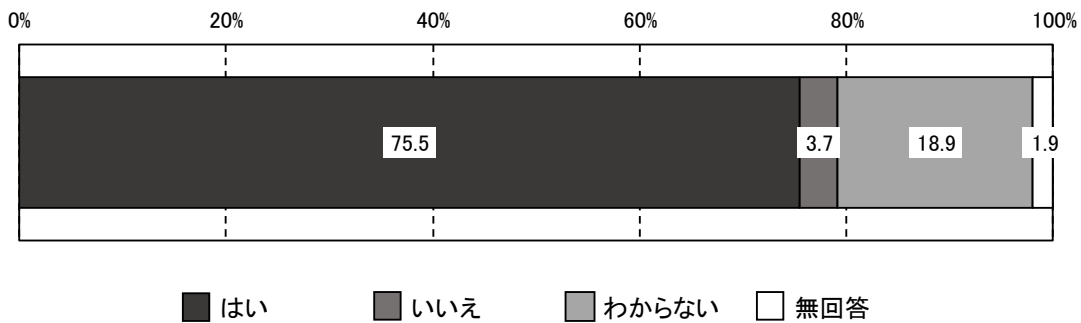
問7 今後も岐阜県に住み続けたいか

問7 あなたは、今後も岐阜県に住み続けたいと思いますか。(1つだけ)

全体(図7-1)で見ると、「はい」が75.5%と最も高くなっている。

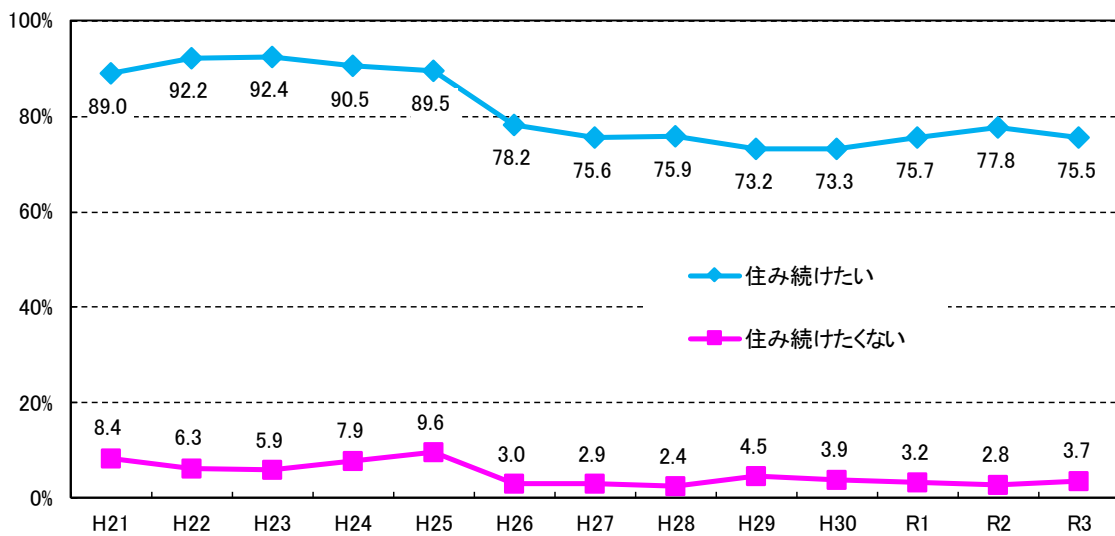
図7-1 今後も岐阜県に住み続けたいか

回答者数(n = 1,553)



経年変化(図7-2)で見ると、令和3年は、令和2年より「住み続けたい」が2.3ポイント減少し、「住み続けたくない」は0.9ポイント増加している。

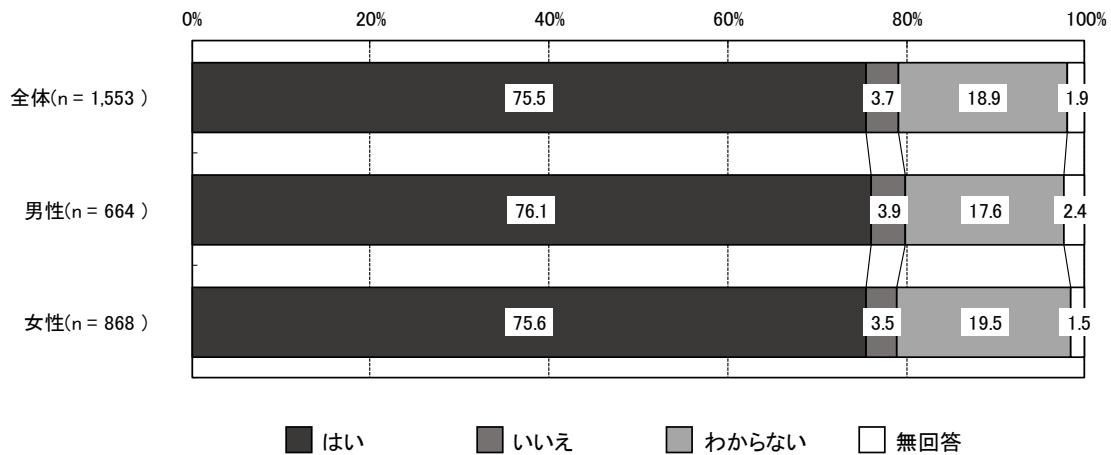
図7-2【経年変化】今後も岐阜県に住み続けたいか



※ 平成21年度から調査

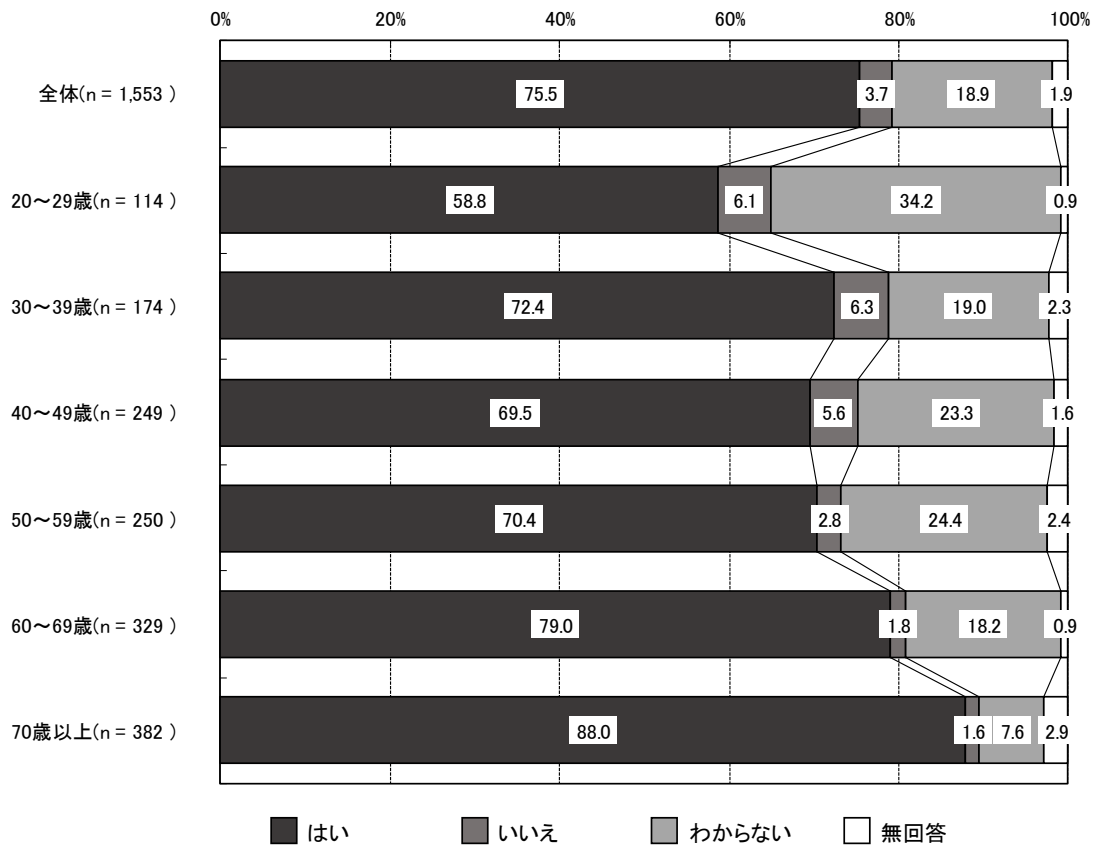
性別（図 7-3）で見ると、男女ともに「はい」が最も高く、男性が 76.1%、女性が 75.6% となっている。

図 7-3 【性別】 今後も岐阜県に住み続けたいか



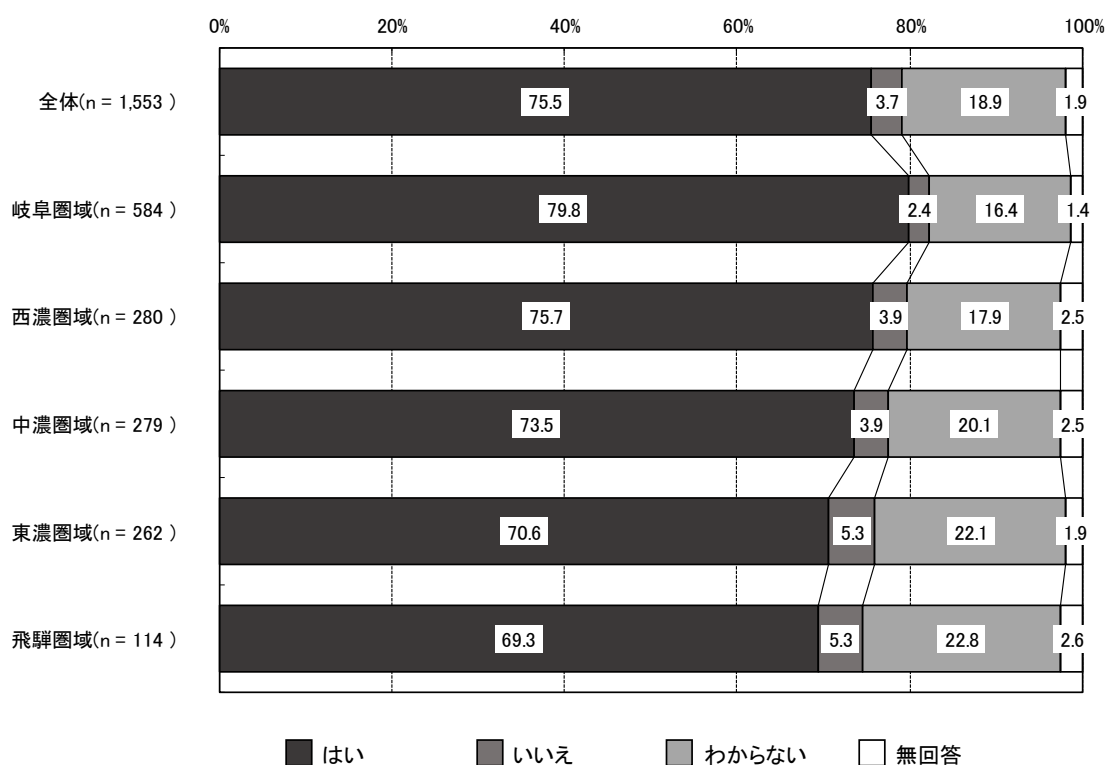
年代別（図 7-4）で見ると、いずれの年代においても「はい」が最も高く、そのうち 70 歳以上が 88.0%と最も高くなっている。20 歳代では「わからない」が他の年代に比べて高くなっている。

図 7-4 【年代別】 今後も岐阜県に住み続けたいか



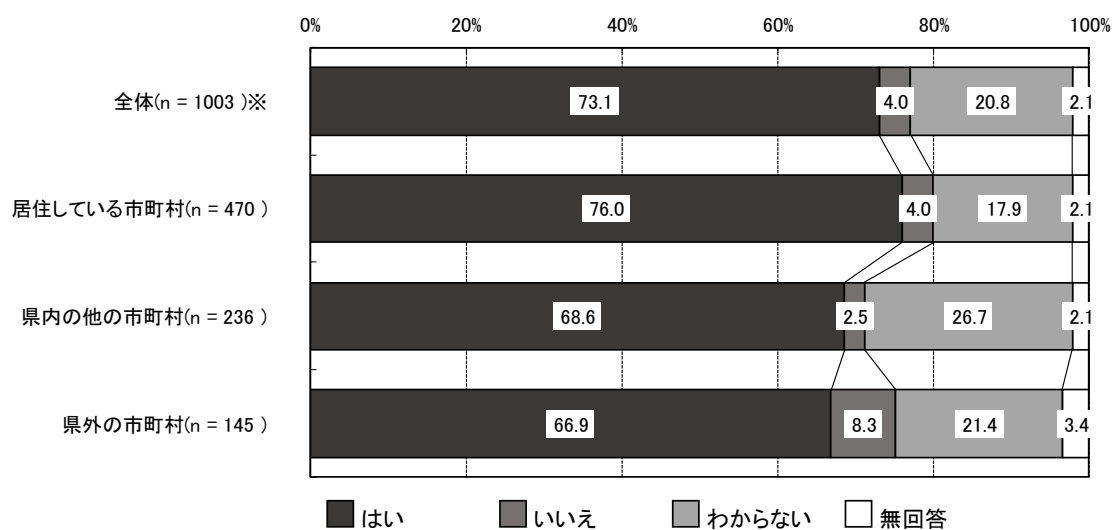
居住圏域別（図 7-5）で見ると、いずれの居住圏域においても「はい」が最も高く、そのうち岐阜圏域が 79.8%と最も高くなっている。

図 7-5 【居住圏域別】 今後も岐阜県に住みたいか



通勤、通学先別（図 7-6）で見ると、いずれの通勤、通学先においても「はい」が最も高く、そのうち居住している市町村が 76.0%と最も高くなっている。

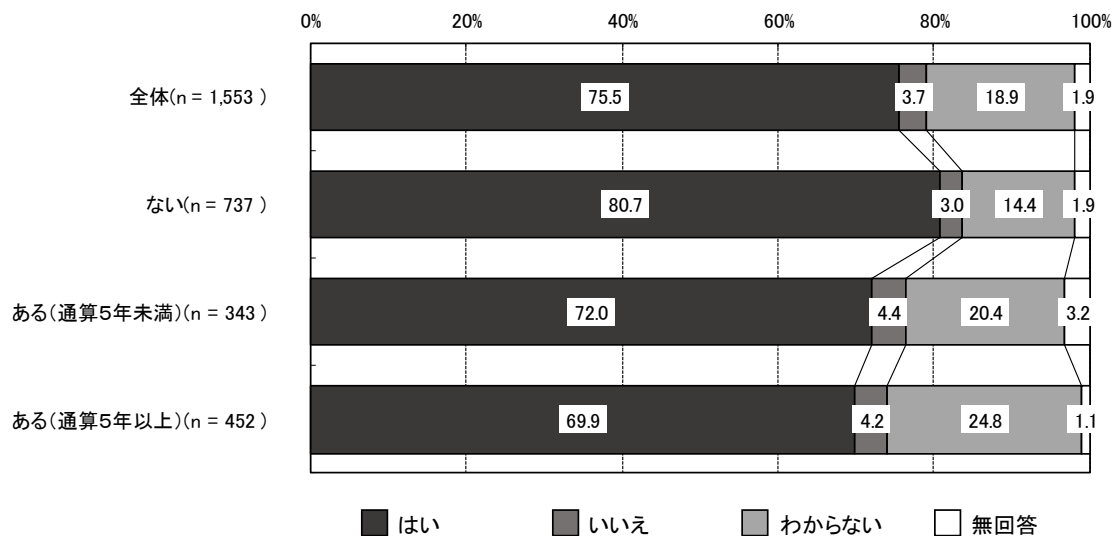
図 7-6 【通勤、通学先別】 今後も岐阜県に住みたいか



※ 「F-10 職業」で、自営業、自由業、会社・団体役員、正規の従業員・職員、パートタイム・アルバイト・派遣、学生と答えた方のみ

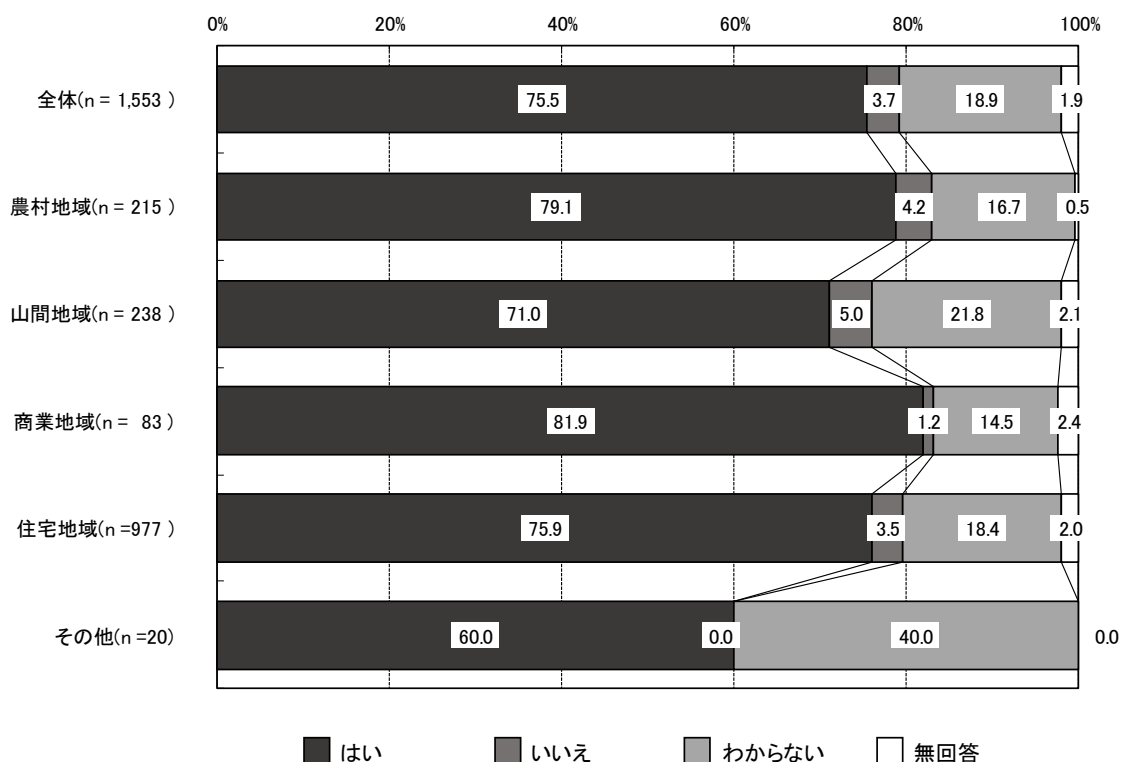
県外居住経験の有無別（図 7-7）で見ると、県外居住経験がない人は「はい」が 80.7%と、ある人より高くなっている。

図 7-7 【県外居住経験の有無別】 今後も岐阜県に住み続けたいか



居住環境別（図 7-8）で見ると、いずれの居住環境においても「はい」が最も高くなっている。

図 7-8 【居住環境別】 今後も岐阜県に住み続けたいか



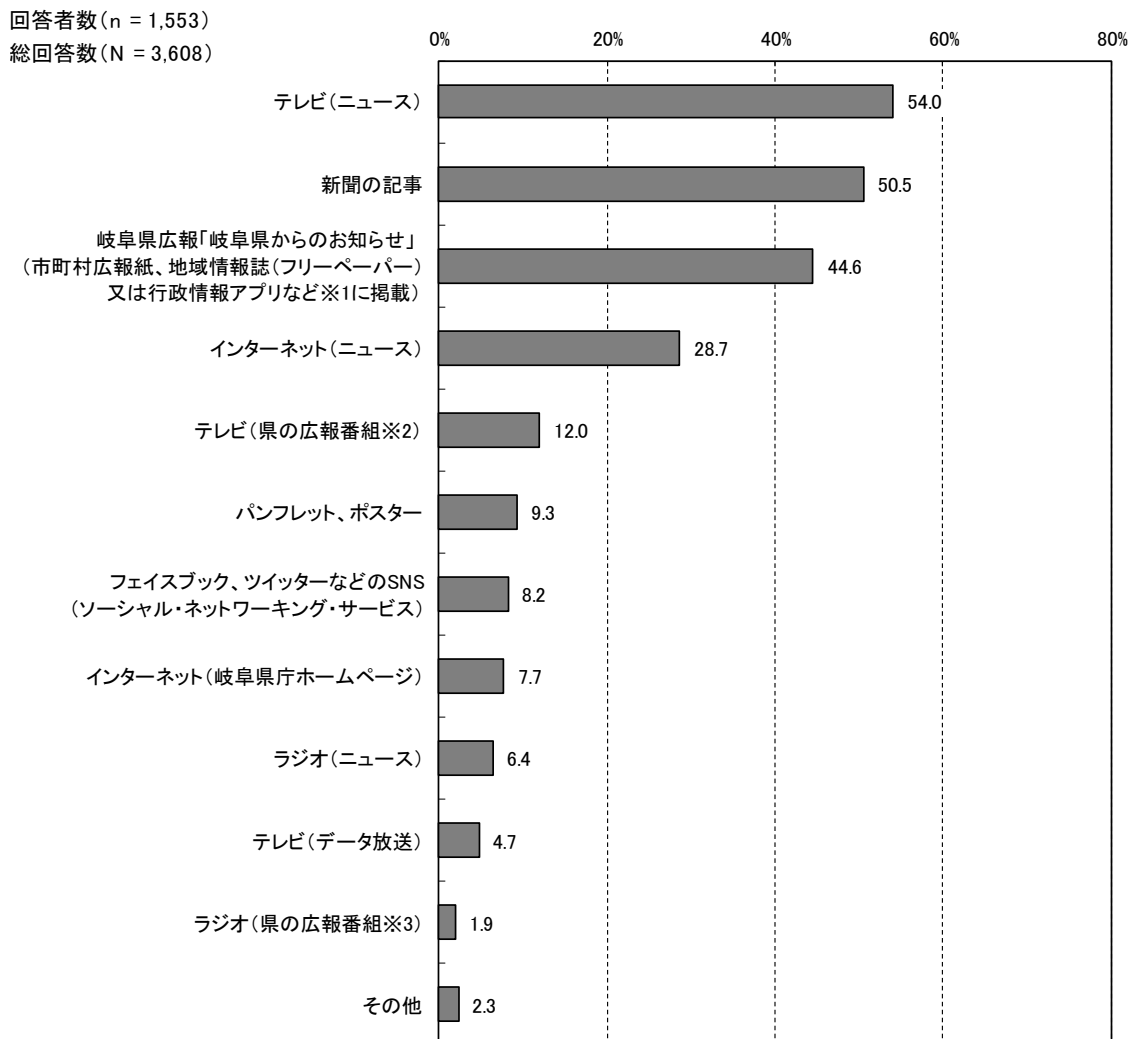
2. 2 県の取組み全般について

問8 施策や事業についての情報の入手方法

問8 あなたは、岐阜県が行っている施策や事業を、何によって知ることが多いですか。
(いくつでも)

全体(図8-1)で見ると、「テレビ(ニュース)」が54.0%と最も高く、次いで「新聞の記事」(50.5%)、「岐阜県広報「岐阜県からのお知らせ」(44.6%)の順となっている。

図8-1 施策や事業についての情報の入手方法



※1 行政情報アプリなど : 行政情報アプリ「マチイロ」

広報紙配信サービス「マイ広報紙」

電子書籍ポータルサイト「Gifu ebooks」

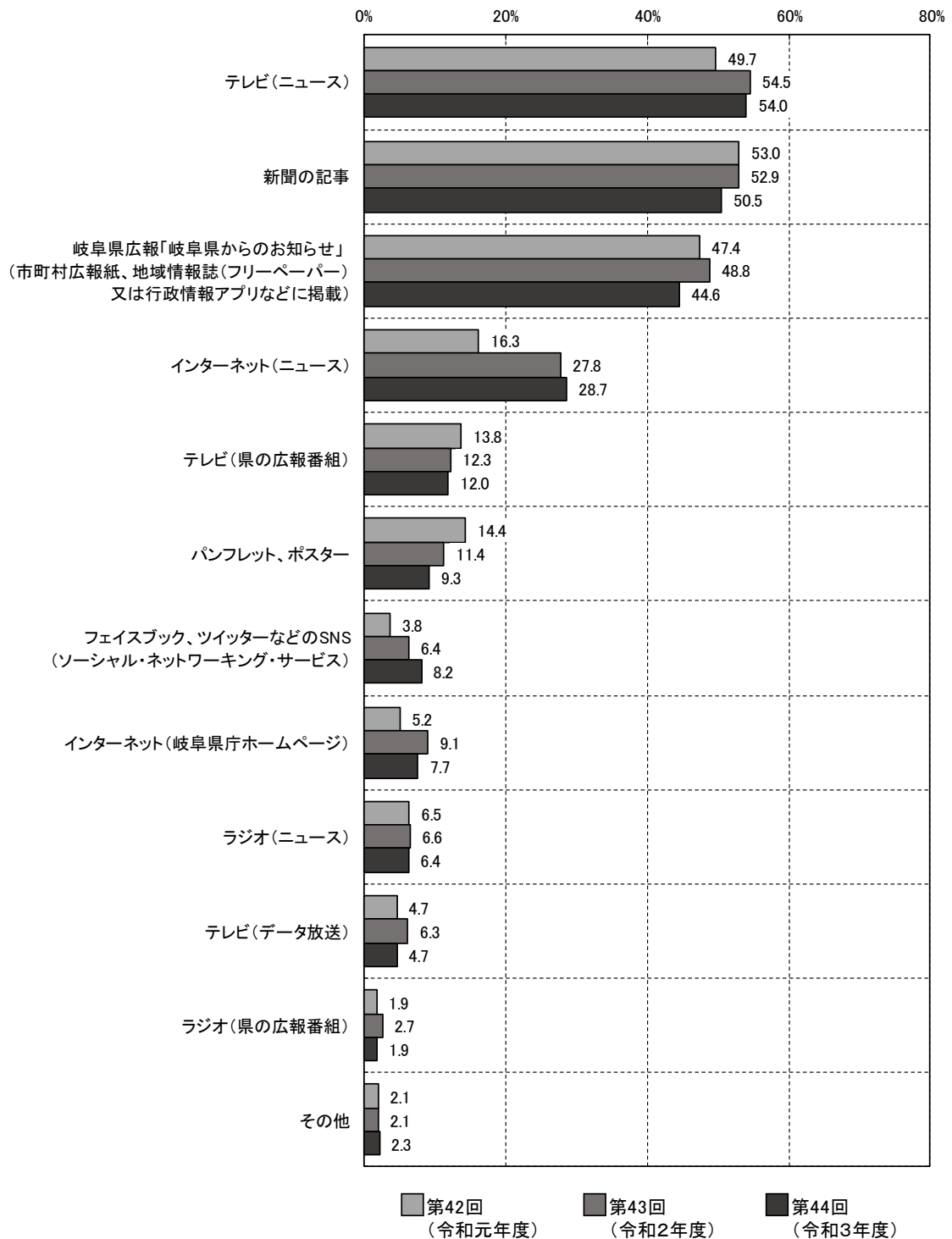
※2 テレビ(県の広報番組) : ぎふチャン(岐阜放送)「ぎふ県政ほっとライン」「ぎふ県だより」

※3 ラジオ(県の広報番組) : エフエム岐阜「GIFUインフォメーション」「ギフトピ」

ぎふチャン(岐阜放送)「ぎふ県だより」「週刊ぎふタイム」

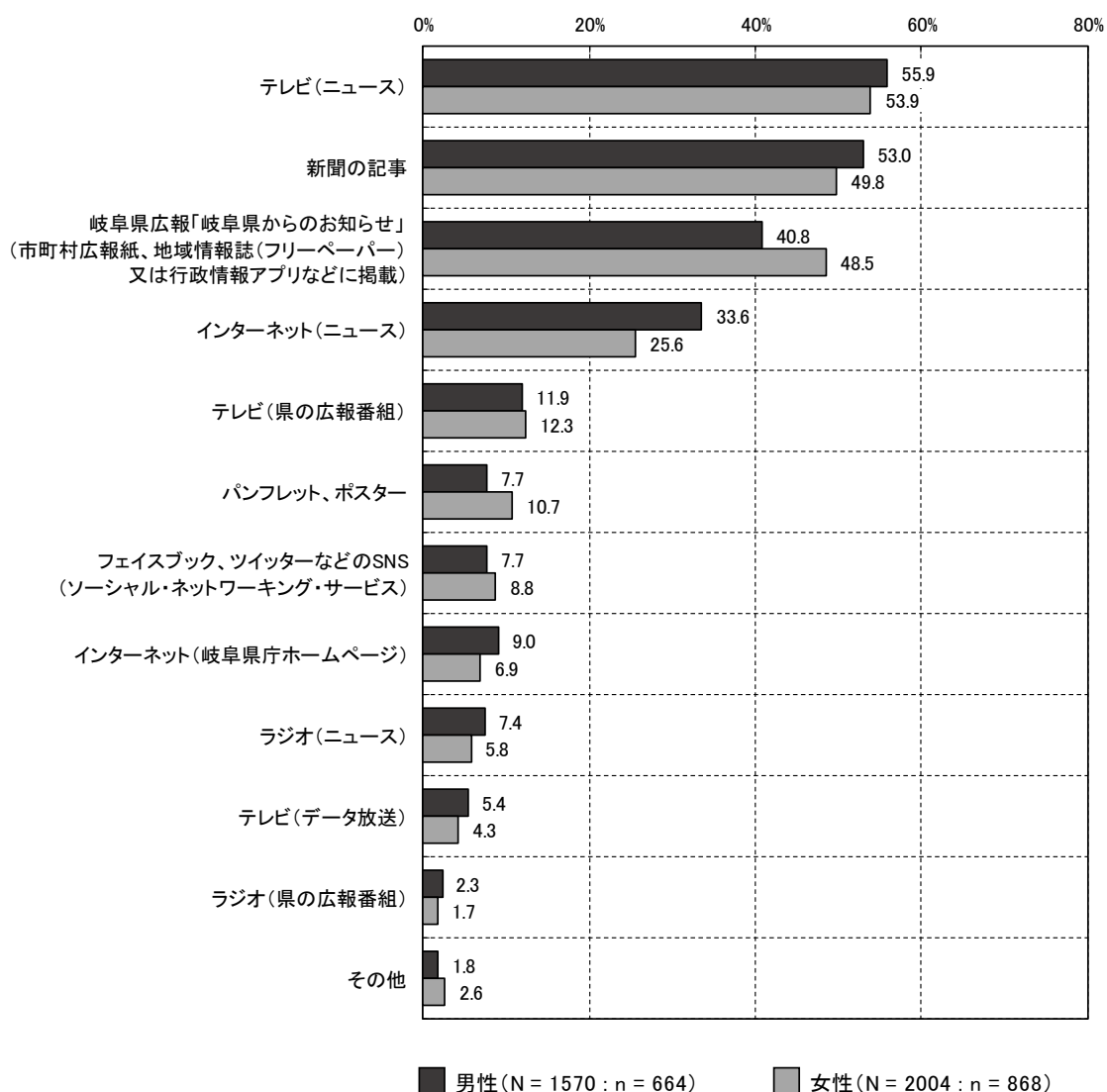
前々回・前回比較（図 8-2）で見ると、前回に続き「テレビ（ニュース）」、「新聞の記事」、
「岐阜県広報「岐阜県からのお知らせ」」の順になっている。

図 8-2 【前々回・前回比較】 施策や事業についての情報の入手方法



性別（図 8-3）で見ると、男女ともに「テレビ（ニュース）」が最も高く、男性が 55.9%、女性が 53.9%となっている。

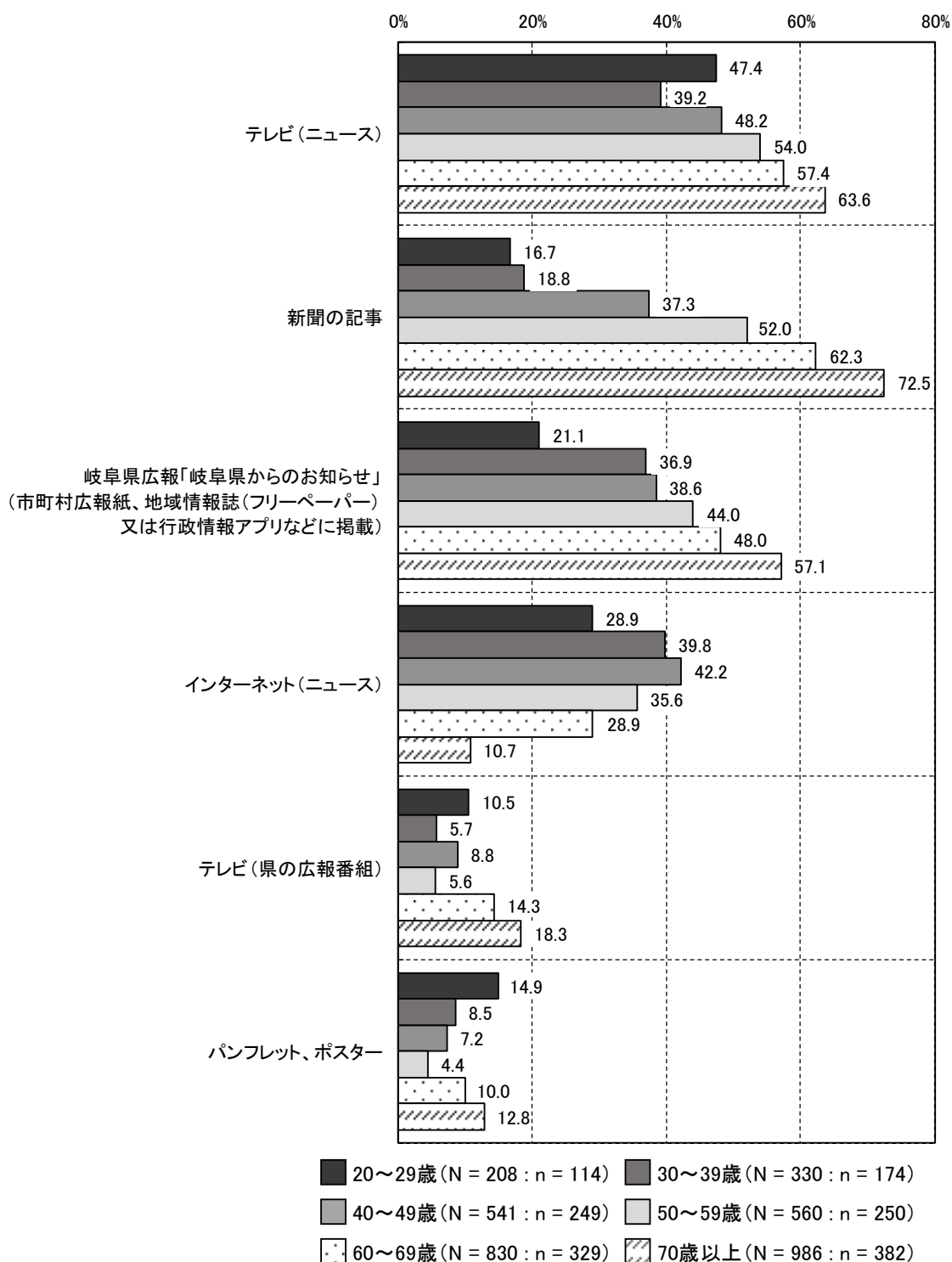
図 8-3 【性別】 施策や事業についての情報の入手方法



※ N=総回答数 n=回答者数

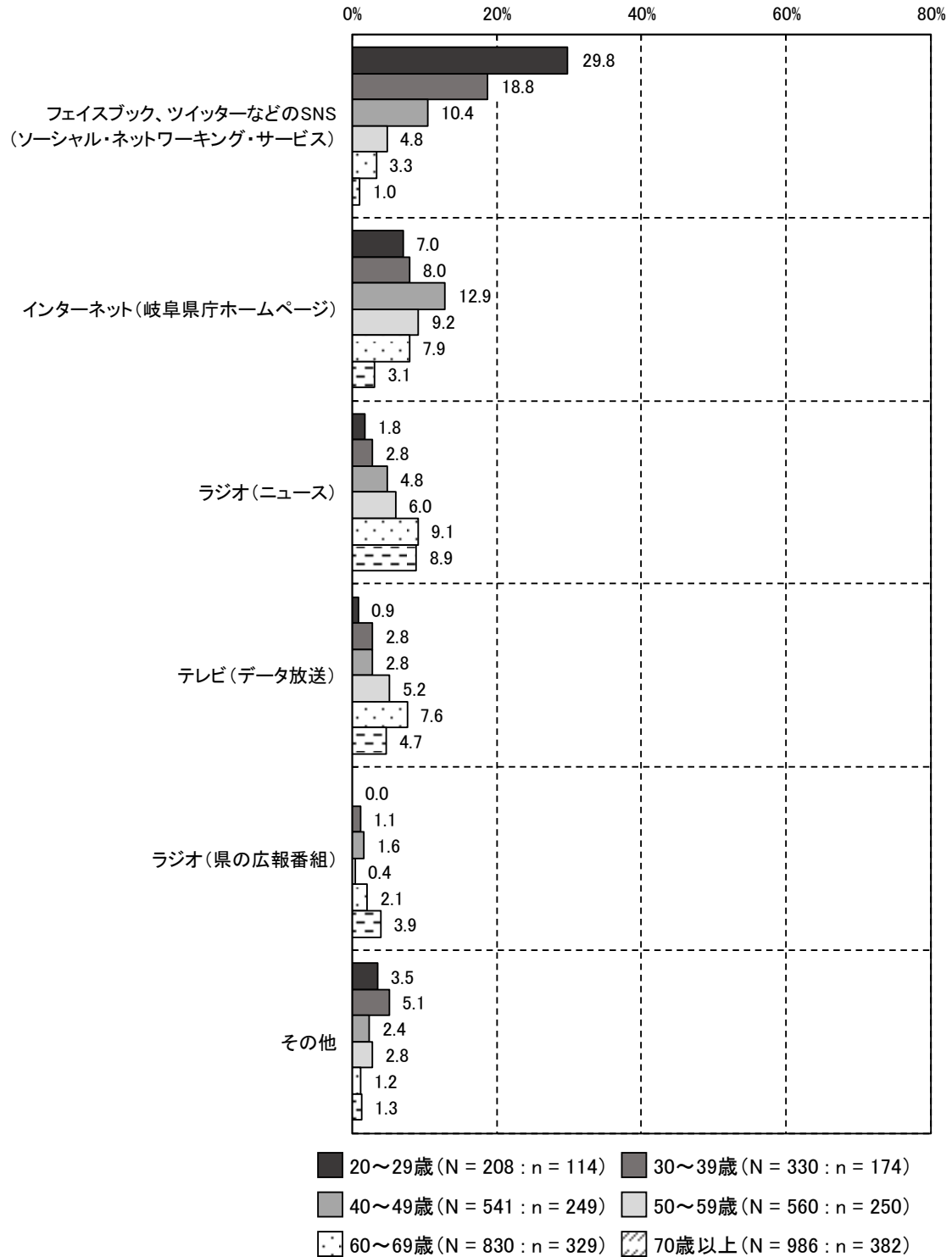
年代別（図 8-4）で見ると、20 歳代、40 歳代、50 歳代は「テレビ（ニュース）」が最も高く、30 歳代では「インターネット（ニュース）」、60 歳代、70 歳以上では「新聞の記事」が最も高くなっている。

図 8-4 【年代別】 施策や事業についての情報の入手方法



※ N=総回答数 n=回答者数

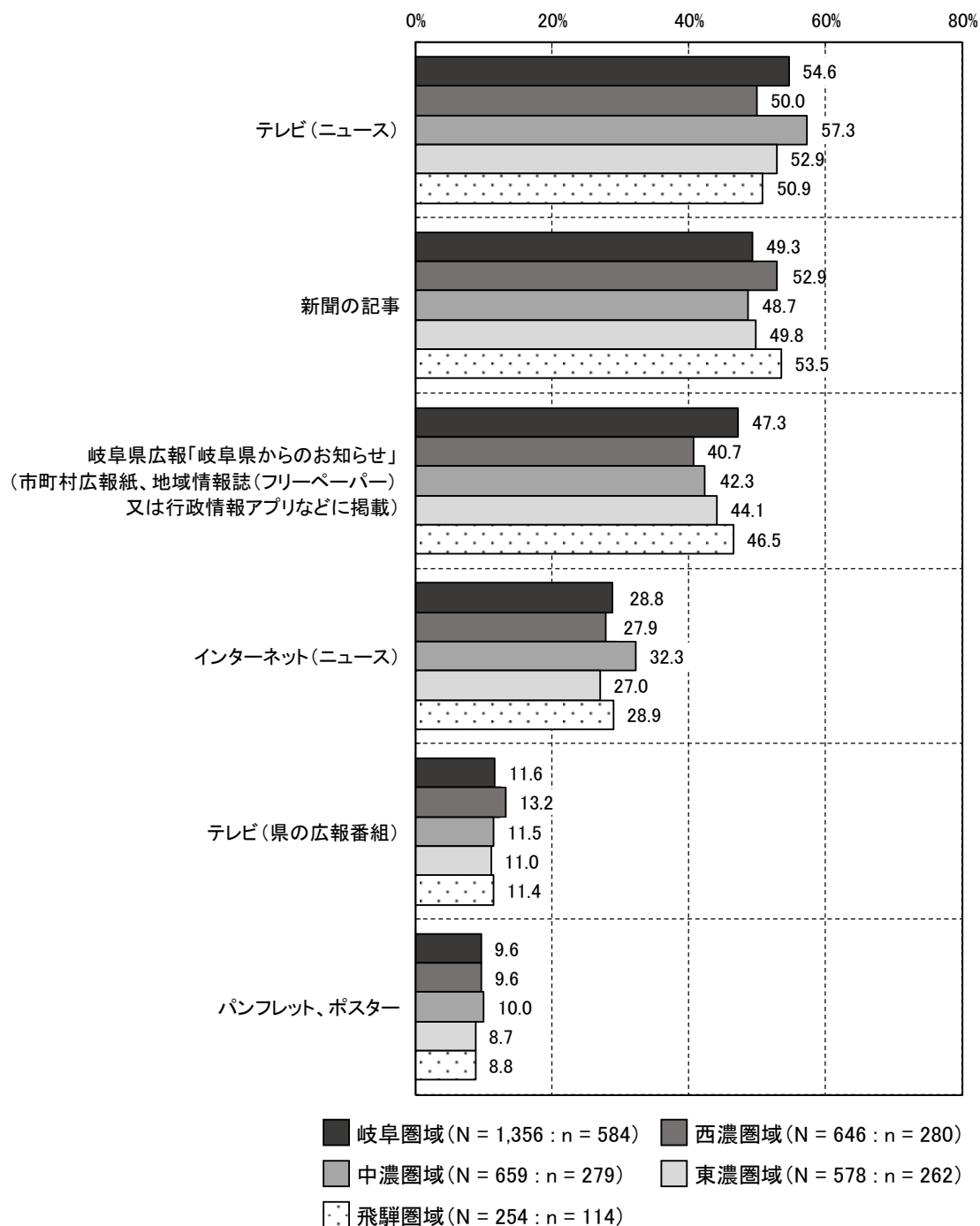
図 8-4 【年代別】 施策や事業についての情報の入手方法（続き）



※ N=総回答数 n=回答者数

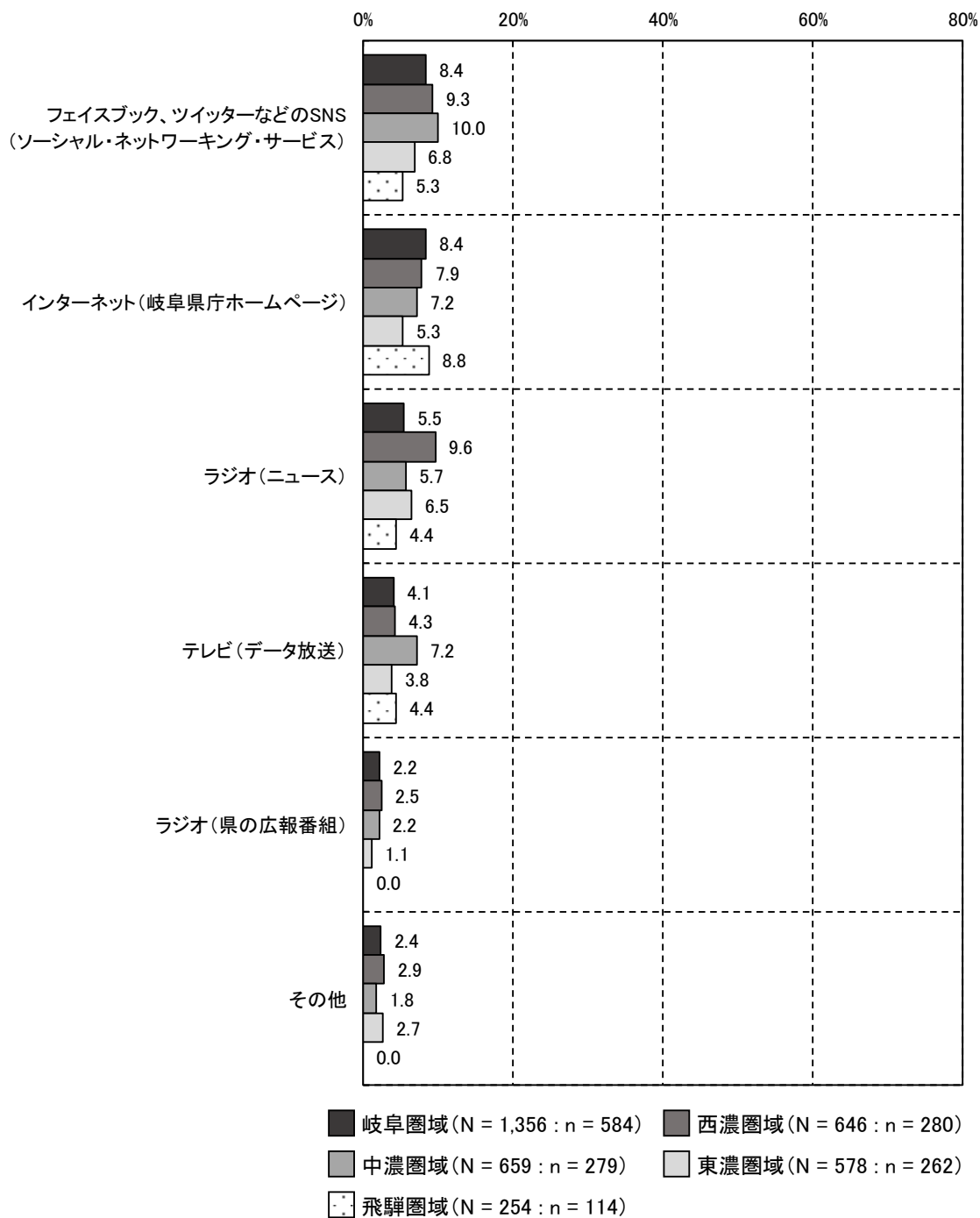
居住圏域別（図 8-5）で見ると、岐阜圏域、中濃圏域、東濃圏域は「テレビ（ニュース）」が、西濃圏域、飛騨圏域は「新聞の記事」が最も高くなっている。

図 8-5 【居住圏域別】 施策や事業についての情報の入手方法



※ N=総回答数 n=回答者数

図 8-5 【居住圏域別】 施策や事業についての情報の入手方法（続き）



※ N=総回答数 n=回答者数

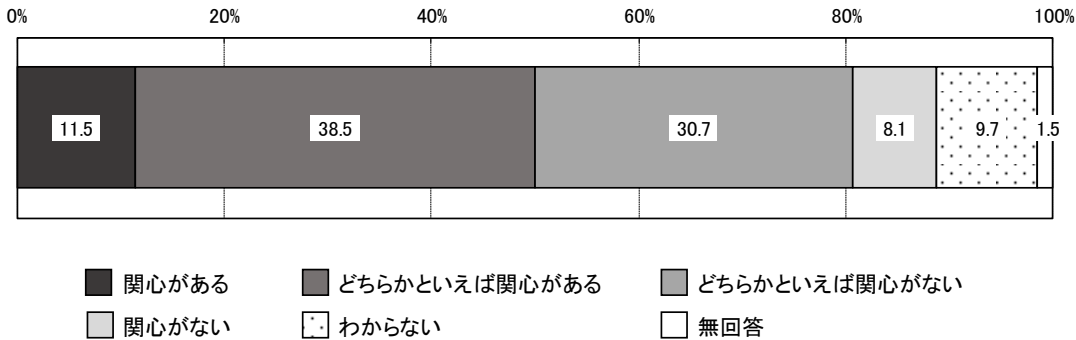
問9 県事業への関心の有無

問9 あなたは、岐阜県が行っている事業やその進め方について、関心をお持ちですか。
(1つだけ)

全体(図9-1)で見ると、「どちらかといえば関心がある」が38.5%と最も高く、次いで「どちらかといえば関心がない」(30.7%)、「関心がある」(11.5%)の順となっている。

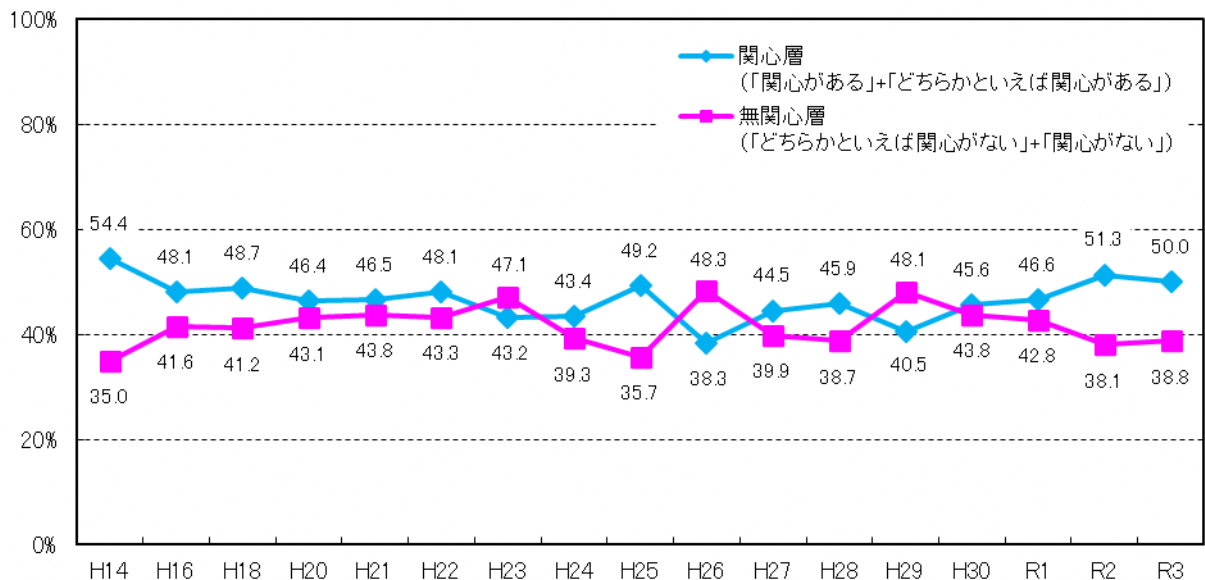
図9-1 県事業への関心の有無

回答者数(n = 1,553)



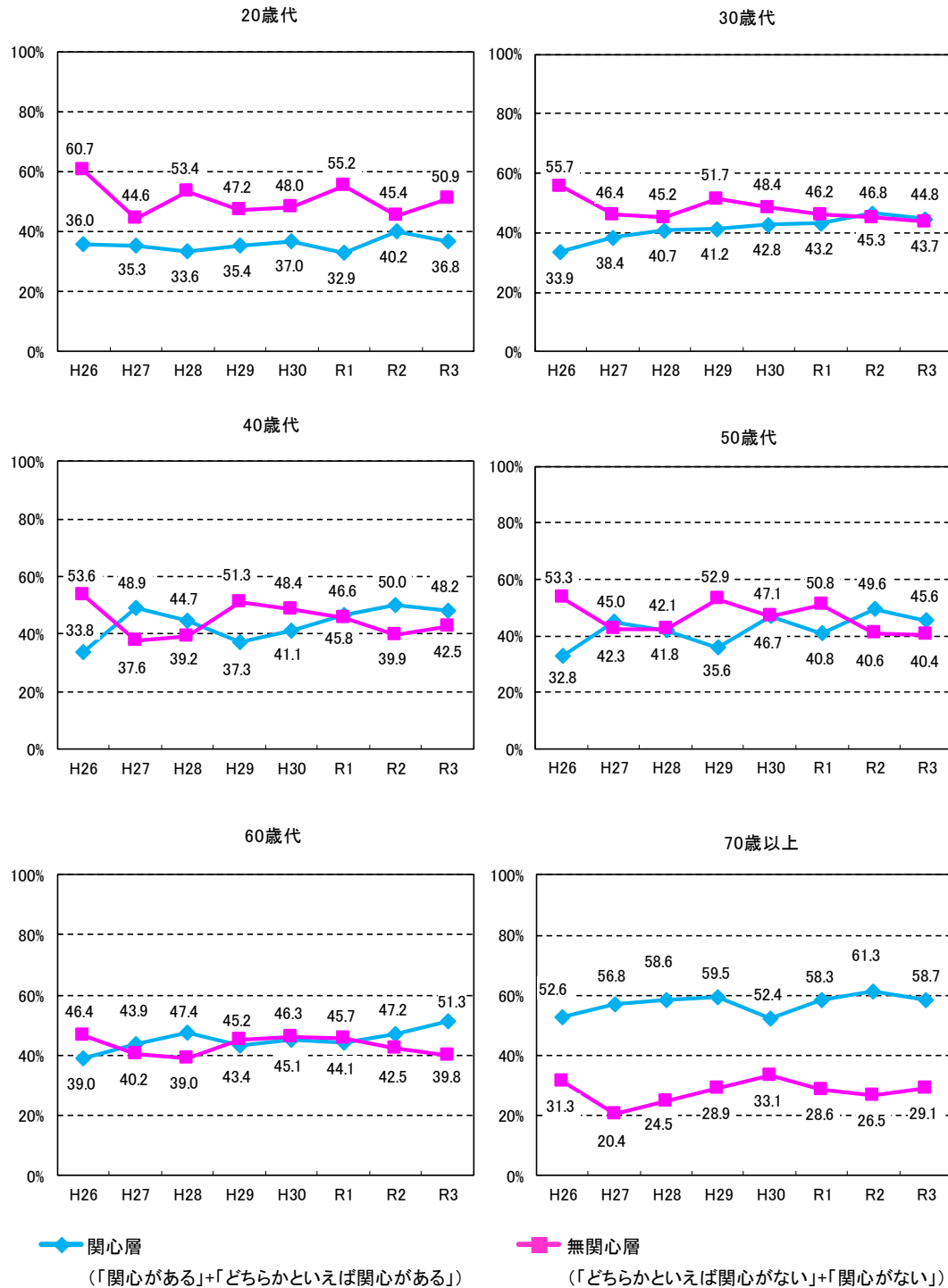
経年変化(図9-2)で見ると、令和3年は、前年より「関心層」(「関心がある」+「どちらかといえば関心がある」)が1.3ポイント減少し、「無関心層」(「どちらかといえば関心がない」+「関心がない」)が0.7ポイント増加しているが、引き続き「関心層」が「無関心層」を上回っている。

図9-2【経年変化】県事業への関心の有無



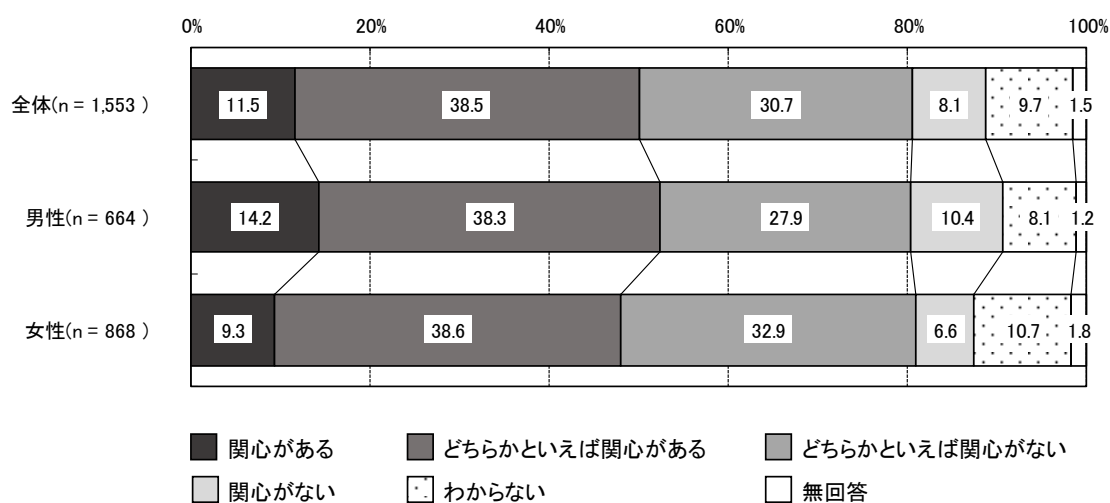
年代別の経年変化（図 9-3）でみると、60 歳代を除くいずれの年代においても前年より「関心層」が減少しているが、20 歳代を除くいずれの年代でも「関心層」が「無関心層」を上回っている。70 歳以上では一貫して「関心層」が「無関心層」より高くなっている。

図 9-3 【経年変化(年代別)】 県事業への関心の有無



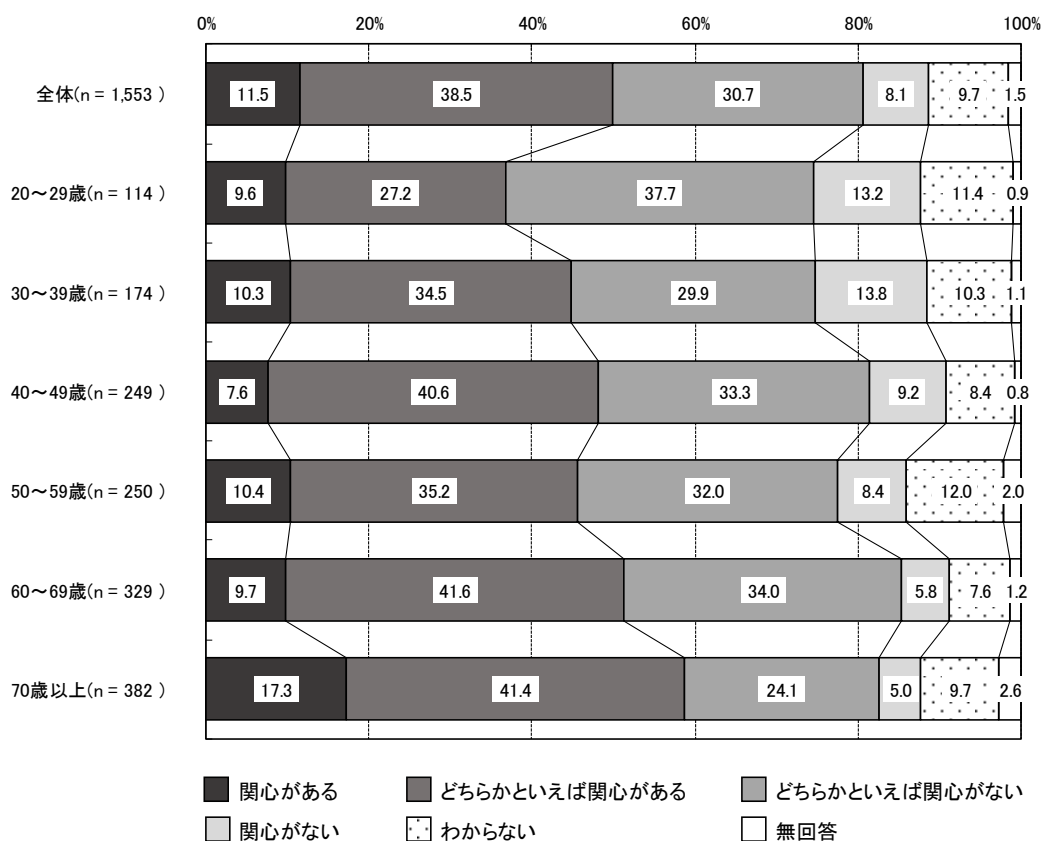
性別（図 9-4）で見ると、男女ともに「どちらかといえば関心がある」が最も高くなっている。

図 9-4 【性別】 県事業への関心の有無



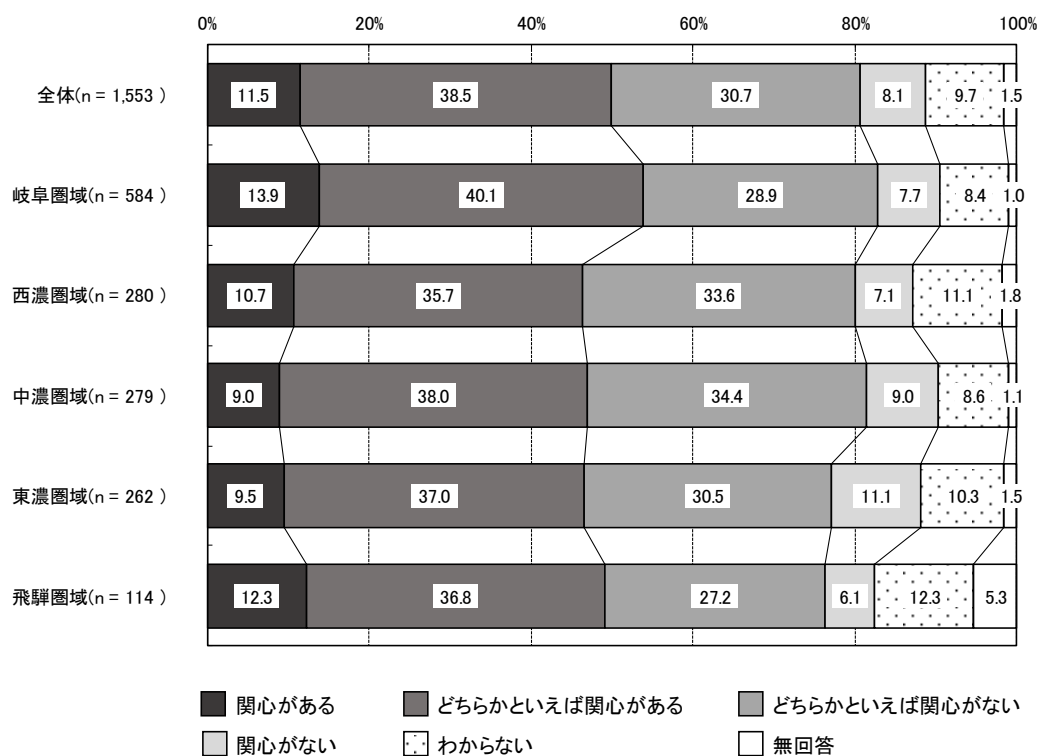
年代別（図 9-5）で見ると、20 歳代を除くいずれの年代においても「どちらかといえば関心がある」が最も高く、20 歳代では「どちらかといえば関心がない」が最も高くなっている。

図 9-5 【年代別】 県事業への関心の有無



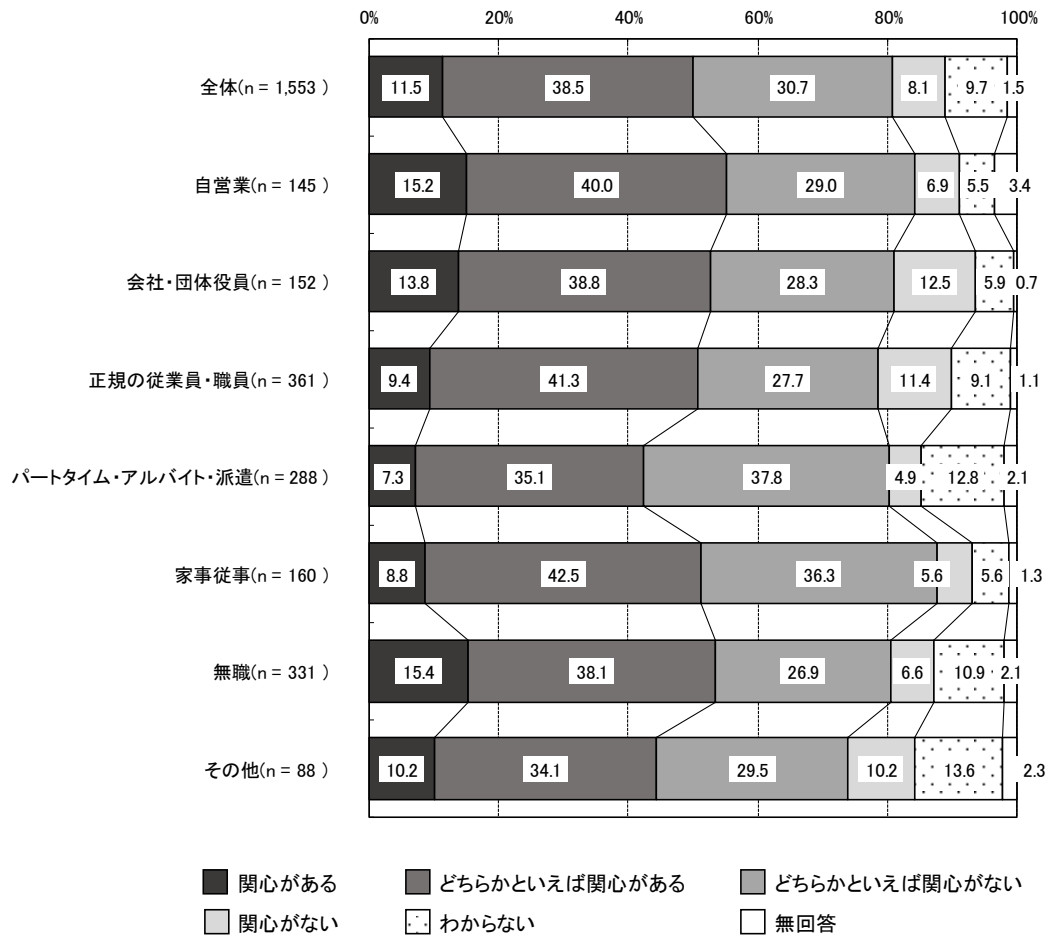
居住圏域別（図 9-6）で見ると、いずれの圏域においても「どちらかといえば関心がある」が最も高く、そのうち岐阜圏域が 40.1%と最も高くなっている。

図 9-6 【居住圏域別】 県事業への関心の有無



職業別（図 9-7）で見ると、パートタイム・アルバイト・派遣を除くいずれの職業においても「どちらかといえば関心がある」が最も高く、パートタイム・アルバイト・派遣では「どちらかといえば関心がない」が最も高くなっている。

図 9-7 【職業別】 県事業への関心の有無



※ その他には、自由業、学生を含む。

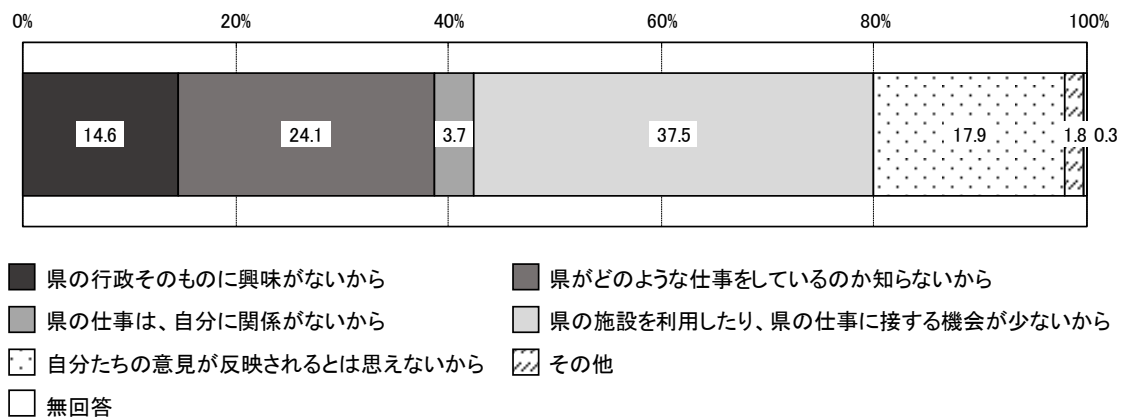
問9-2 県事業に関心がない理由

問9-2 「どちらかといえば関心がない」「関心がない」と答えた方にお尋ねします。
 あなたが、岐阜県が行っている事業やその進め方に関心がないのは、
 どのような理由からですか。(1つだけ)

全体(図9-2-1)でみると、「県の施設を利用したり、県の仕事に接する機会が少ないから」が37.5%と最も高く、次いで「県がどのような仕事をしているのか知らないから」(24.1%)、「自分たちの意見が反映されるとは思えないから」(17.9%)の順となっている。

図9-2-1 県事業に関心がない理由

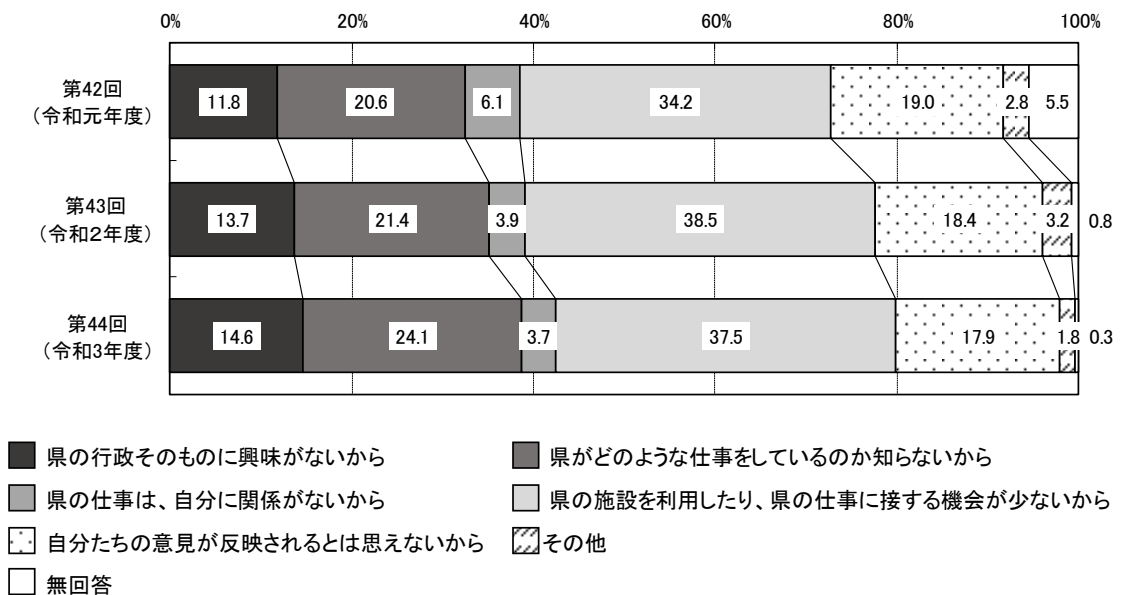
回答者数(n=602)※



※ 問9で「どちらかといえば関心がない」「関心がない」と答えた方のみ

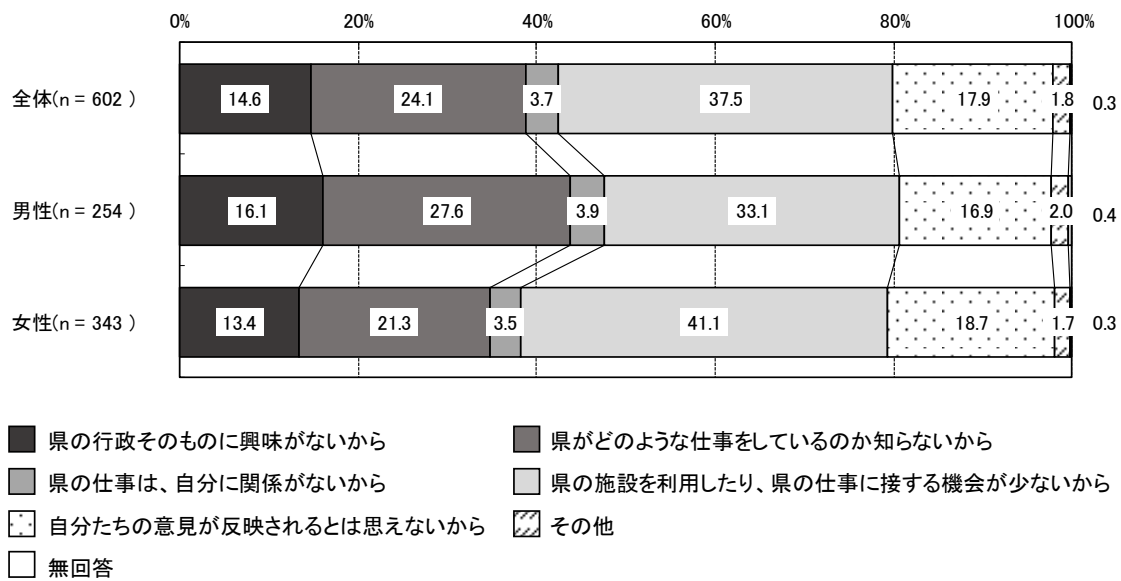
前々回・前回比較(図9-2-2)でみると、前々回・前回に続き「県の施設を利用したり、県の仕事に接する機会が少ないから」が最も高くなっている。

図9-2-2【前々回・前回比較】県事業に関心がない理由



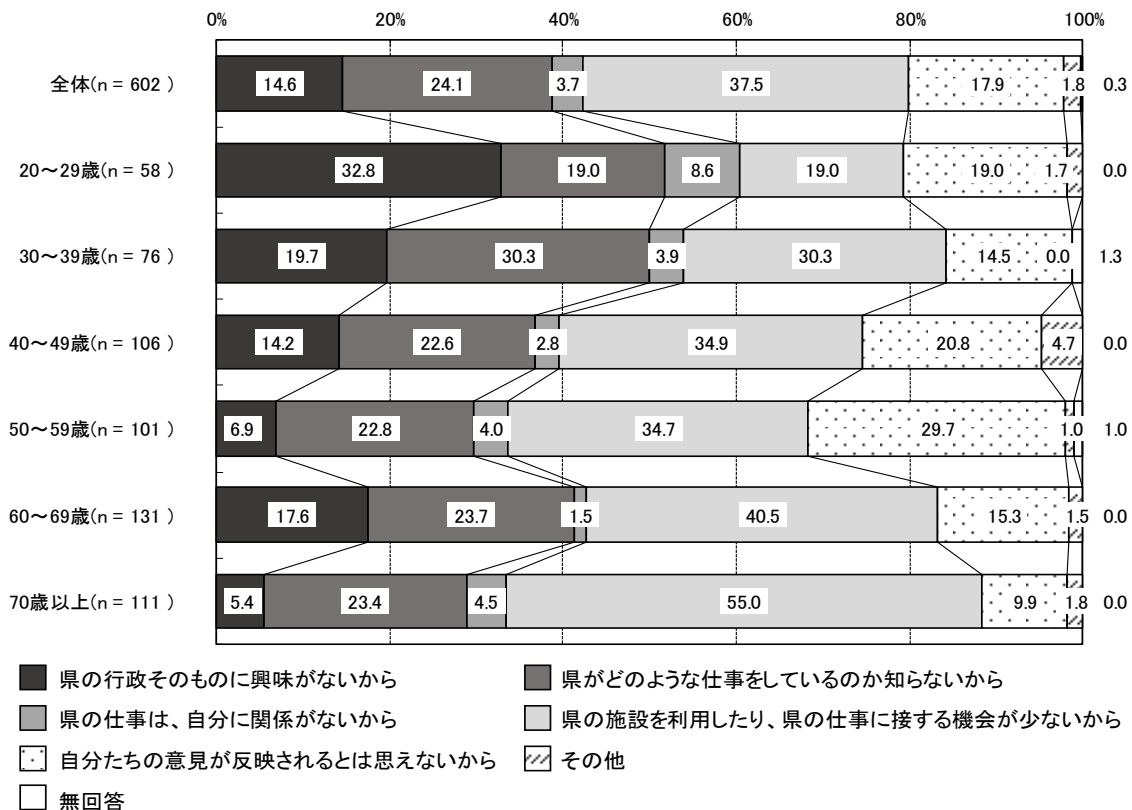
性別（図 9-2-3）で見ると、男女ともに「県の施設を利用したり、県の仕事に接する機会が少ないから」が最も高く、女性が男性より 8.0 ポイント高くなっている。

図 9-2-3 【性別】 県事業に関心がない理由



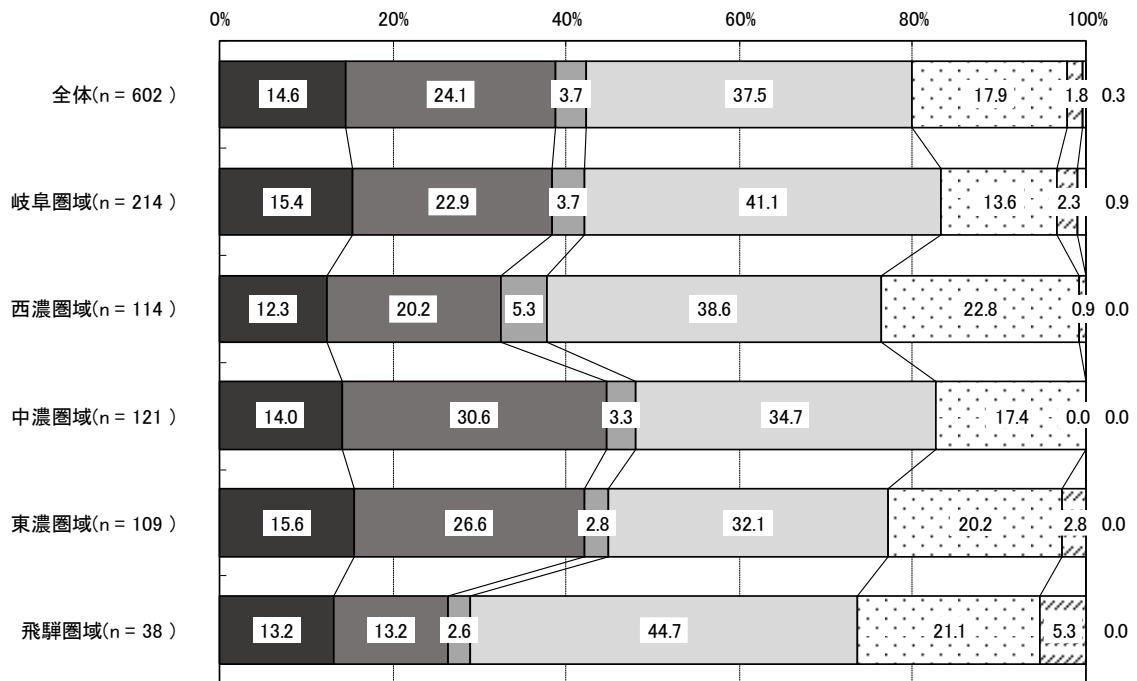
年代別（図 9-2-4）で見ると、20 歳代を除くいずれの年代においても「県の施設を利用したり、県の仕事に接する機会が少ないから」が最も高く（30 歳代では「県がどのような仕事をしているのか知らないから」が 30.3%と同率）なっている。20 歳代では「県の行政そのものに興味がないから」が最も高くなっている。

図 9-2-4 【年代別】 県事業に関心がない理由



居住圏域別（図 9-2-5）で見ると、いずれの居住圏域においても「県の施設を利用したり、県の仕事に接する機会が少ないから」が最も高く、そのうち飛驒圏域が 44.7%と最も高くなっている。

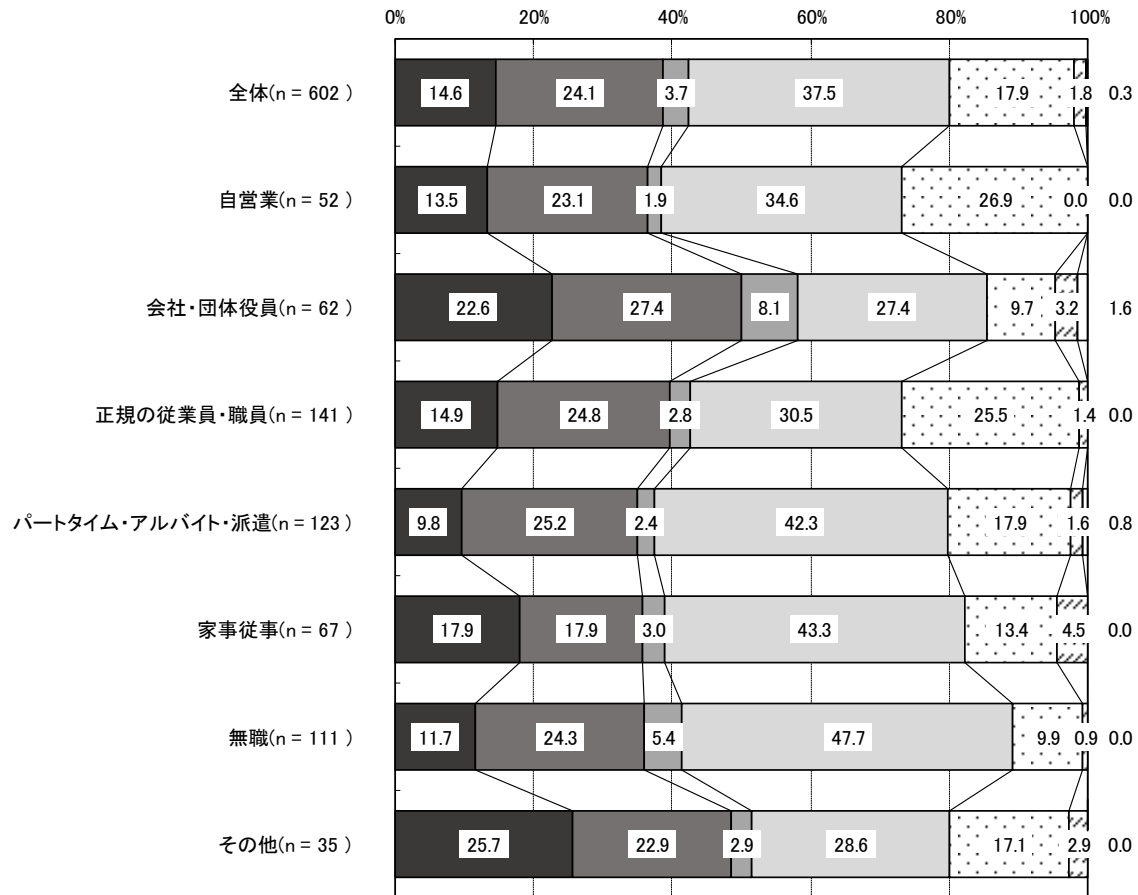
図 9-2-5 【居住圏域別】 県事業に関心がない理由



- 県の行政そのものに興味がないから
- 県がどのような仕事をしているのか知らないから
- 県の仕事は、自分に関係がないから
- 県の施設を利用したり、県の仕事に接する機会が少ないから
- 自分たちの意見が反映されるとは思えないから
- その他
- 無回答

職業別（図 9-2-6）で見ると、いずれの職業においても「県の施設を利用したり、県の仕事に接する機会が少ないから」が最も高く（会社・団体役員は「県がどのような仕事をしているのか知らないから」が 27.4%と同率）なっている。

図 9-2-6 【職業別】 県事業に関心がない理由



- 県の行政そのものに関心がないから
- 県がどのような仕事をしているのか知らないから
- 県の仕事は、自分に関係がないから
- 県の施設を利用したり、県の仕事に接する機会が少ないから
- 自分たちの意見が反映されるとは思えないから
- その他
- 無回答

※ その他には、自由業、学生を含む。

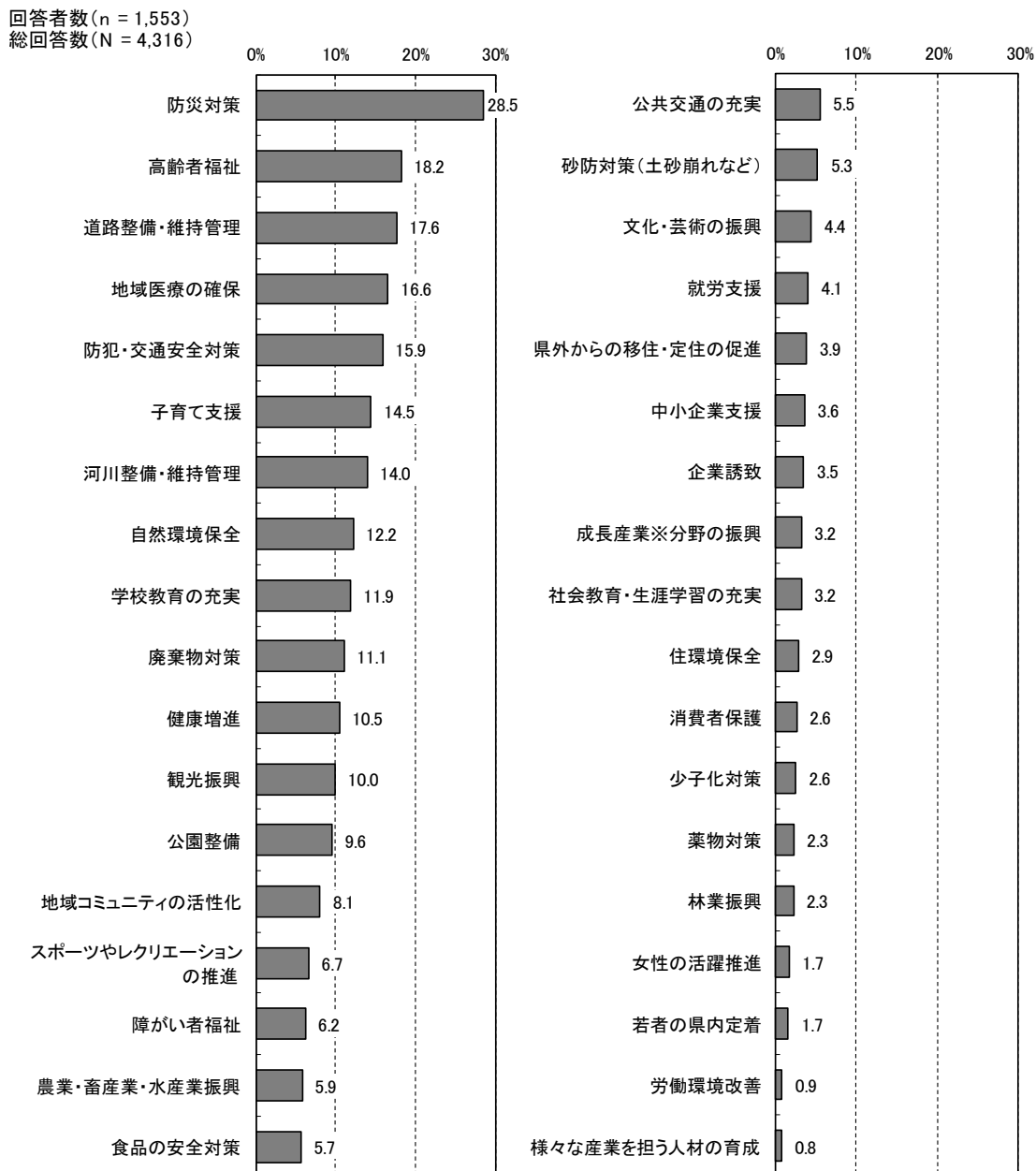
問10 県の取組でよくやっていると思う分野、努力が足りないと思う分野

問10 あなたが、県の取組についてよくやっていると思うのは、どの分野ですか。
また、努力が足りないと思うのは、どの分野ですか。(それぞれ5つまで)

【県の取組でよくやっていると思う分野】

全体(図10-1)でみると、「防災対策」が28.5%と最も高く、次いで「高齢者福祉」(18.2%)、「道路整備・維持管理」(17.6%)の順となっている。

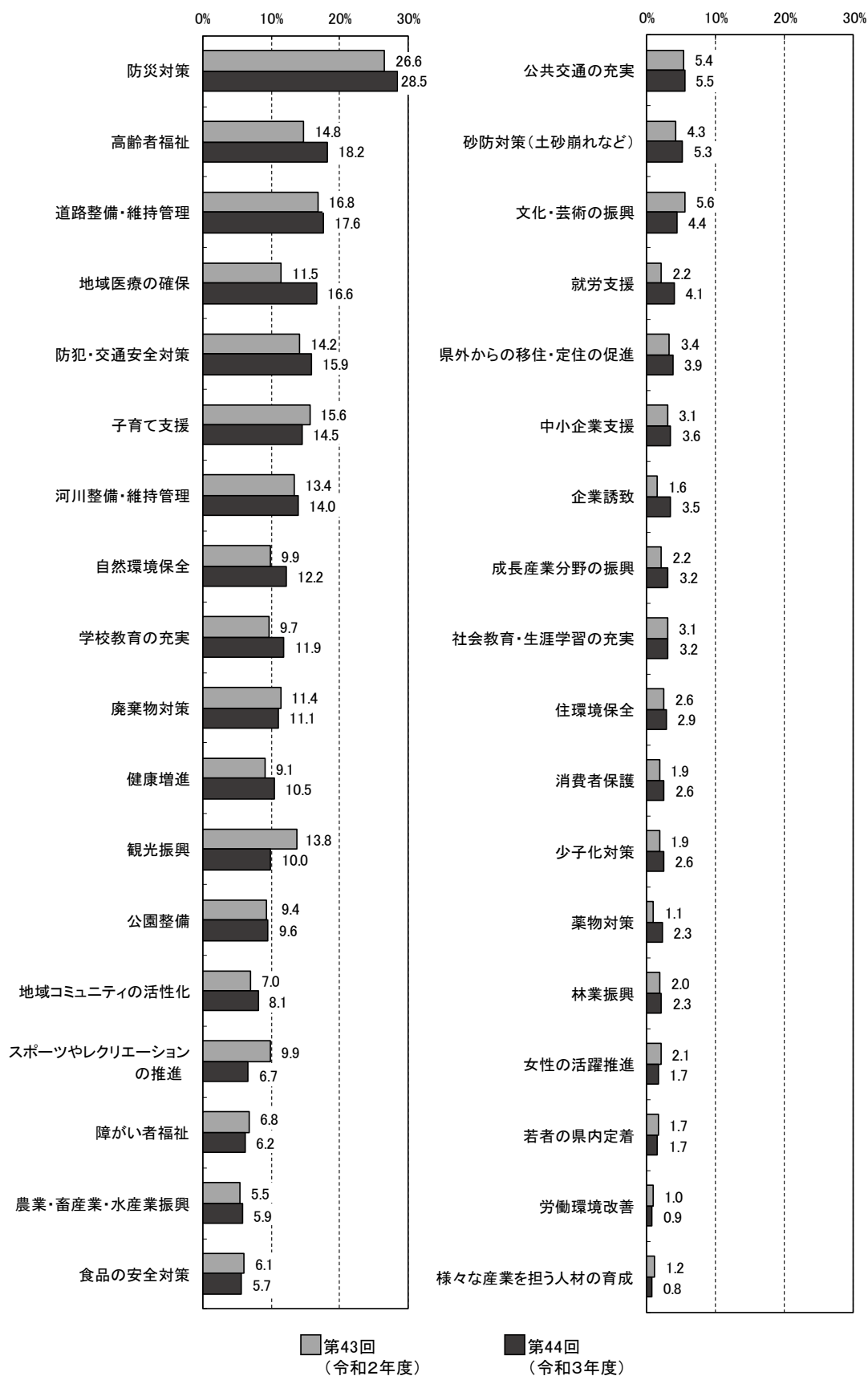
図10-1 県の取組でよくやっていると思う分野



※ 成長産業: 岐阜県においては、航空宇宙、医療福祉機器、医薬品、食料品、次世代エネルギーを位置づけている(令和3年度現在)
 ※ 本問における選択肢は、図表の構成上、以下のとおり略して表示しているものがある。
 ・住環境保全: 騒音・振動・大気・土壌対策などの住環境保全

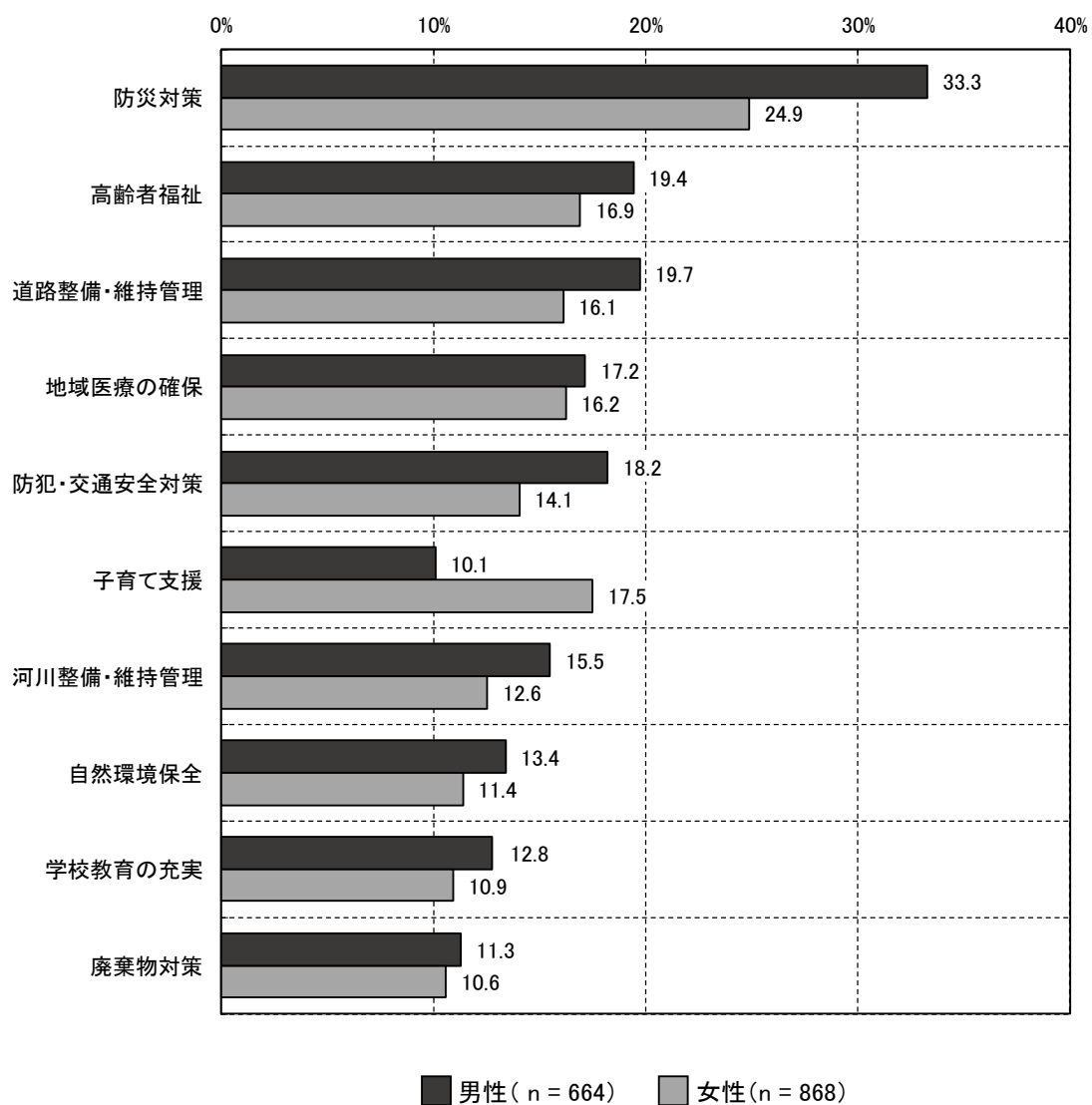
前回比較（図 10-2）で見ると、前回に続き「防災対策」が最も高くなっている。前回第4位の「高齢者福祉」は第2位に、前回第2位の「道路整備・維持管理」は第3位に、前回第8位の「地域医療の確保」は第4位となっている。

図 10-2 【前回比較】 県の取組でよくやっていると思う分野



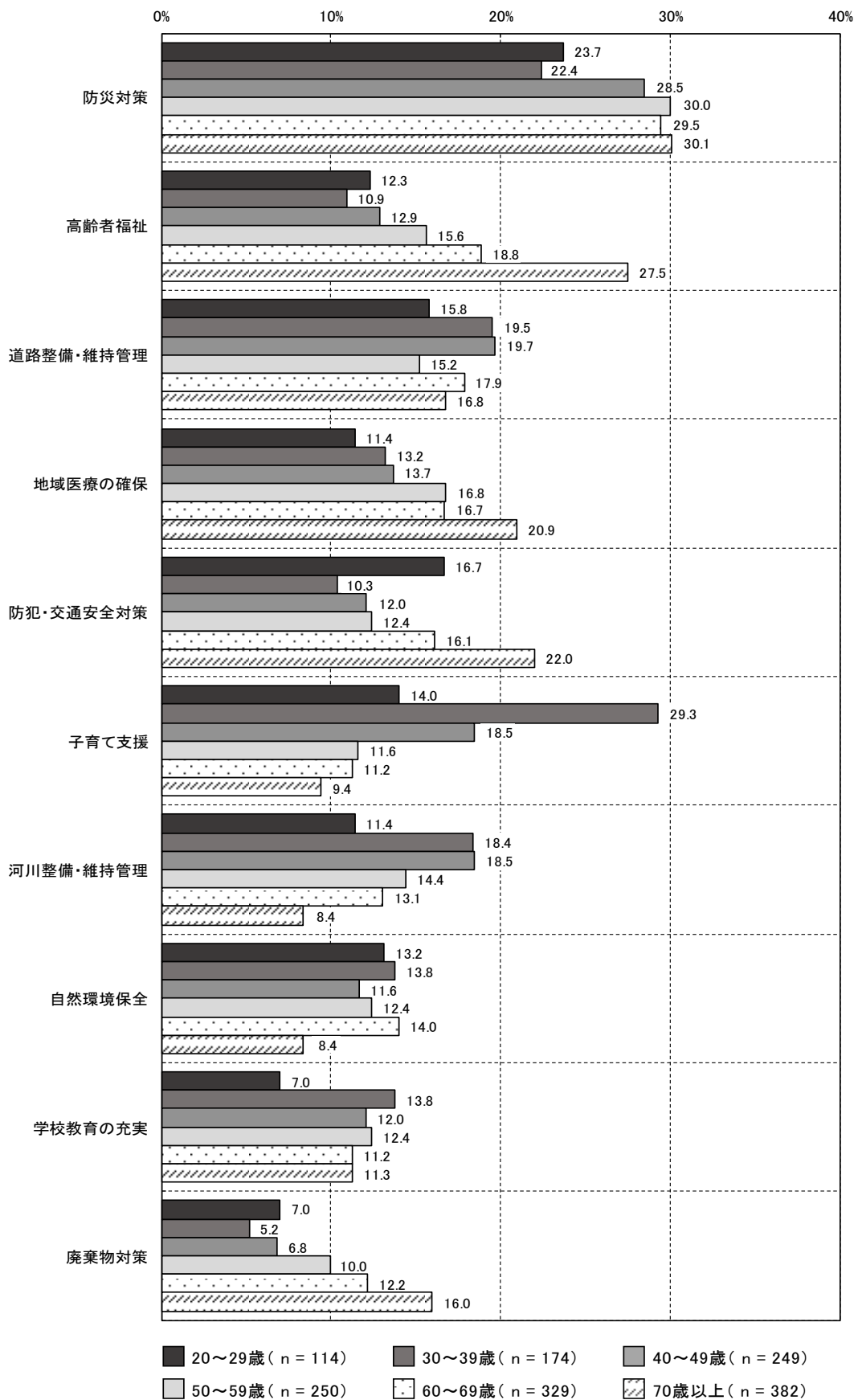
性別（図 10-3）で見ると、男女ともに「防災対策」が最も高く、次いで、男性は「道路整備・維持管理」（19.7%）、女性は「子育て支援」（17.5%）となっている。

図 10-3 【性別】 県の取組でよくやっていると思う分野(上位 10 施策)



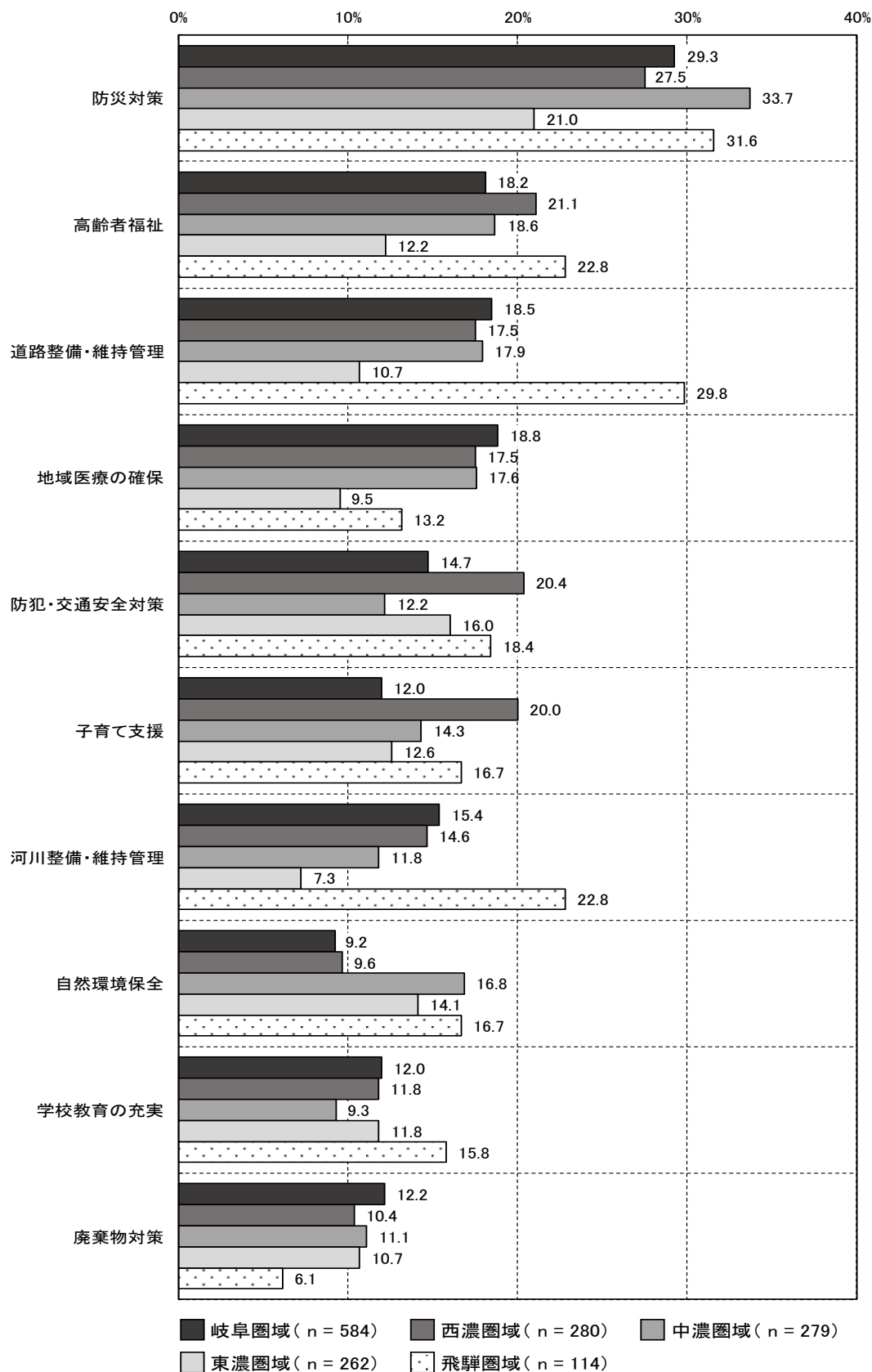
年代別（図 10-4）で見ると、30 歳代を除くすべての年代で「防災対策」が最も高く、30 歳代では「子育て支援」（29.3%）が最も高くなっている。

図 10-4 【年代別】 県の取組でよくやっていると思う分野（上位 10 施策）



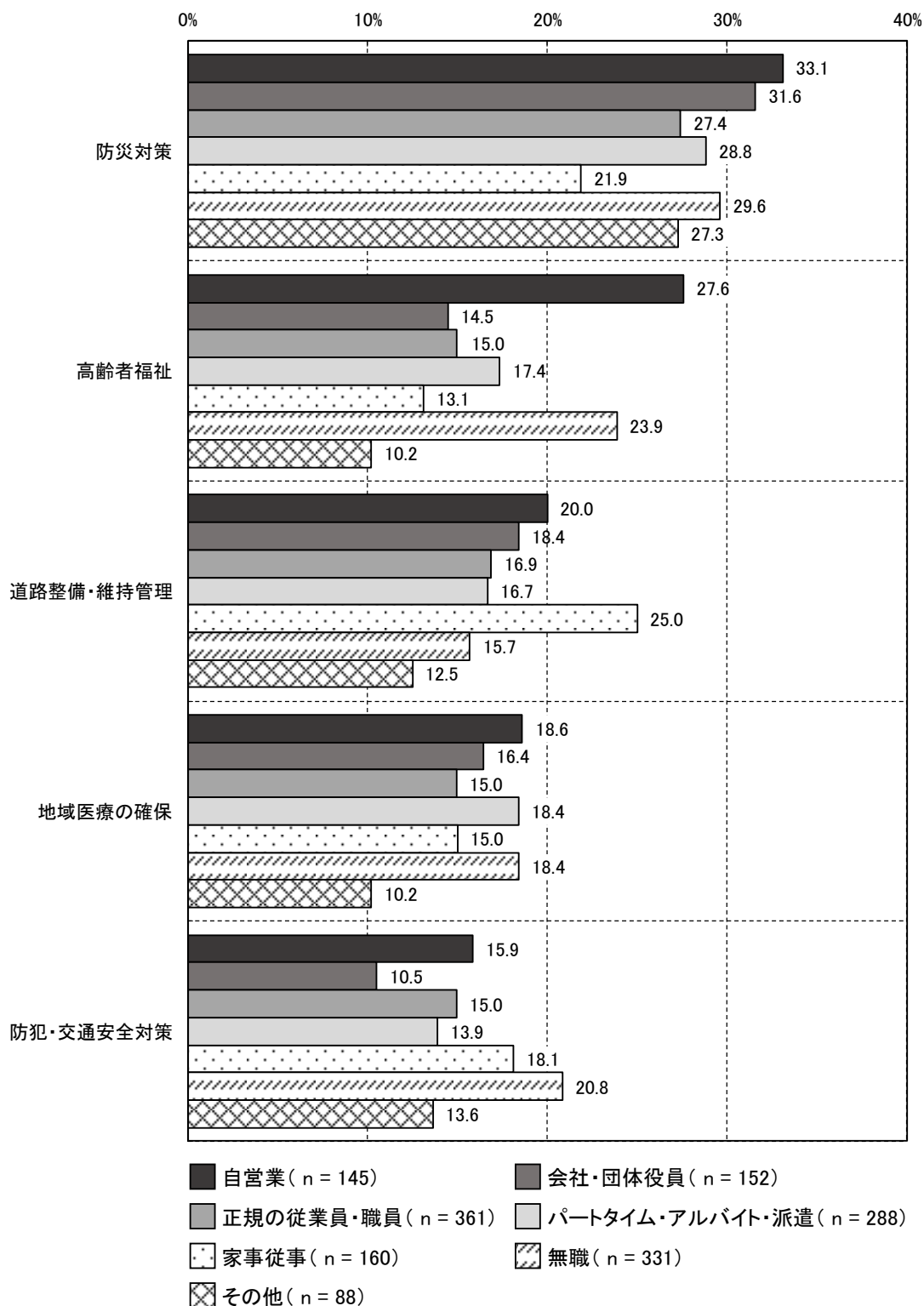
居住圏域別（図 10-5）で見ると、いずれの居住圏域においても「防災対策」が最も高くなっている。飛騨圏域では「道路整備・維持管理」が 29.8%と、他の圏域に比べて高くなっている。

図 10-5 【居住圏域別】 県の取組でよくやっていると思う分野(上位 10 施策)



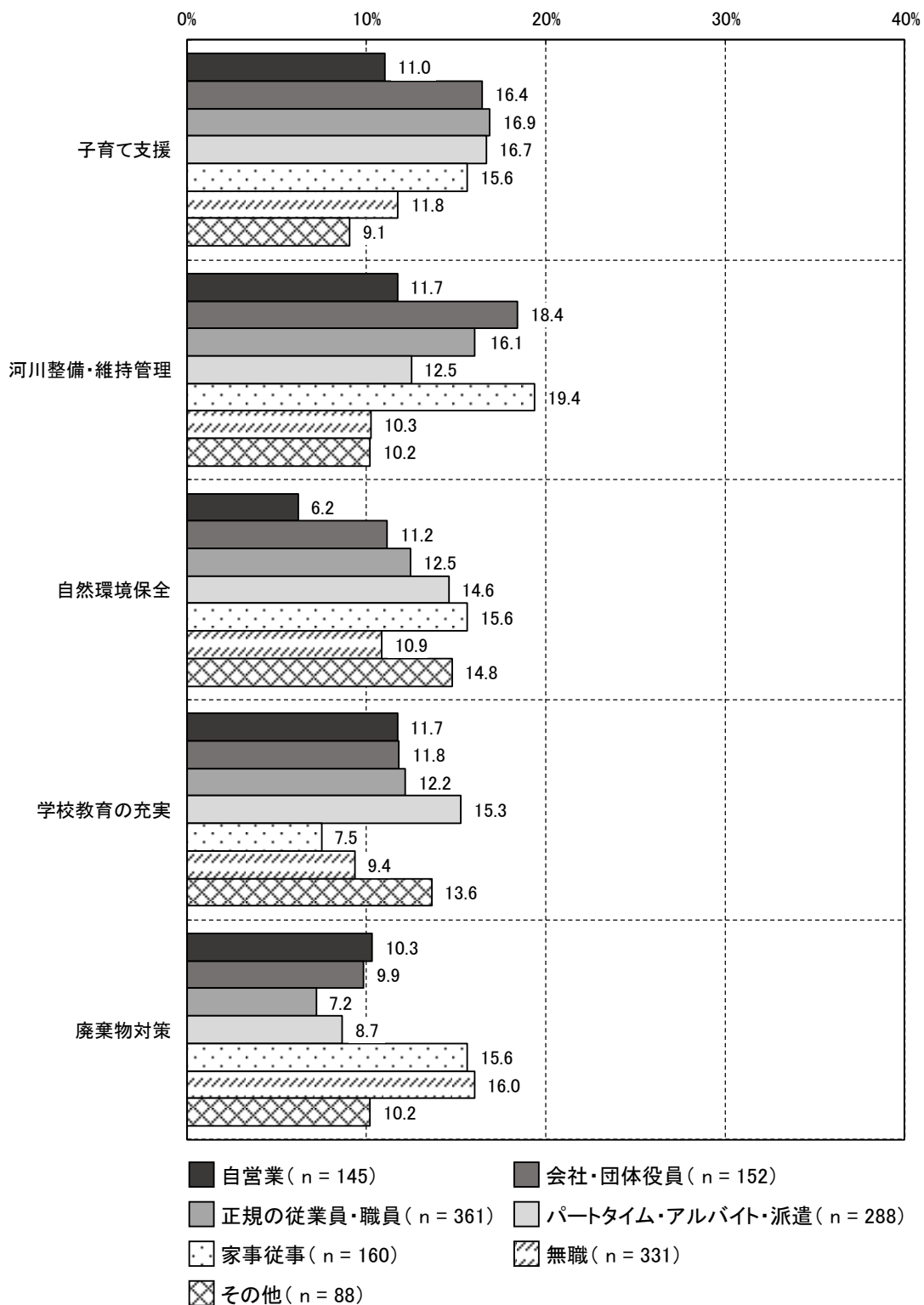
職業別（図 10-6）でみると、家事従事を除くいずれの職業においても「防災対策」が最も高く、家事従事は「道路整備・維持管理」が最も高くなっている。

図 10-6 【職業別】 県の取組でよくやっていると思う分野（上位 10 施策）



※ その他には、自由業、学生を含む。

図 10-6 【職業別】 県の取組でよくやっていると思う分野(上位 10 施策) (続き)

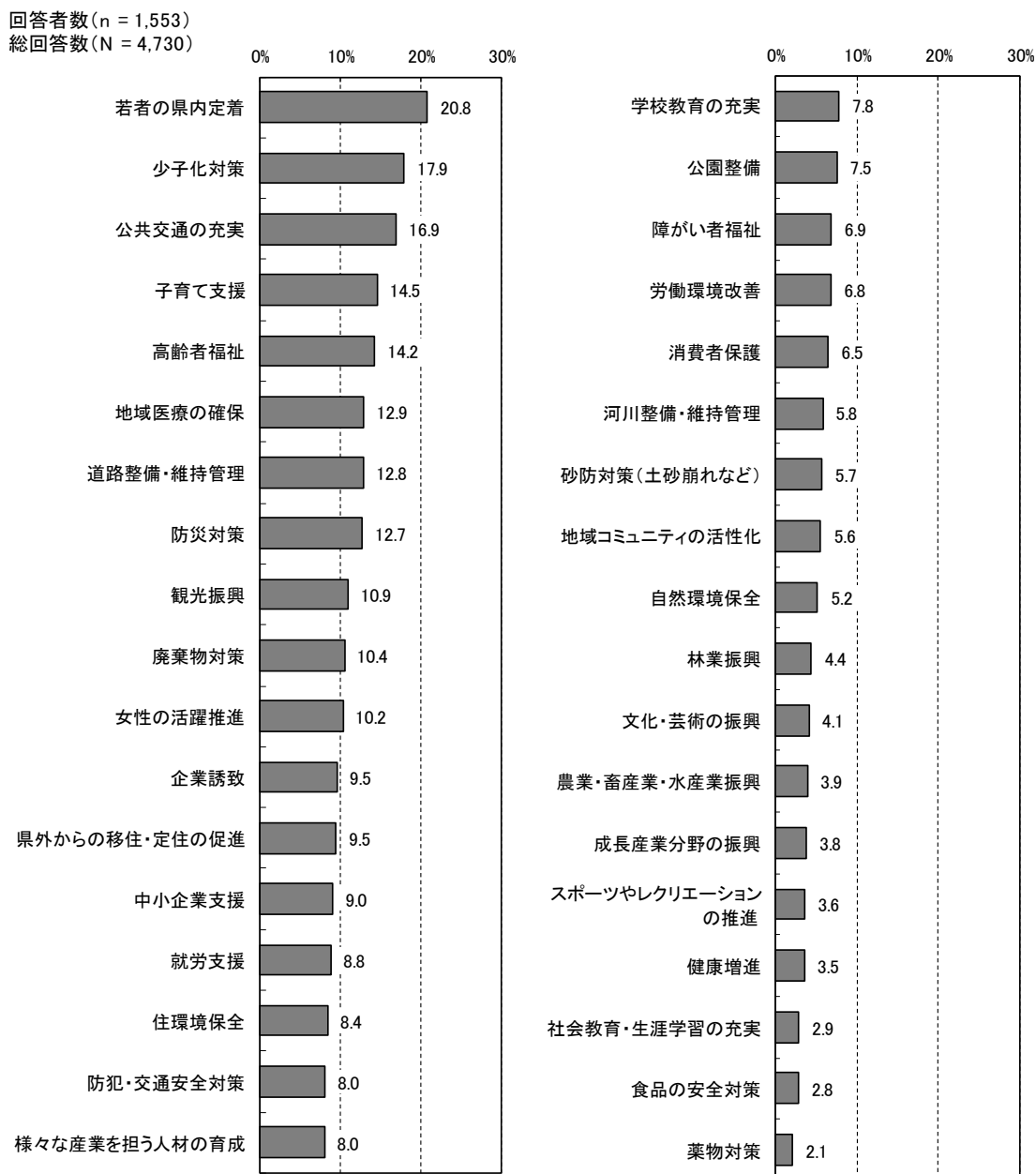


※ その他には、自由業、学生を含む。

【県の取組で努力が足りないと思う分野】

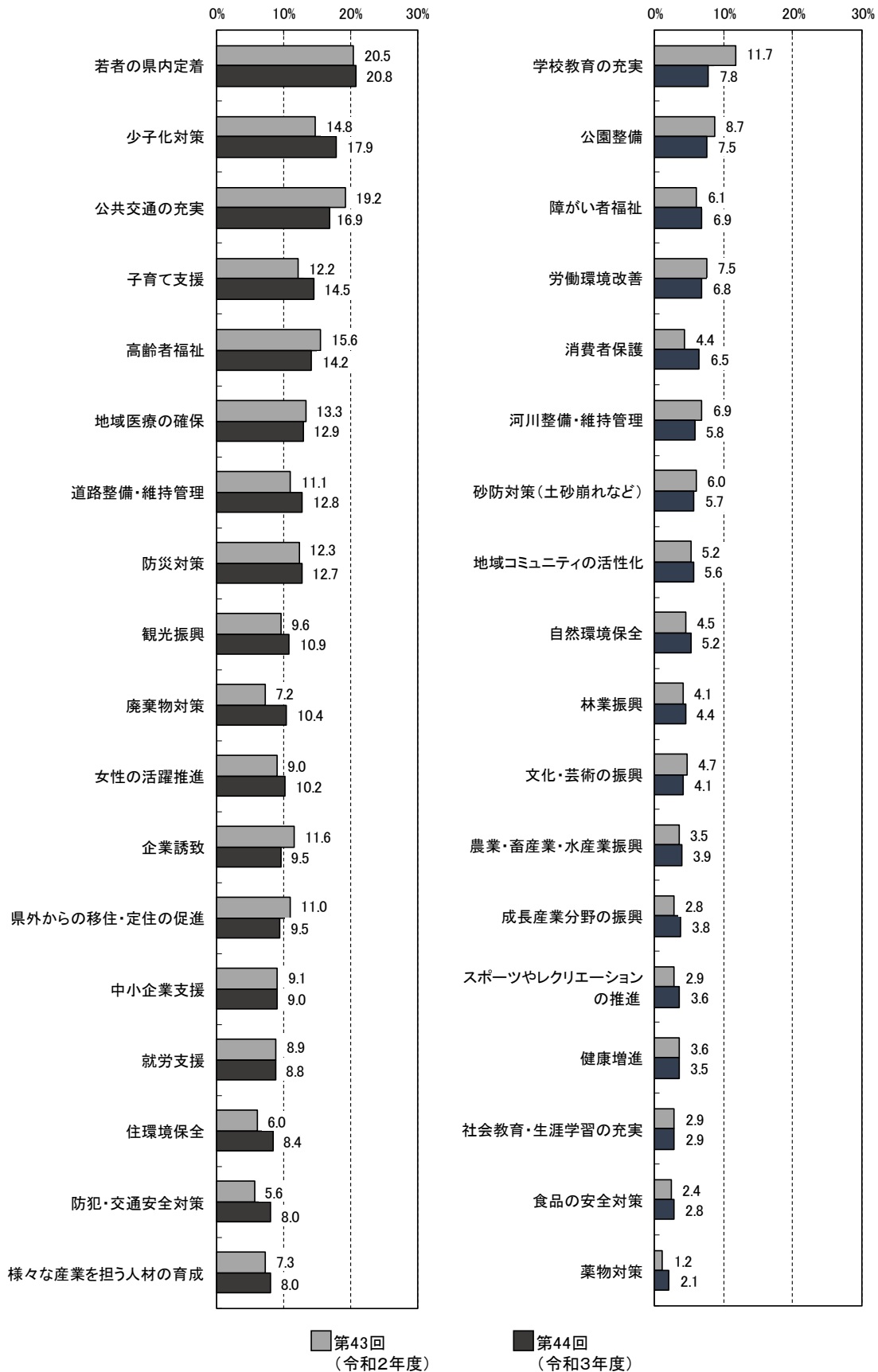
全体（図 10-2-1）で見ると、「若者の県内定着」が 20.8%と最も高く、次いで「少子化対策」（17.9%）、「公共交通の充実」（16.9%）の順となっている。

図 10-2-1 県の取組で努力が足りないと思う分野



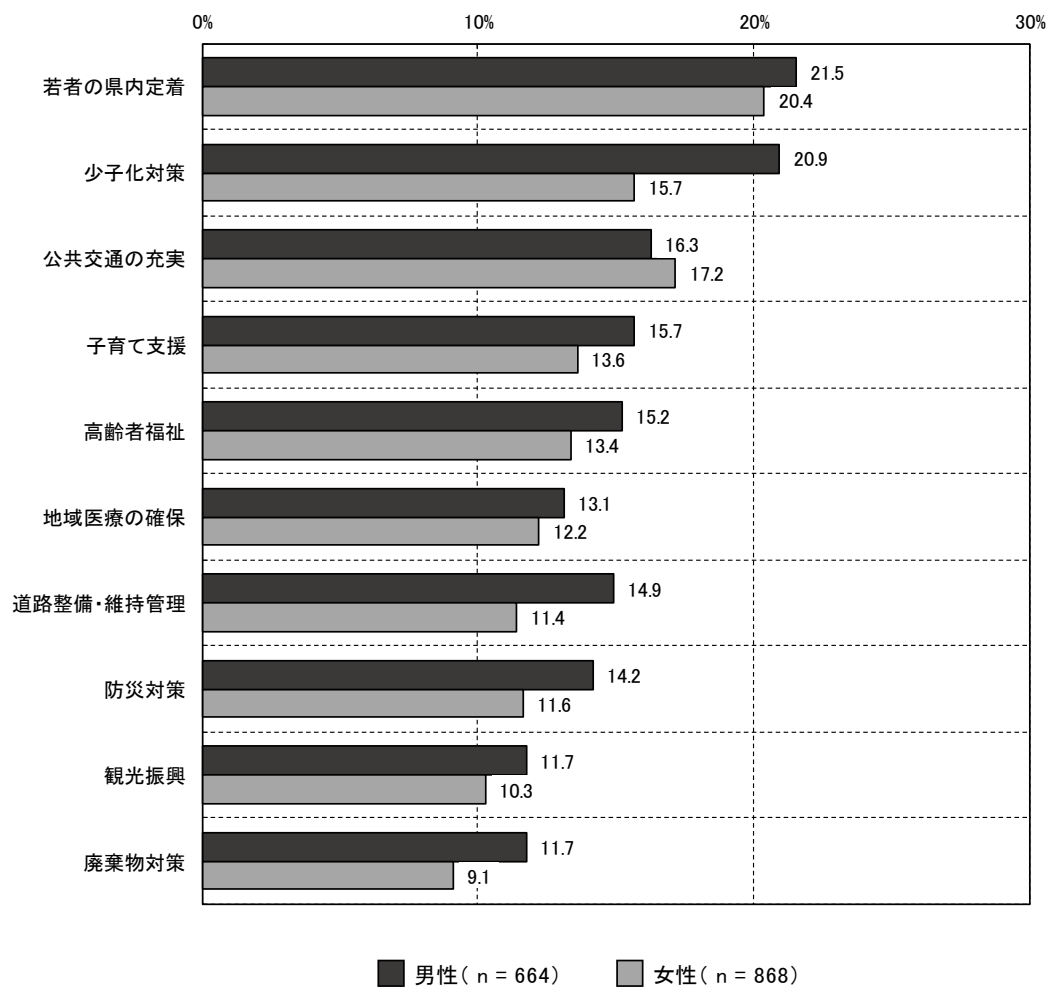
前回比較（図 10-2-2）でみると、前回に続き「若者の県内定着」が最も高く、前回第 4 位の「少子化対策」は第 2 位に、前回第 7 位の「子育て支援」は第 4 位となっている。

図 10-2-2 【前回比較】 県の取組で努力が足りないと思う分野



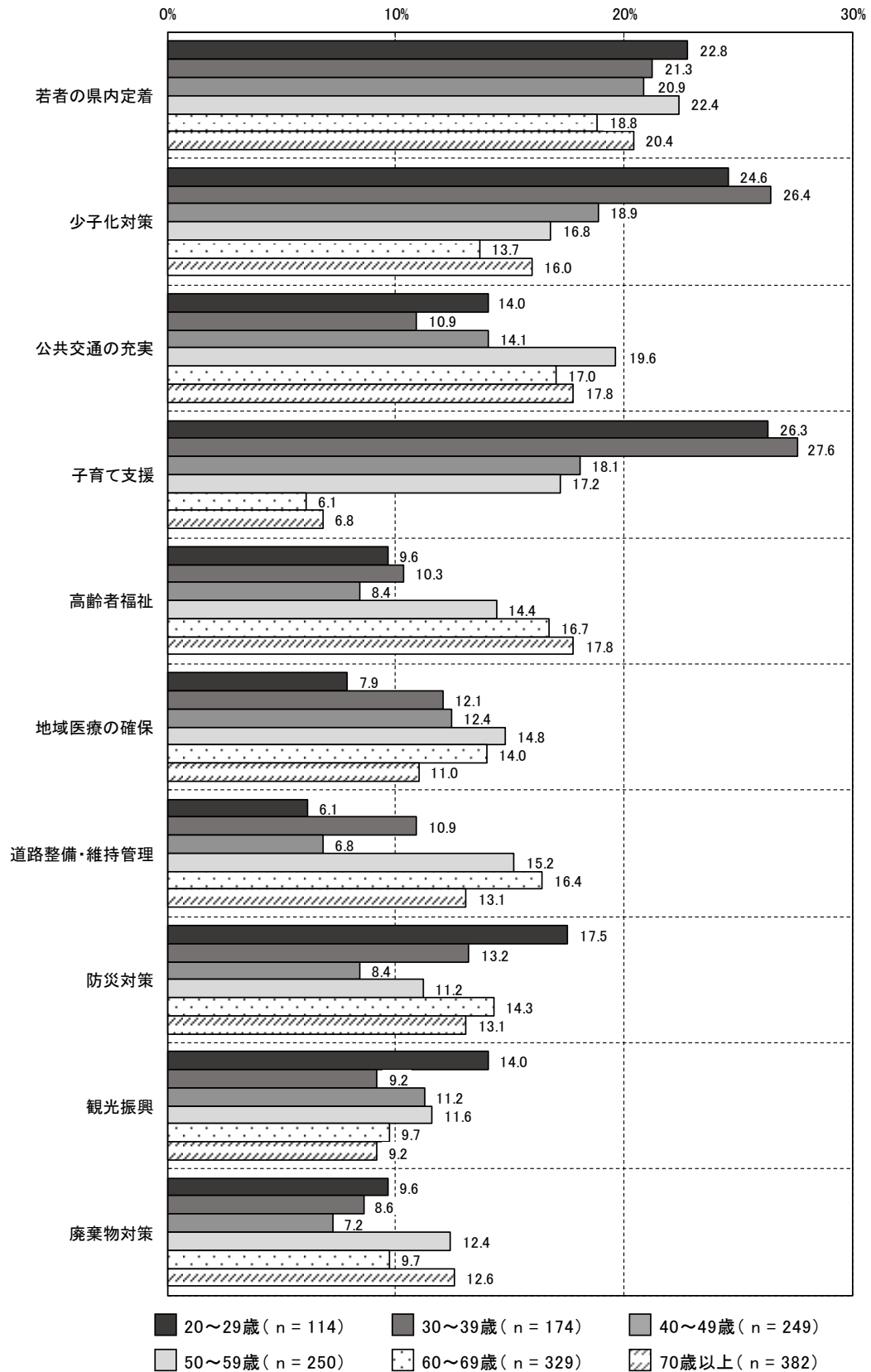
性別（図 10-2-3）で見ると、男女ともに「若者の県内定着」が最も高く、次いで、男性は「少子化対策」、女性では「公共交通の充実」となっている。

図 10-2-3 【性別】 県の取組で努力が足りないと思う分野(上位 10 施策)



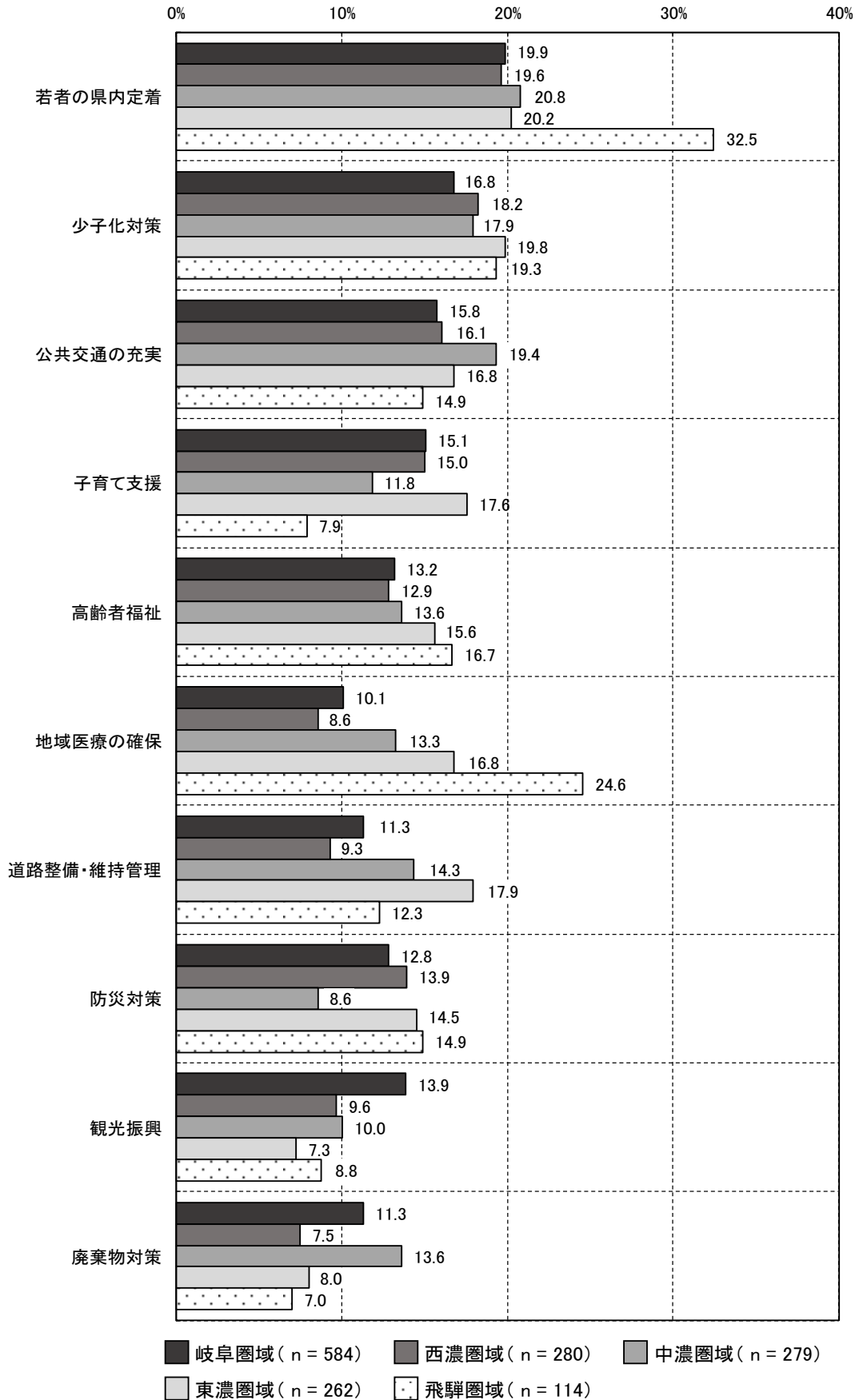
年代別（図 10-2-4）で見ると、20 歳代、30 歳代は「子育て支援」が最も高く、40 歳代、50 歳代、60 歳代、70 歳代以上は「若者の県内定着」が最も高くなっている。

図 10-2-4 【年代別】 県の取組で努力が足りないと思う分野(上位 10 施策)



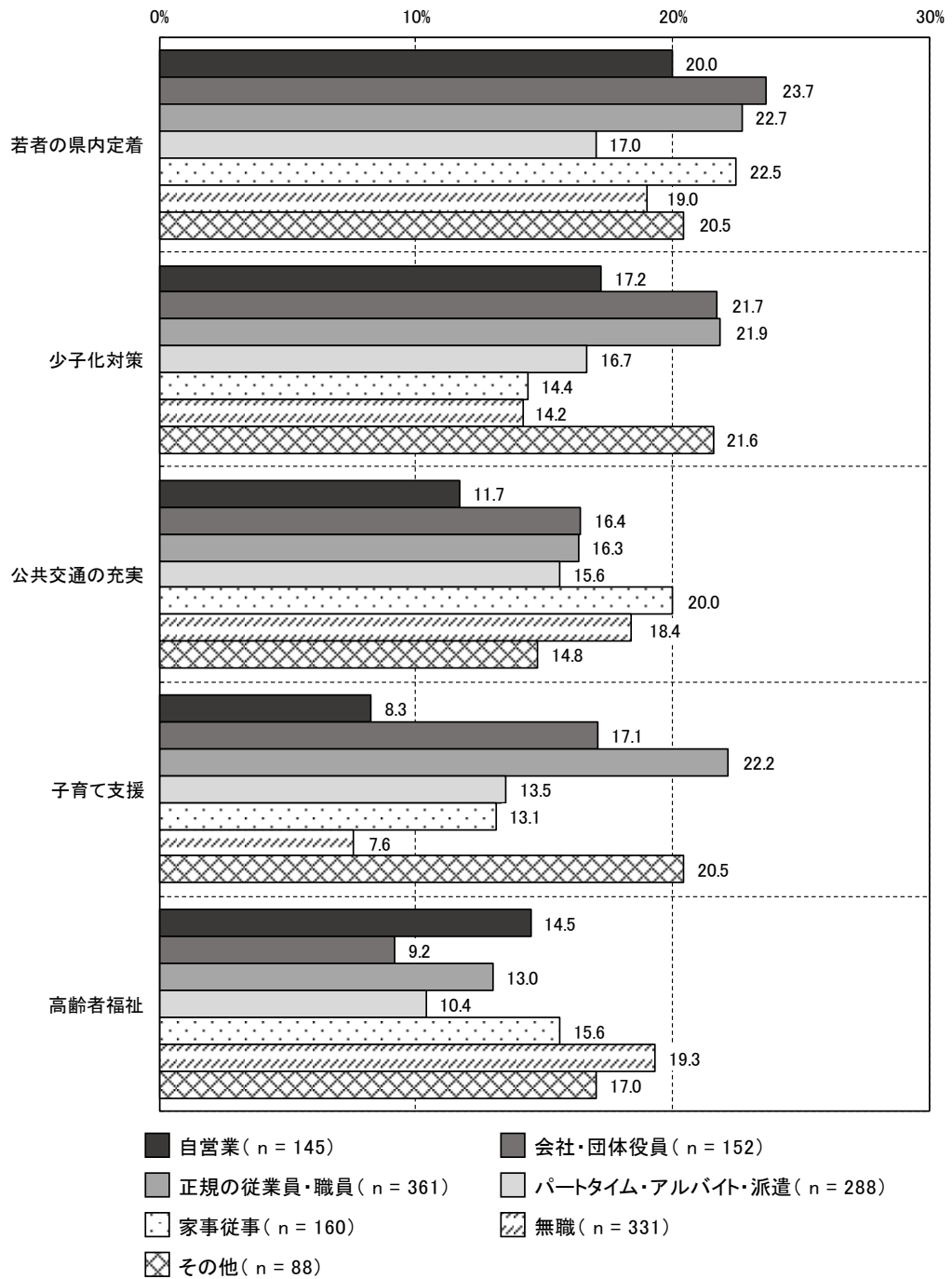
居住圏域別（図 10-2-5）で見ると、いずれの居住圏域においても「若者の県内定着」が最も高くなっている。

図 10-2-5 【居住圏域別】 県の取組で努力が足りないと思う分野(上位 10 施策)



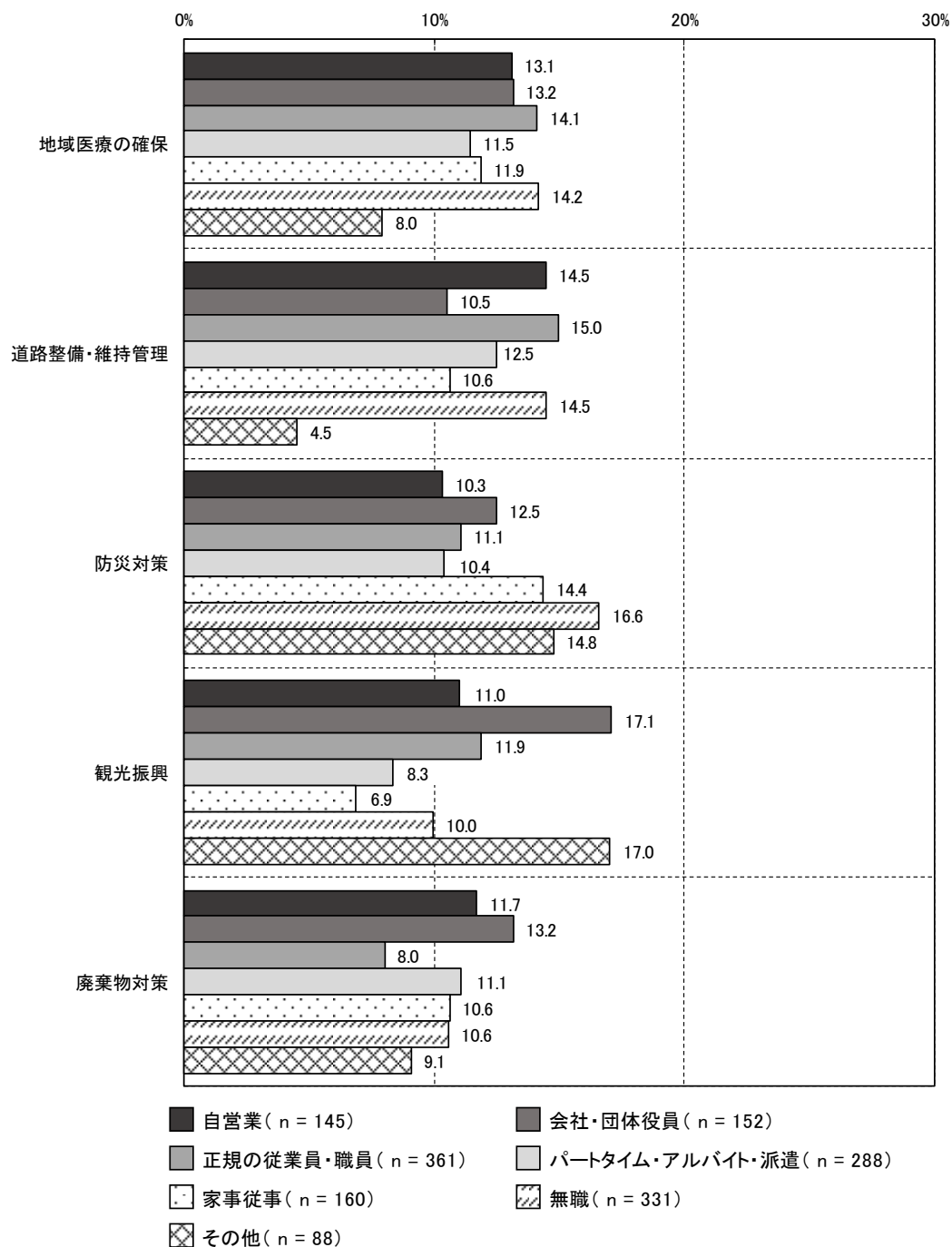
職業別（図 10-2-6）でみると、自営業、会社・団体役員、正規の従業員・職員、パートタイム・アルバイト・派遣、家事従事は「若者の県内定着」が最も高く、無職では「高齢者福祉」が最も高くなっている。

図 10-2-6 【職業別】 県の取組で努力が足りないと思う分野(上位 10 施策)



※ その他には、自由業、学生を含む。

図 10-2-6 【職業別】 県の実施で努力が足りないと思う分野(上位 10 施策) (続き)



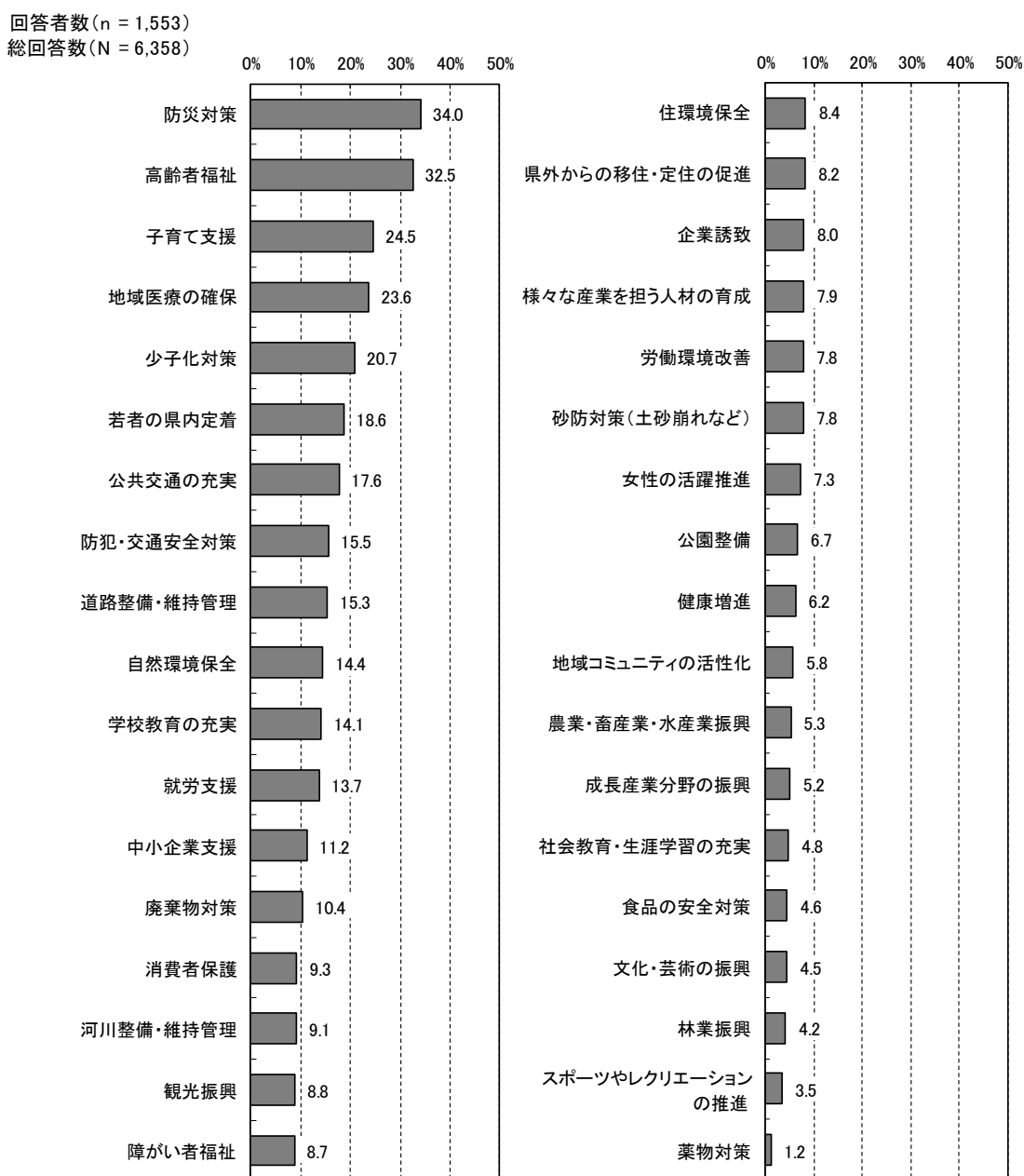
※ その他には、自由業、学生を含む。

問11 重点的に進めるべきだと思う分野

問11 あなたは、今後、県がどのような分野を重点的に進めるべきだと思いますか。
(5つまで)

全体(図11-1)でみると、「防災対策」が34.0%と最も高く、次いで「高齢者福祉」(32.5%)、「子育て支援」(24.5%)の順となっている。

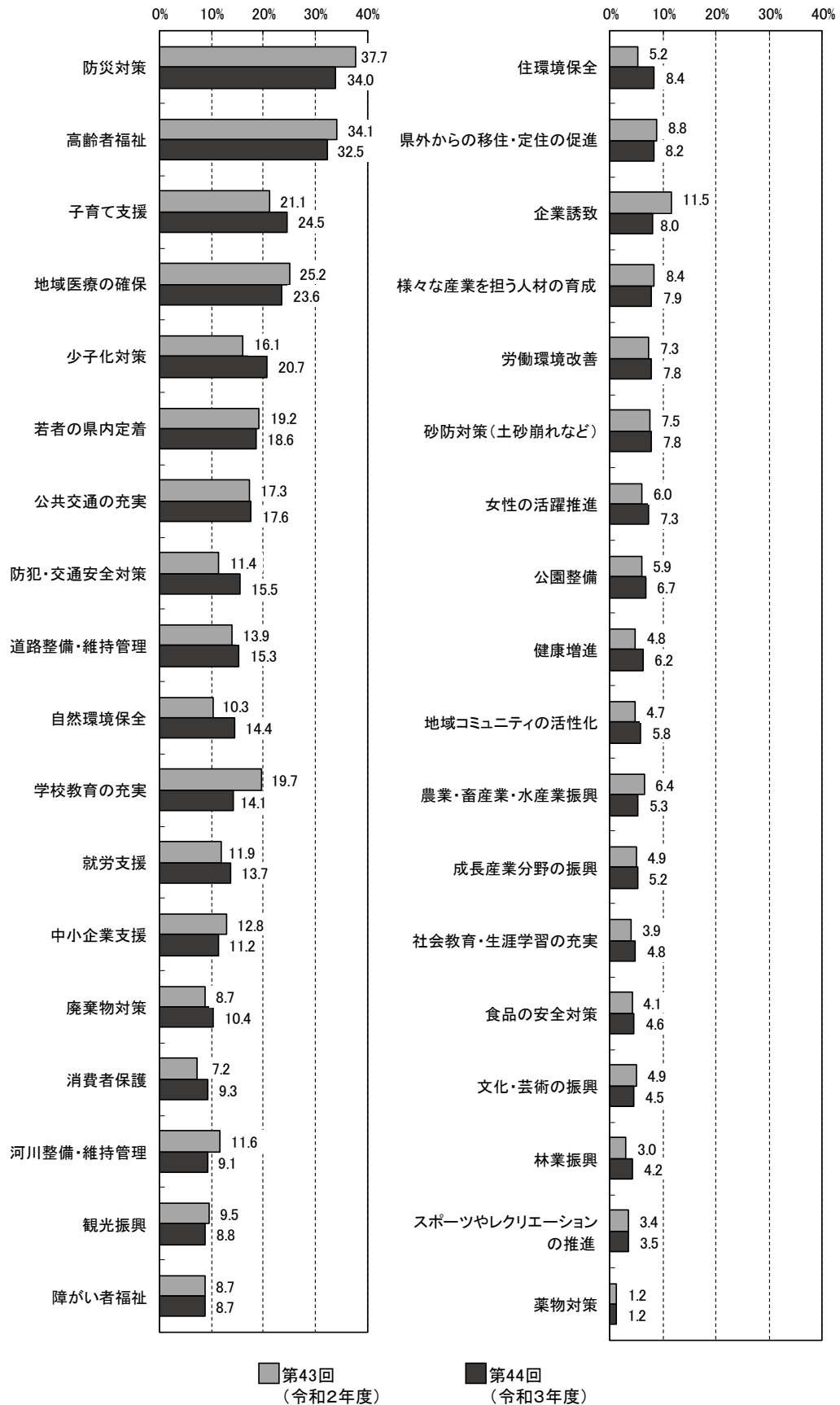
図11-1 重点的に進めるべきだと思う分野



※ 本問における選択肢は、図表の構成上、以下のとおり略して表示しているものがある。
・住環境保全: 騒音・振動・大気・土壌対策などの住環境保全

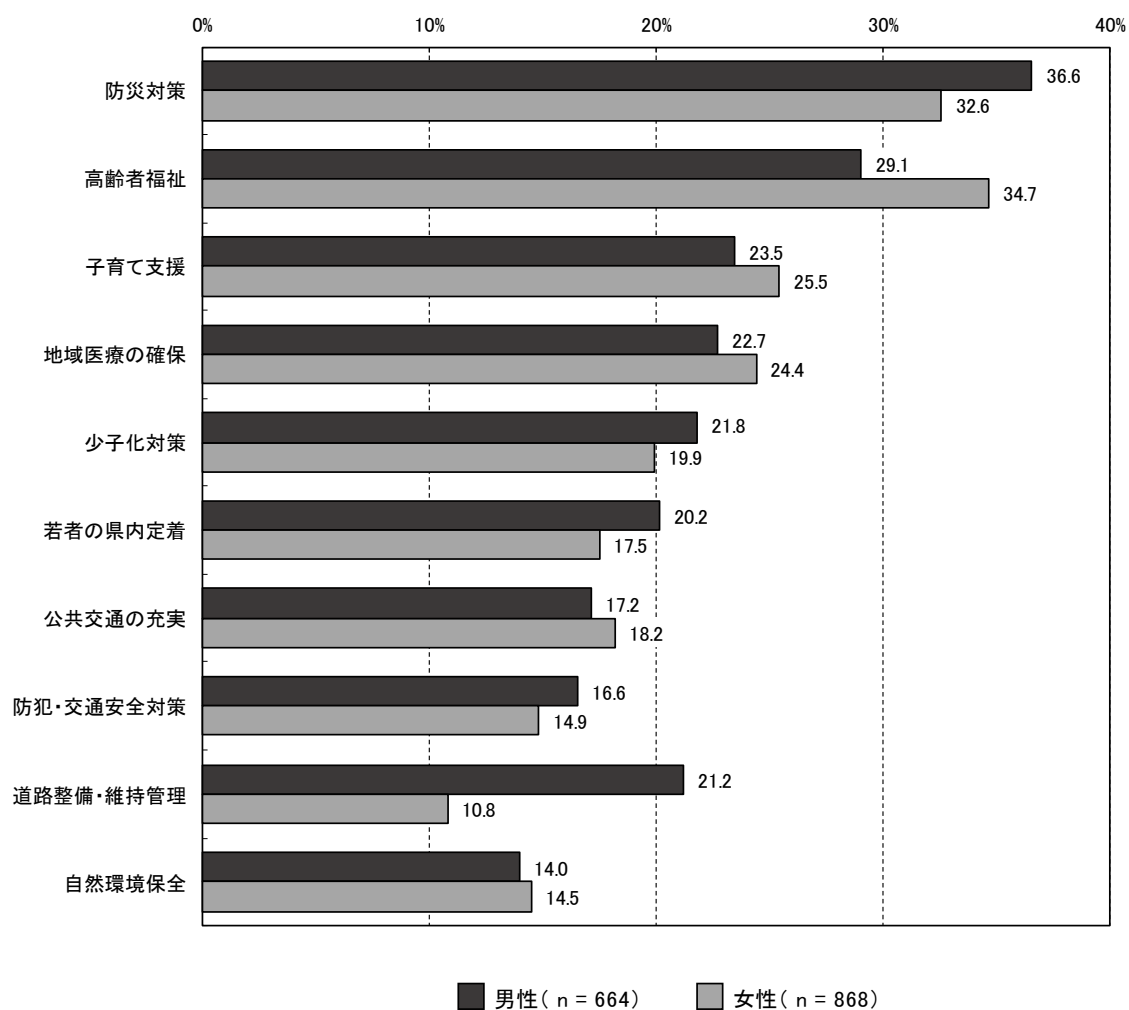
前回比較（図 11-2）でみると、前回に続き「防災対策」が最も高く、次いで「高齢者福祉」となっている。

図 11-2 【前回比較】 重点的に進めるべきだと思う分野



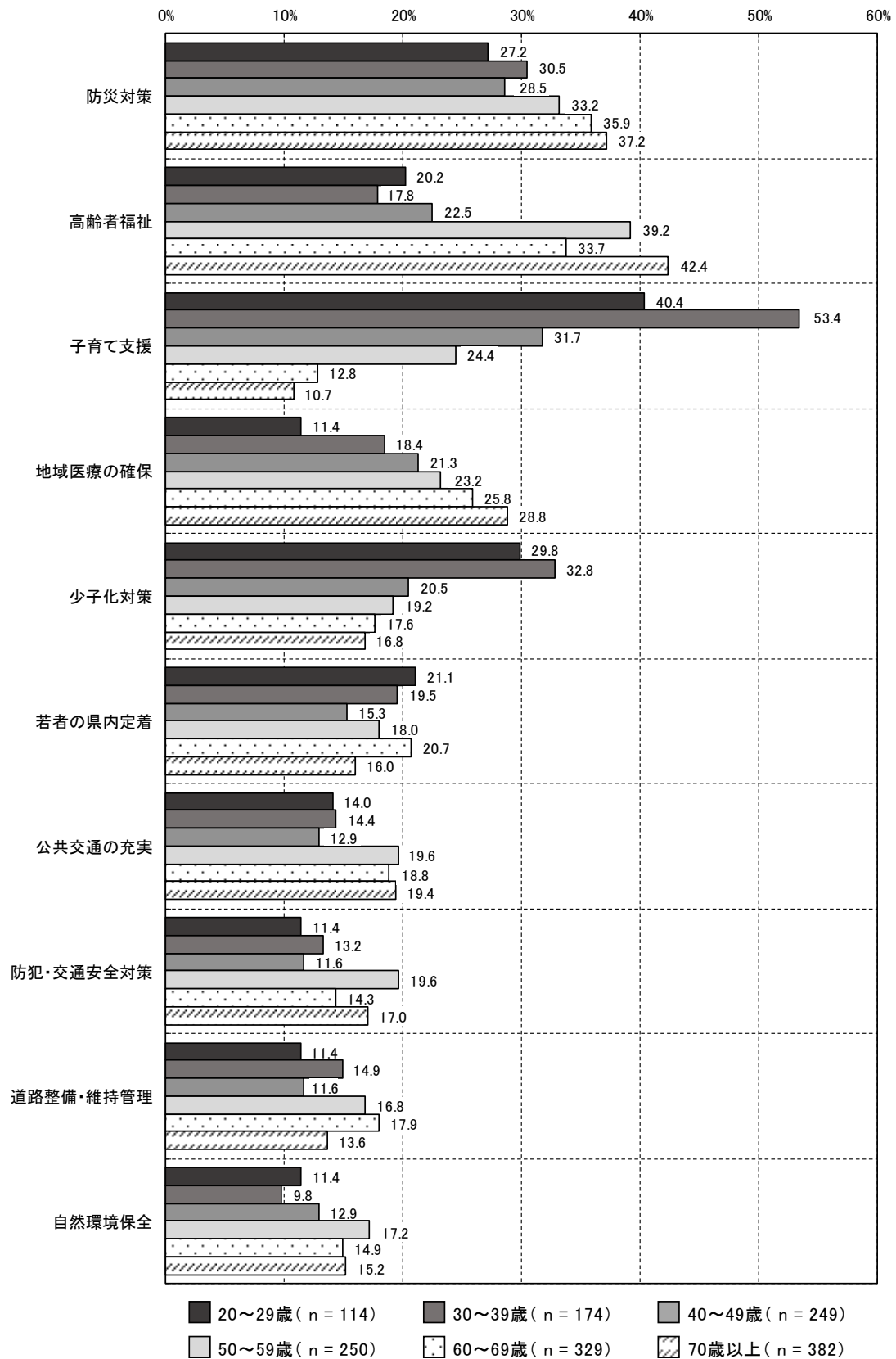
性別（図 11-3）で見ると、男性は「防災対策」が最も高く、女性は「高齢者福祉」が最も高くなっている。

図 11-3 【性別】 重点的に進めるべきだと思う分野（上位 10 施策）



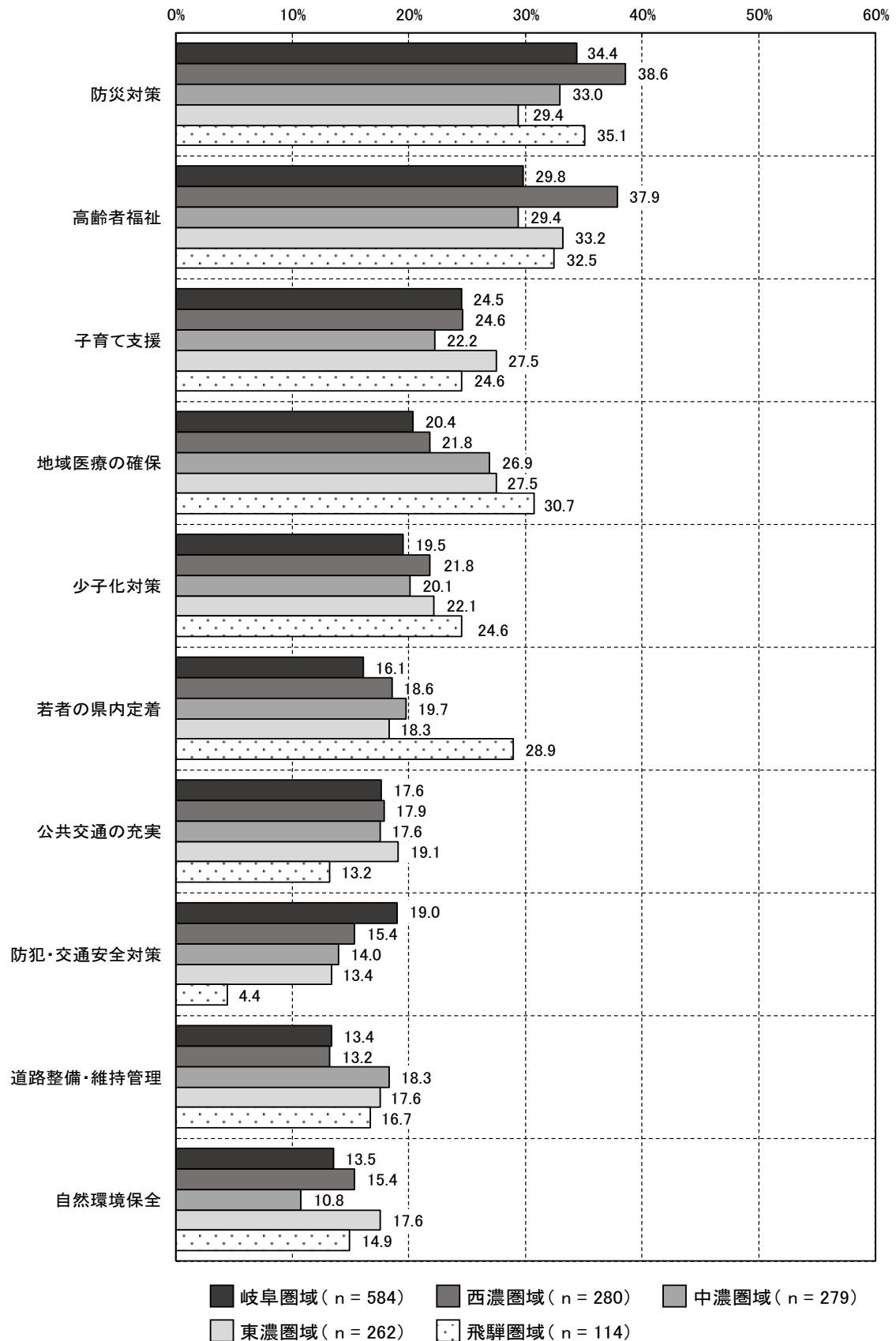
年代別（図 11-4）で見ると、20 歳代、30 歳代、40 歳代は「子育て支援」が、50 歳代、70 歳以上は「高齢者福祉」が、60 歳代は「防災対策」が最も高くなっている。

図 11-4 【年代別】 重点的に進めるべきだと思う分野(上位 10 施策)



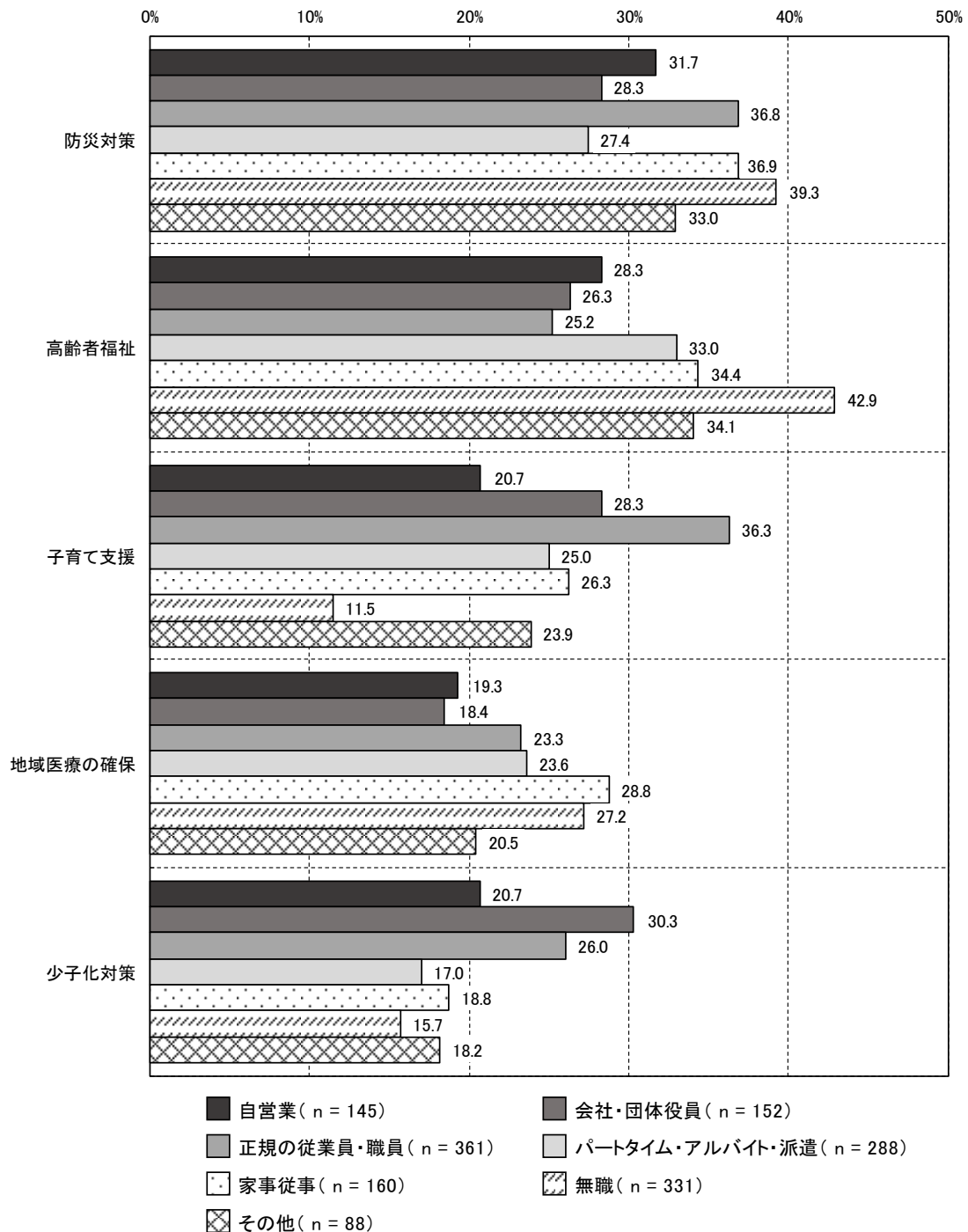
居住圏域別（図 11-5）でみると、東濃圏域を除くいずれの圏域においても「防災対策」が最も高く、東濃圏域では「高齢者福祉」が最も高くなっている。飛騨圏域では「若者の県内定着」が他の圏域に比べて高くなっている。

図 11-5 【居住圏域別】 重点的に進めるべきだと思う分野(上位 10 施策)



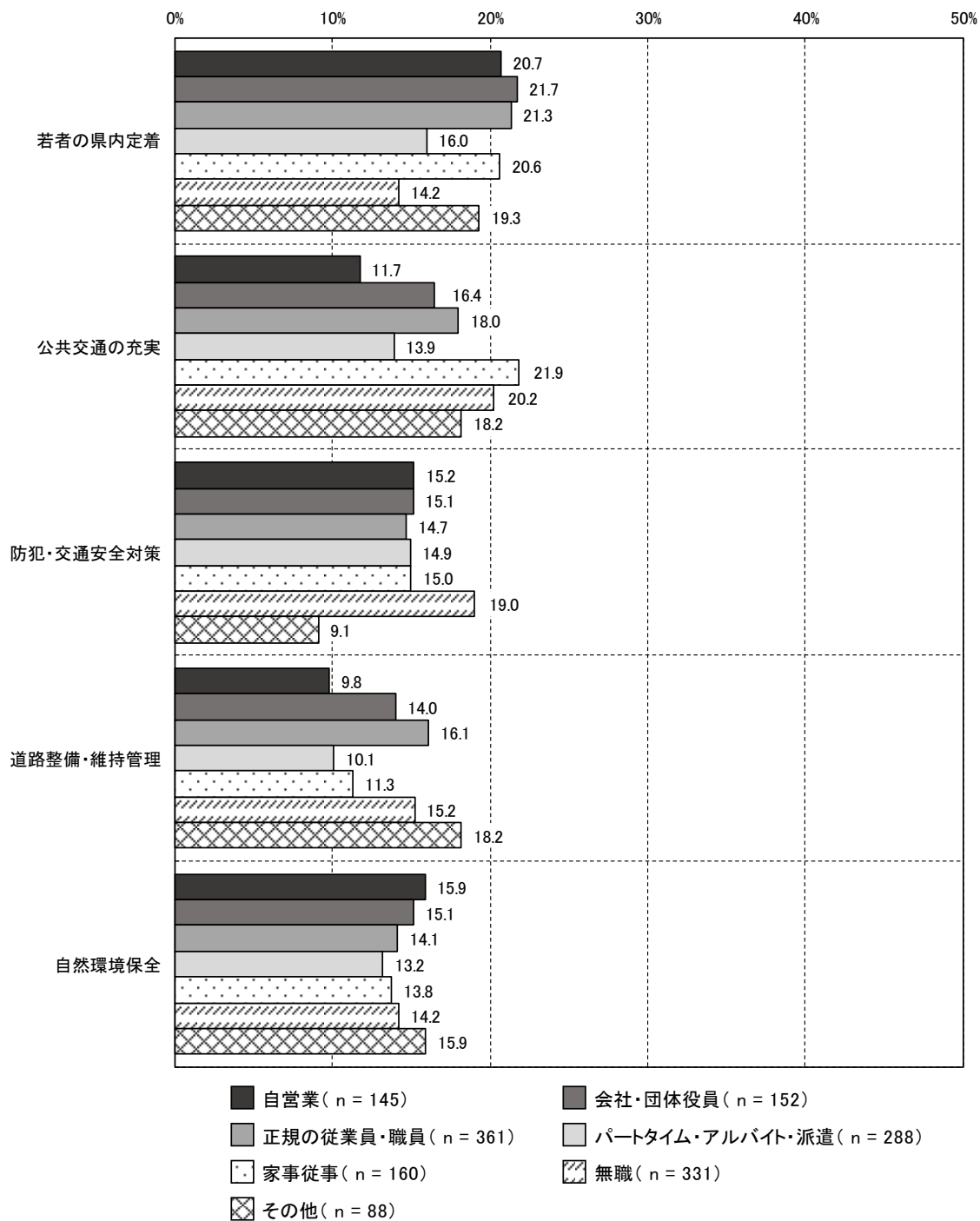
職業別（図 11-6）で見ると、自営業、正規の従業員・職員、家事従事は「防災対策」が、会社・団体役員は「少子化対策」が、パートタイム・アルバイト・派遣、無職、その他は「高齢者福祉」が最も高くなっている。

図 11-6 【職業別】 重点的に進めるべきだと思う分野(上位 10 施策)



※ その他には、自由業、学生を含む。

図 11-6 【職業別】 重点的に進めるべきだと思う分野（続き）



※ その他には、自由業、学生を含む。